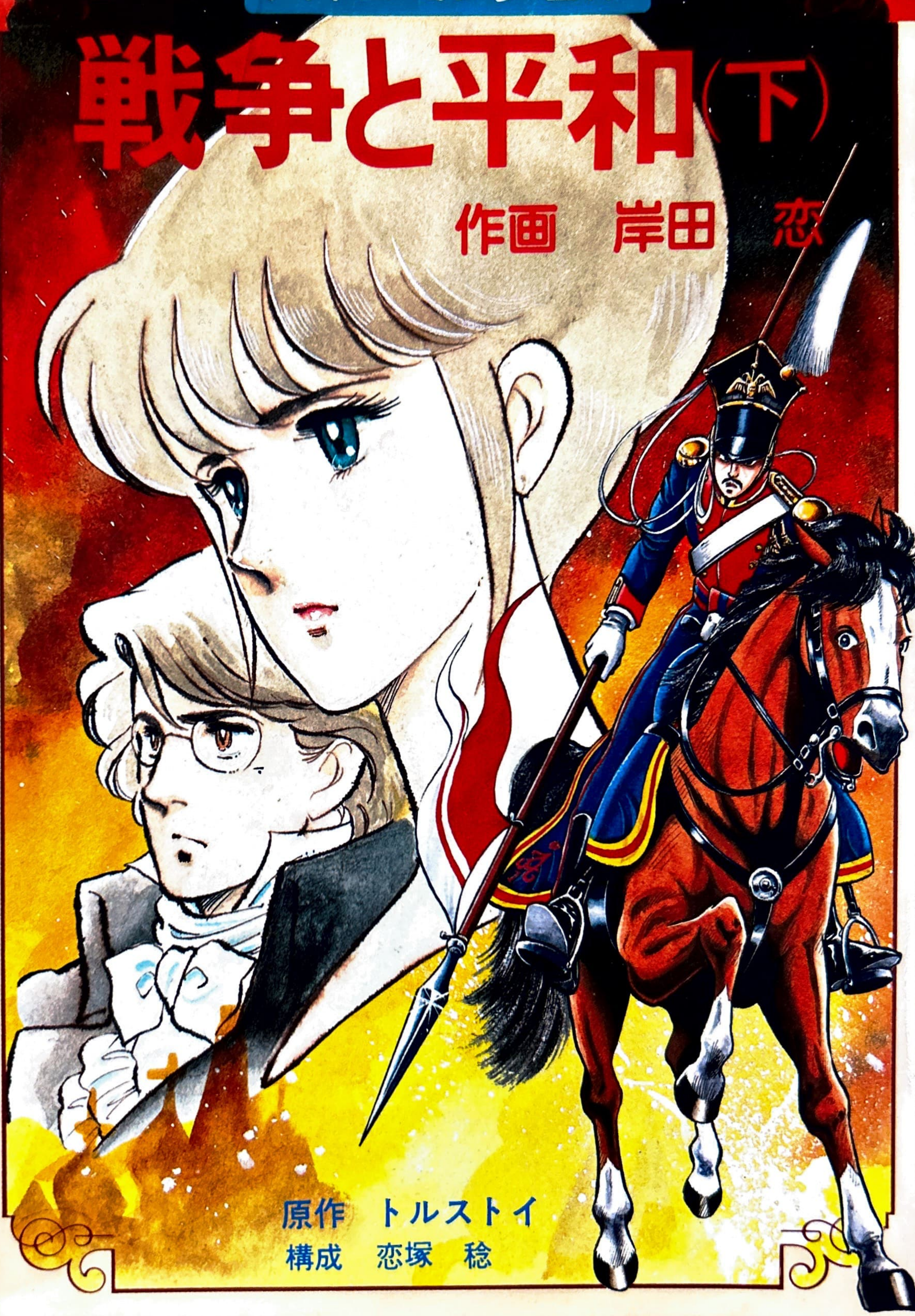
ハイコミック名作

戦争と平和（下）

作画　岸田　恋



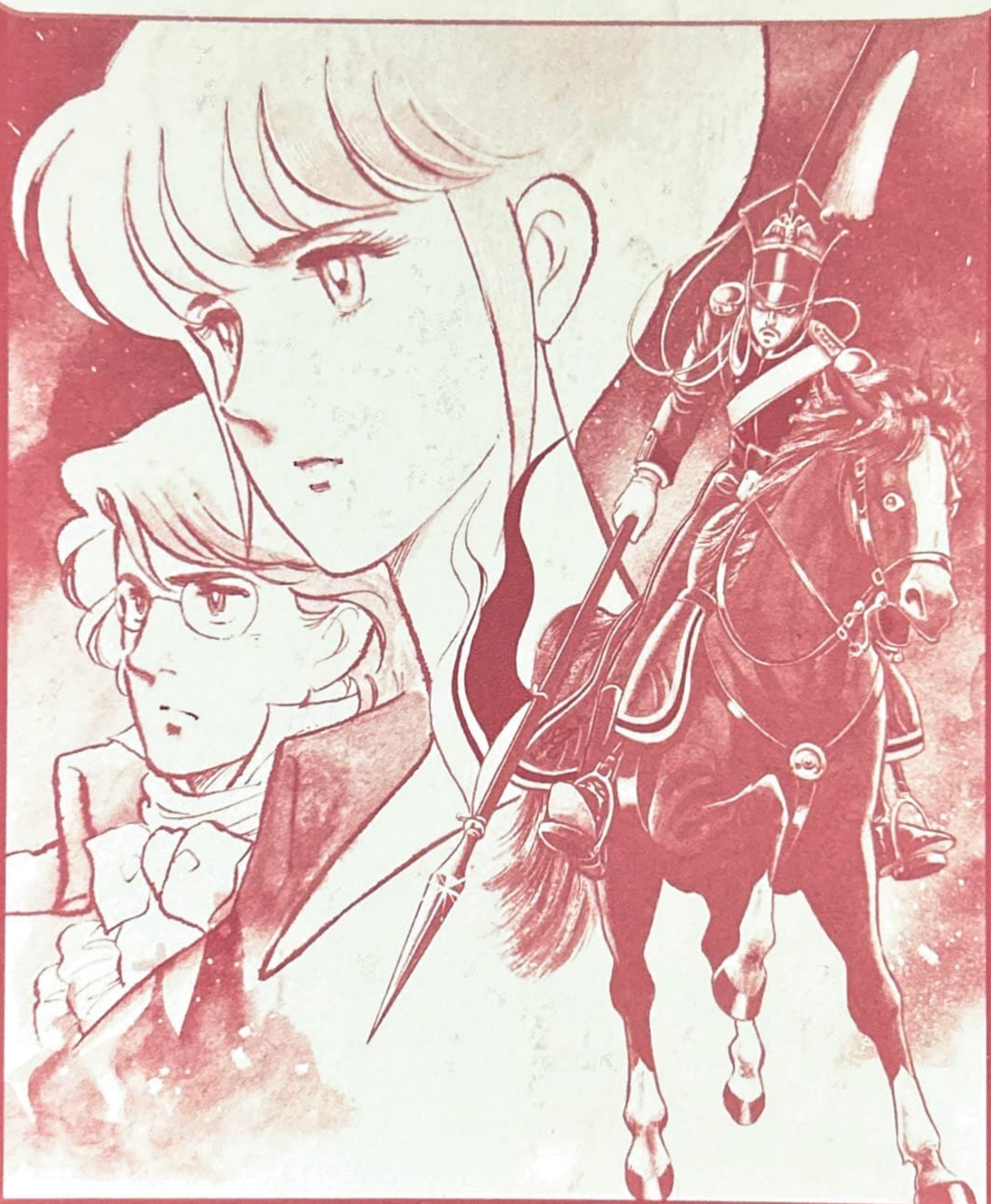
原作　トルストイ

構成　恋塚　稔

戦争と平和（下）

作画　岸田　恋

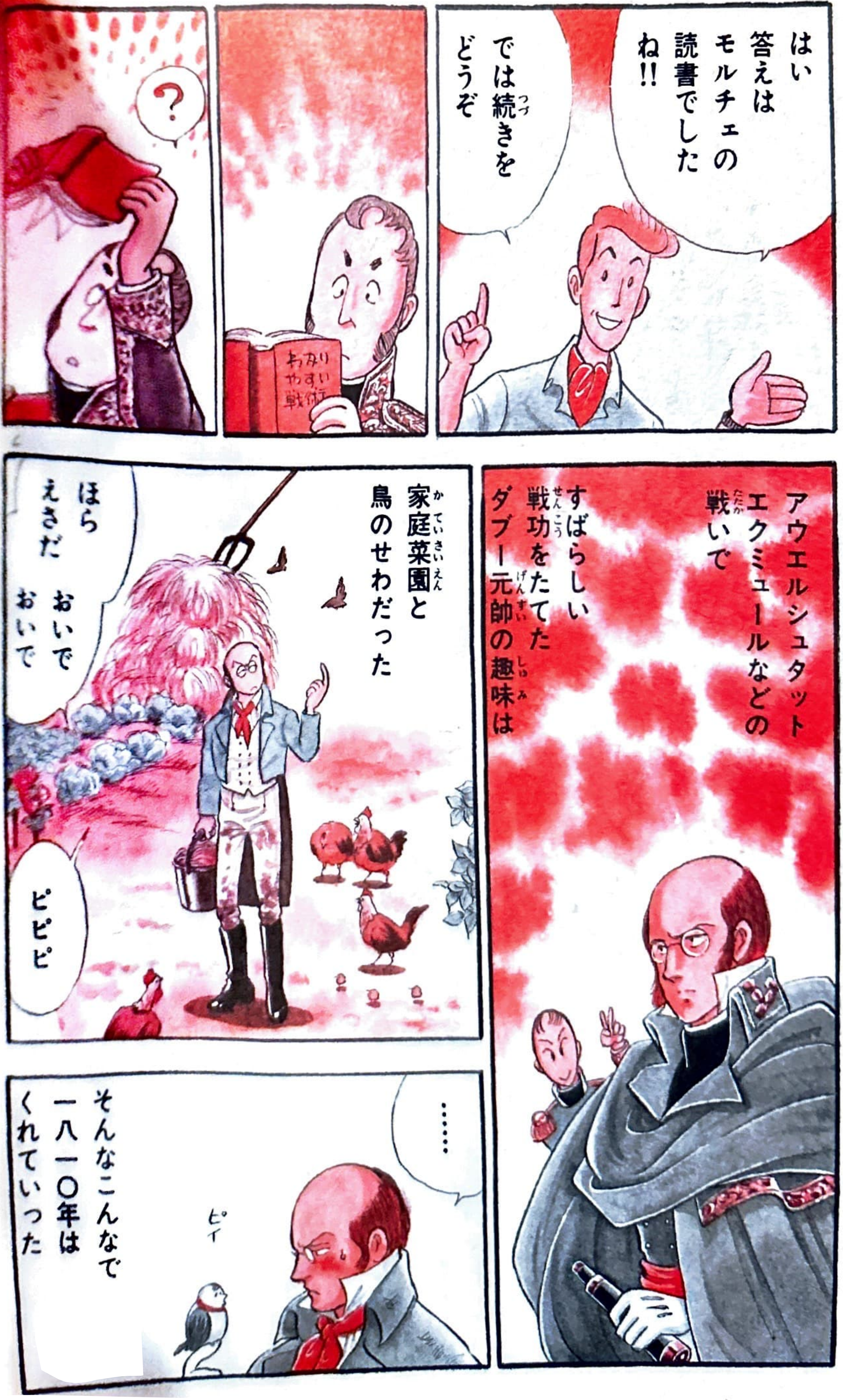
原作　トルストイ　構成　恋塚　稔



プロローグ

一八一〇年は比較的おだやかにすぎていった

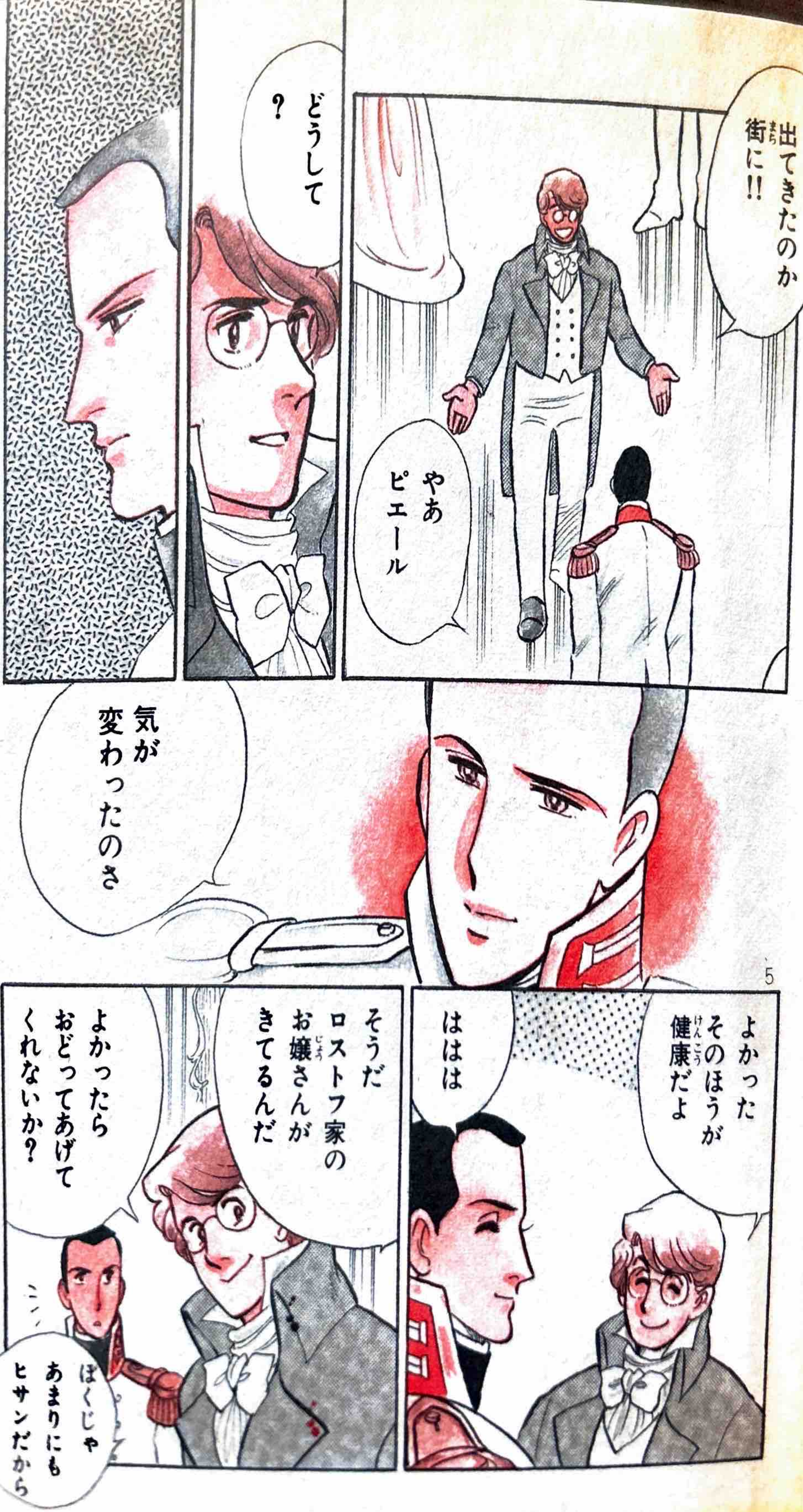
戦いにあけくれていたフランスの元帥たちもそれぞれの家に帰りそれぞれの生活を楽しんでいた


はい答えはモルチェの読書でしたね!!
では続きをどうぞ
わかりやすい戦術
?
アウエルシュタットエクミュールなどの戦いですばらしい戦功をたてたダブー元帥の趣味は
家庭菜園と鳥のせわだった
ほらえさだ
おいでおいで
ピピピ
……
ピイ
そんなこんなで一八一〇年はくれていった

戦争と平和【下】

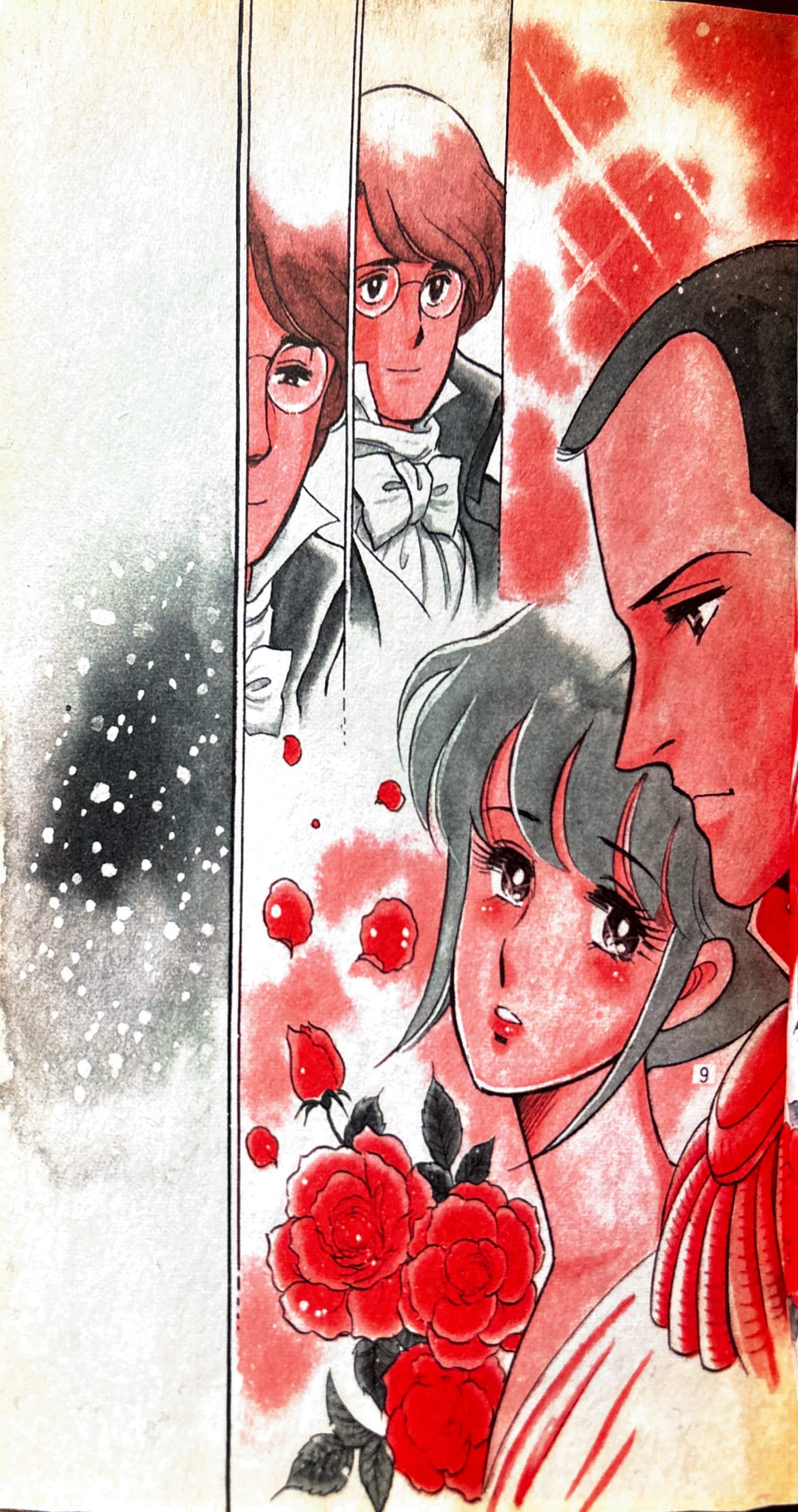
第1章　嵐

一八一〇年の暮れ ペテルスブルグの ある古い貴族の家で 大きな舞踏会が 皇帝臨席のもとに 盛大におこなわれた
長いあいだ 田舎にひっこんでた アンドレイも ひさしぶりに ペテルスブルグに 出てきて
この舞踏会に 参加していた
アンドレイ
!! アンドレイ
ピエール


出てきたのか
街に!!
やあ
ピエール
どうして
?
気が
変わったのさ
よかった
そのほうが
健康だよ
ははは
そうだ
ロストフ家の
お嬢さんが
きてるんだ
よかったら
おどってあげて
くれないか?
ぼくじゃ
あまりにも
ヒサンだから

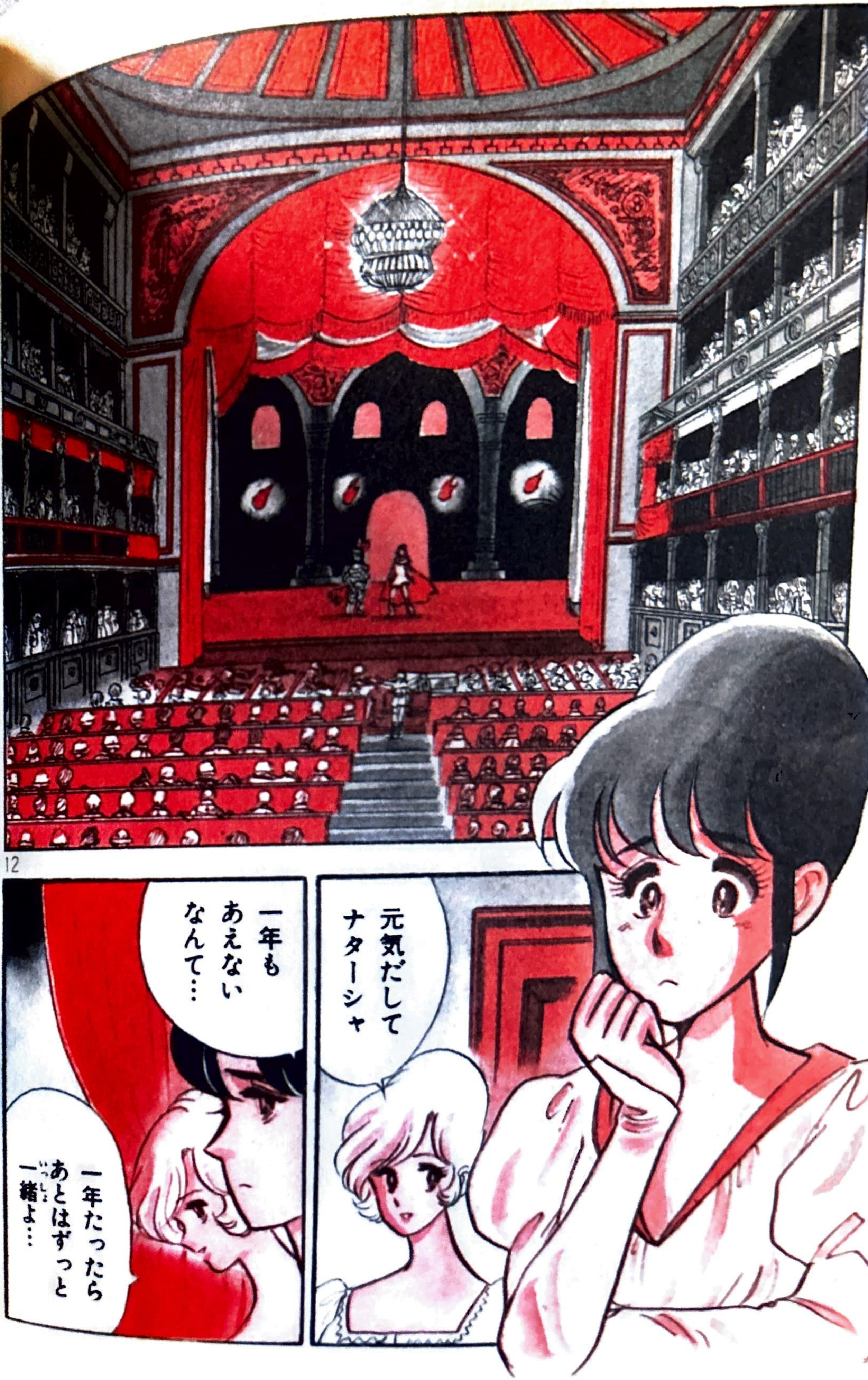
ナターシャ
ナターシャ
壁(かべ)の花に
なっちゃった
せっかくの
社交界デビュー
たというのに
おどりたいな

お嬢さん
わたし おどるの とくいなのに
ブツ ブツ
お嬢さん
わたしなんか 魅力が ないんだわっ
ブツ ブツ
くすん
いまでも きれいな月の夜は 空をとびたく なりますか？
わたしと おどって もらえま せんか？
あなたは …！
え… は は
はいっ
笑顔が 好きだと いったのは きみだよ

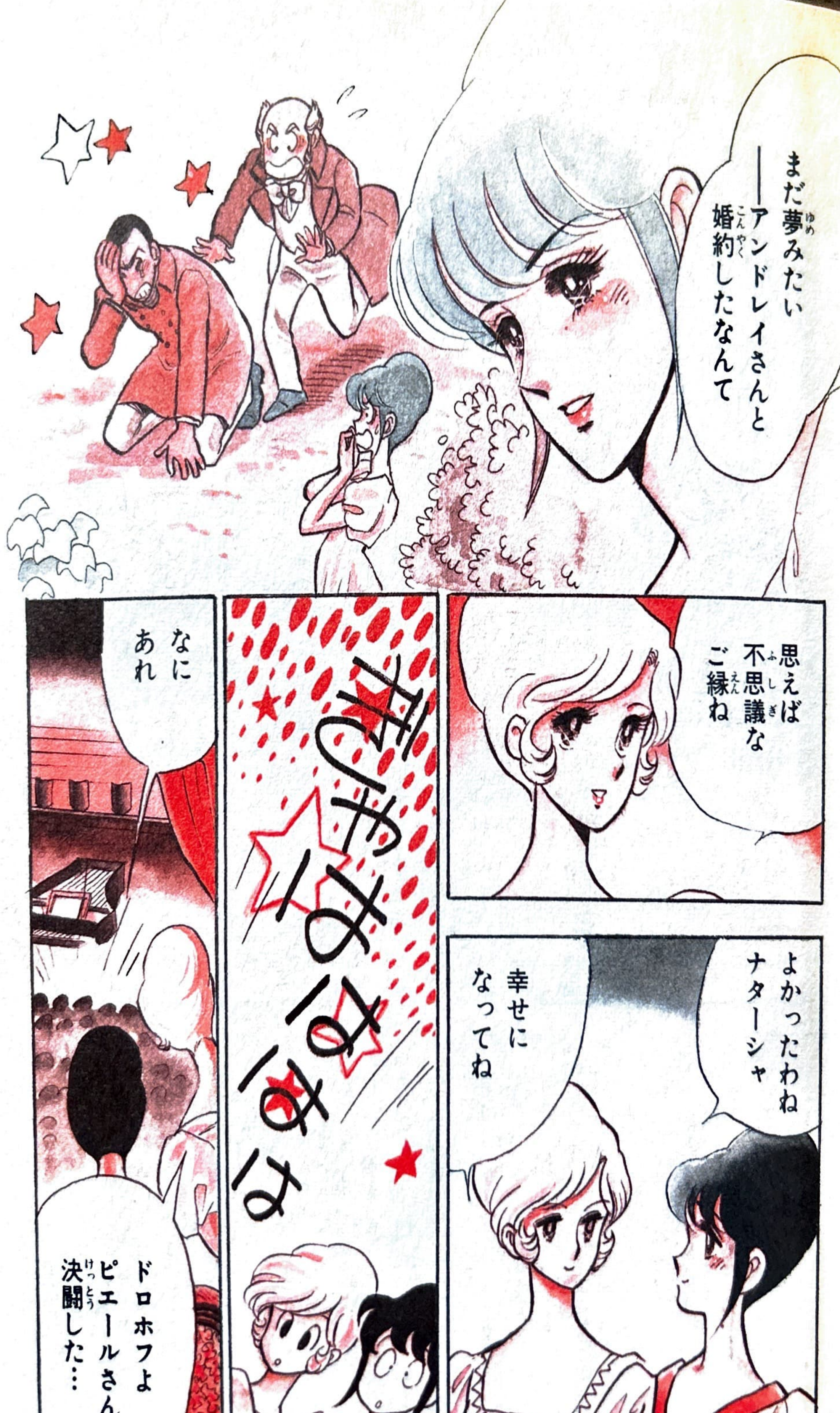

9

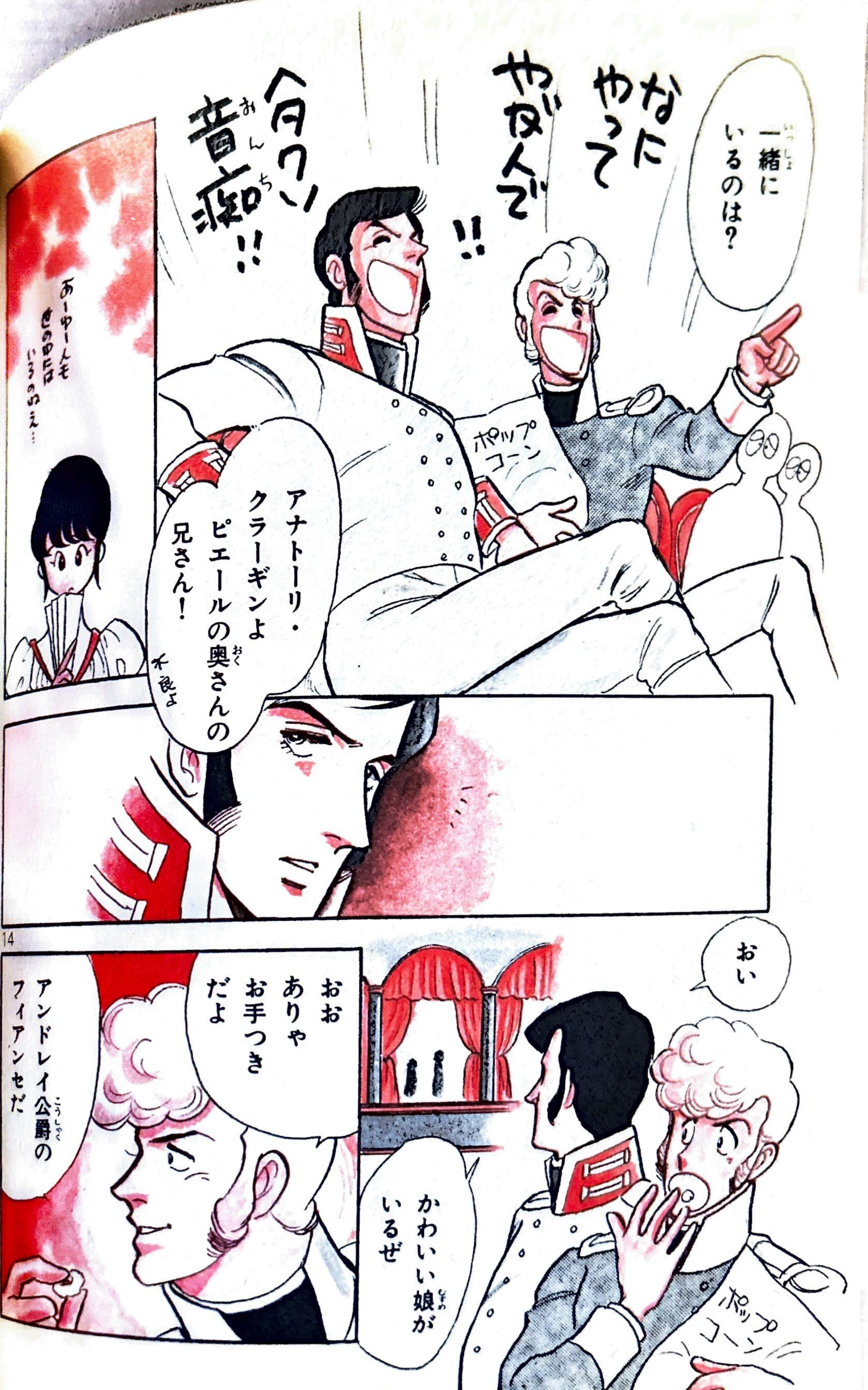
ピエール
ぼくはあの娘と結婚するぞ
アンドレイ!!
……
ぷぷ
そりゃ恋してるからだろう
なんだ
――こんな気持ちになったのははじめてだ!!
あの娘とならやりなおせるような気がする
うんナターシャもきみのこと好きだよ

きみの父上は？
大反対さ 父はあの娘の父親がきらいなんだ
だけど説得した
それでぼくが一年間外国に行くことで承諾を得たよ
外国へ…？
あの子をためすのかい？
父はそのつもりなのかな ——でも
ぼくは信じてる……



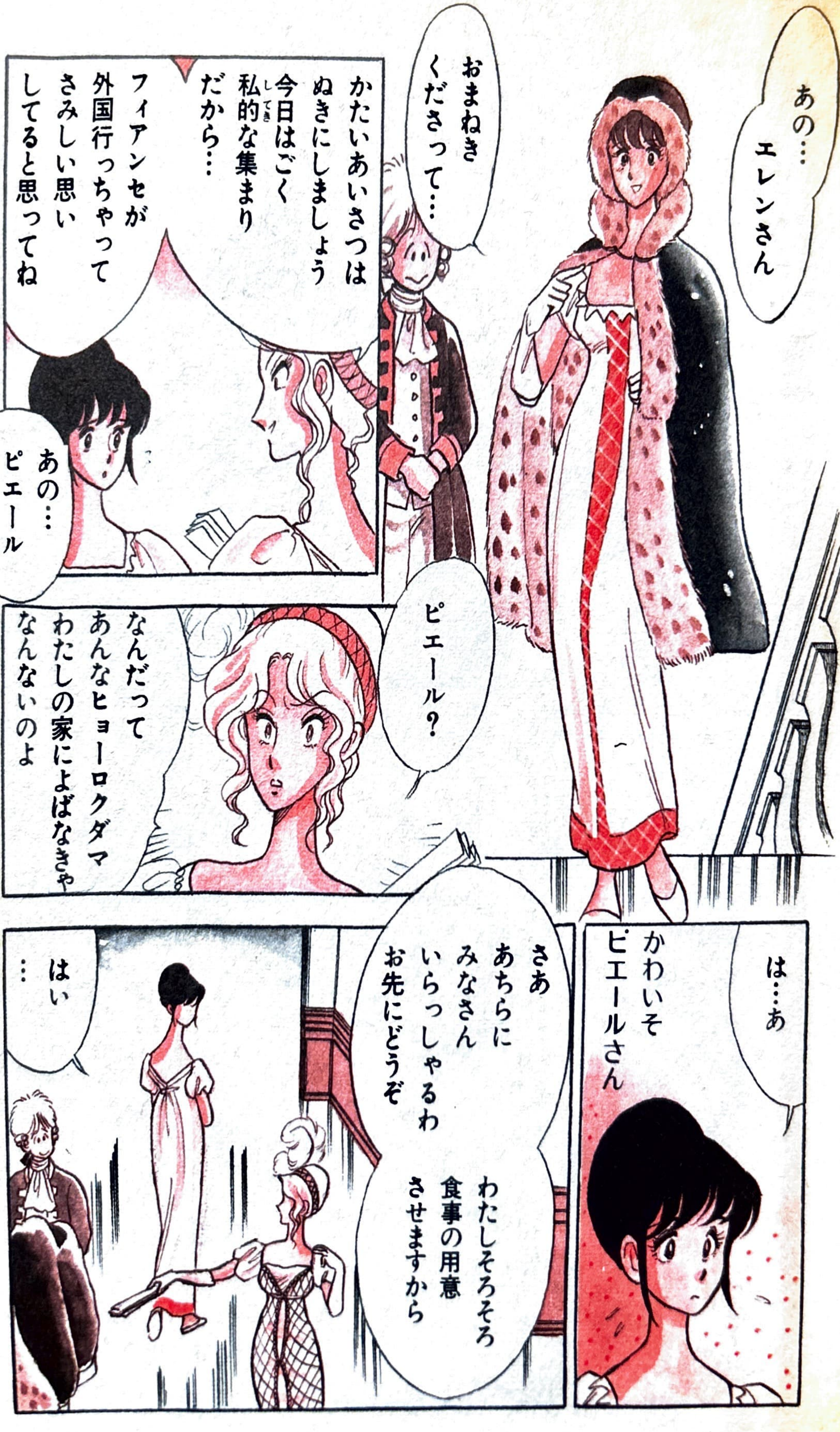
元気だして ナターシャ
一年も あえない なんて…
一年たったら あとはずっと 一緒よ…


まだ夢みたい
——アンドレイさんと婚約したなんて
思えば不思議なご縁ね
よかったわね ナターシャ
幸せになってね
おっほほほほほは
なにあれ
ドロホフよ ピエールさんと決闘した…

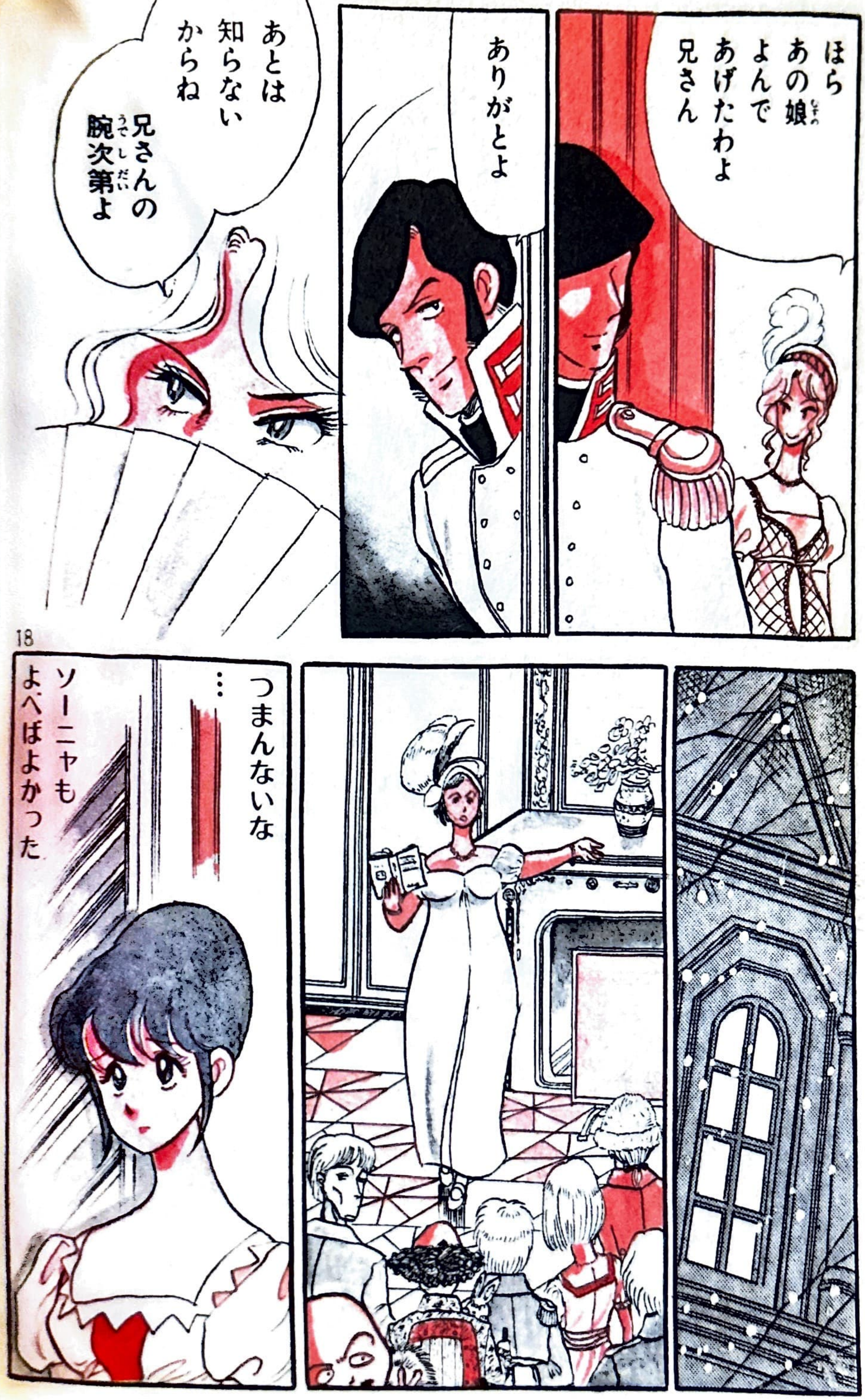

一緒にいるのは?
なた
やって
やがんで
!!
タワシ
音痴!!
ポップコーン
アナトーリ・
クラーギンよ
ピエールの奥さんの
兄さん!
不良よ
あーゆーんも
世の中には
いるのねえ…
おい
おお
ありゃ
お手つき
だよ
アンドレイ公爵の
フィアンセだ
かわいい娘が
いるぜ
ポップコーン

ふーん…
ぼ
ちっ
やだ…
目があっちゃった…
15
気にいった
そうか… うまいだろう もっと食って いいぞ
ホレたと いってるんだ
きゃーっ うそーっ やめて わたしそんな 趣味なくって よーーっ
ポップコーン

わかった 冷静に 話をしよう
いい残したいことがあったらいまのうちにいっておけ
あの娘ならやめとけよ
あの娘はシロートだぜ
あとがかわいそうだ
フン
まあ よくきてくれたわね ナターシャさん
そんなこと知ったこっちゃねえよ…



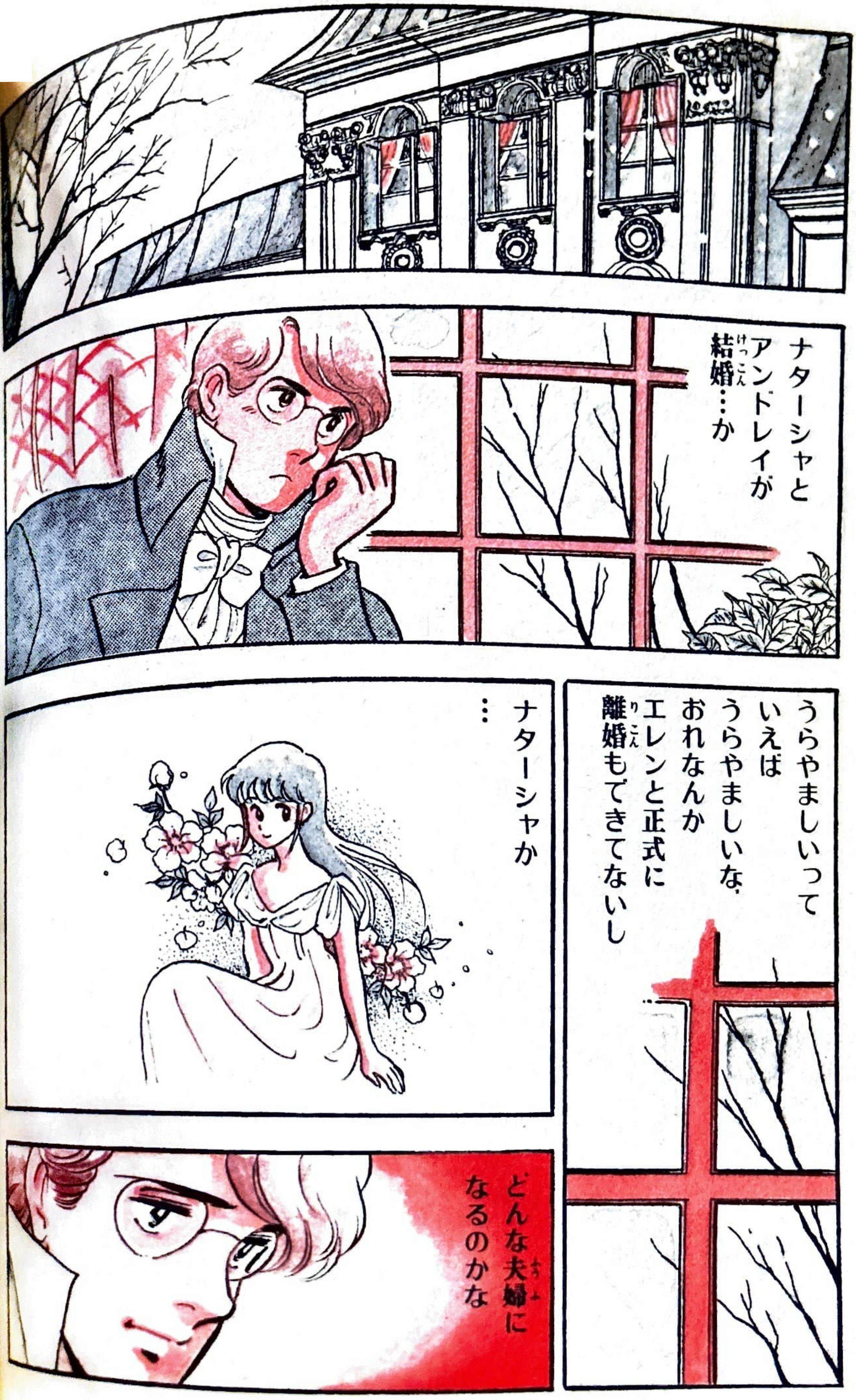
あの…エレンさん
おまねきくださって…
かたいあいさつはぬきにしましょう今日はごく私的な集まりだから…
フィアンセが外国行っちゃってさみしい思いしてると思ってね
あの…ピエールさんは？
ピエール？
なんだってあんなヒョーロクダマわたしの家によばなきゃなんないのよ
は…あ
かわいそピエールさん
さあ あちらにみなさんいらっしゃるわお先にどうぞ
わたしそろそろ食事の用意させますから
はい…


ほら あの娘 よんで あげたわよ 兄さん
ありがとよ
あとは知らないからね
兄さんの腕次第よ
つまんないな
…
ソーニャもよべばよかった

19

はじめて
あなたを
見てから
あなたの
とりこに
わたし
帰ります!!
はなして
!!

もうおあいできないのですか？
いや……
ナターシャ…!!


ナターシャと
アンドレイが
結婚…か
うらやましいって
いえば
うらやましいな，
おれなんか
エレンと正式に
離婚もできてないし
ナターシャか
…
どんな夫婦に
なるのかな

ピエールさま！
こんな手紙が
手紙？
手紙はきらいだ
ろくなことないんだ
ビー
な
なに!?
ピエールさま…!!
ナターシャはアナトーリという男にたぶらかされてアンドレイさまとの婚約を破棄してしまいました
しかも二人はかけおちを計画しています

そんなばかな!!
アナトーリにはちゃんとした妻がいるんだぞ!!
なんてことだ
…!!
二人をとめなければ!!
あけて!!ソーニャ
あけて!!アナトーリが待ってるのよ
ナターシャ思いなおして!!あなただまされているのよ!!
どうして!?アナトーリはわたしを愛してくれているのよ
それならアンドレイは!?
わたしをおいて一年も外国へ行ってしまう人より
アナトーリのほうがずっとずっとやさしいわ!
なんてこというの!!目をさましてナターシャ!!

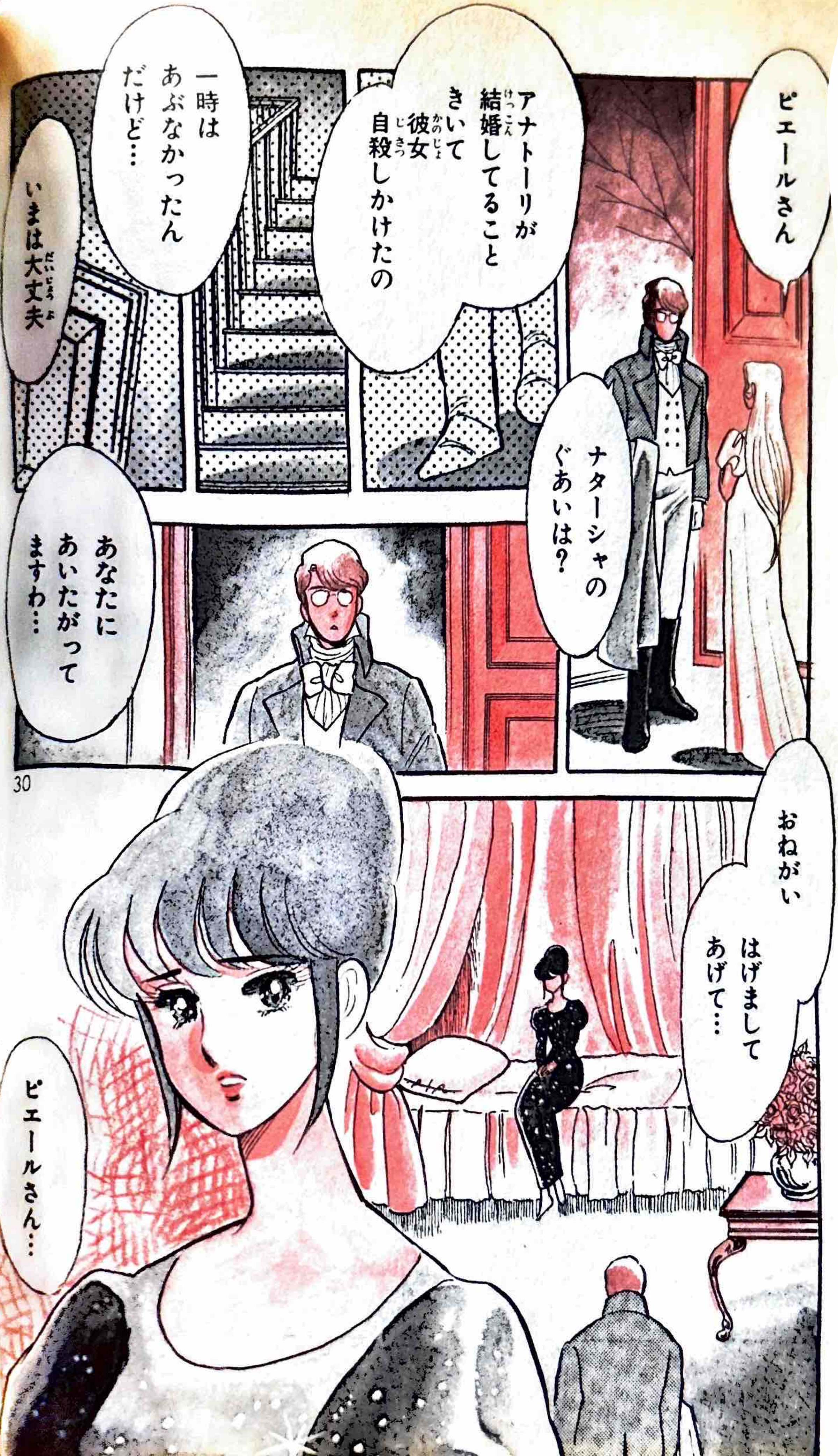
もういい
きらいよ
あなたの声なんか
ききたくない!!
ソーニャも
ピエールも
みんなきらい
!!
もう
おしまいよ!!
ナターシャ
ちくしょう
おせえな
ナターシャは
待ってても
こないぞ

ピ…ピエール!!
きさまら兄妹ってやつは…どこまで…
フ…フン!
ばかなネンネじゃあるまいし
ちょっとくどいただけですぐその気になるほうが悪いんだ
な…な…
な…なんだよやる気か?——えっ?
出ていけ…
このオレにしめ殺されたくなかったら
いますぐモスクワから出ていけ!!

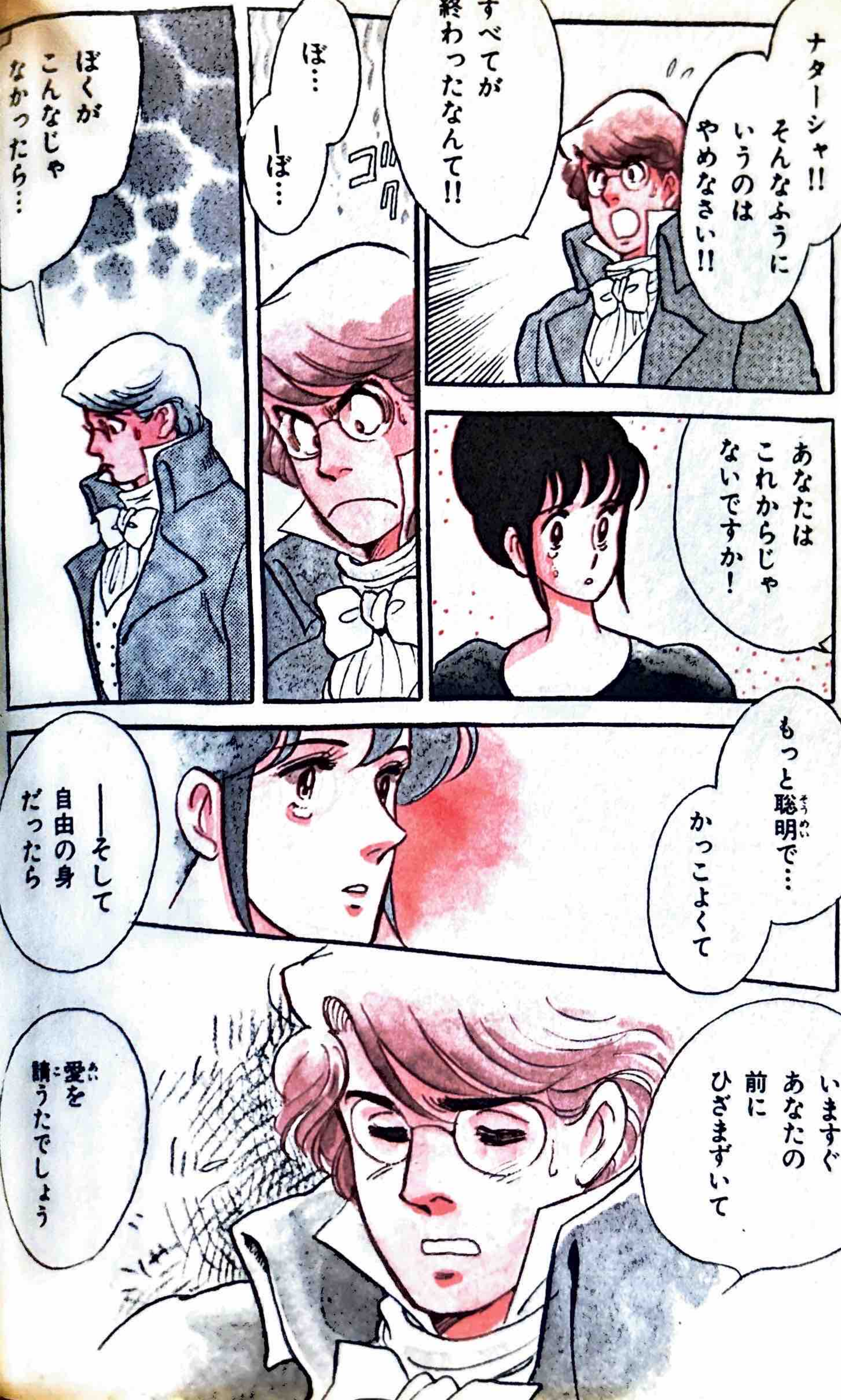
どうして
こんなことに
なってしまったん
だろう…
彼女からきた手紙だ
きみから返しといてくれたまえ
婚約をとりけしたいといってきた手紙もはいってる
……
アンドレイ
…
それで

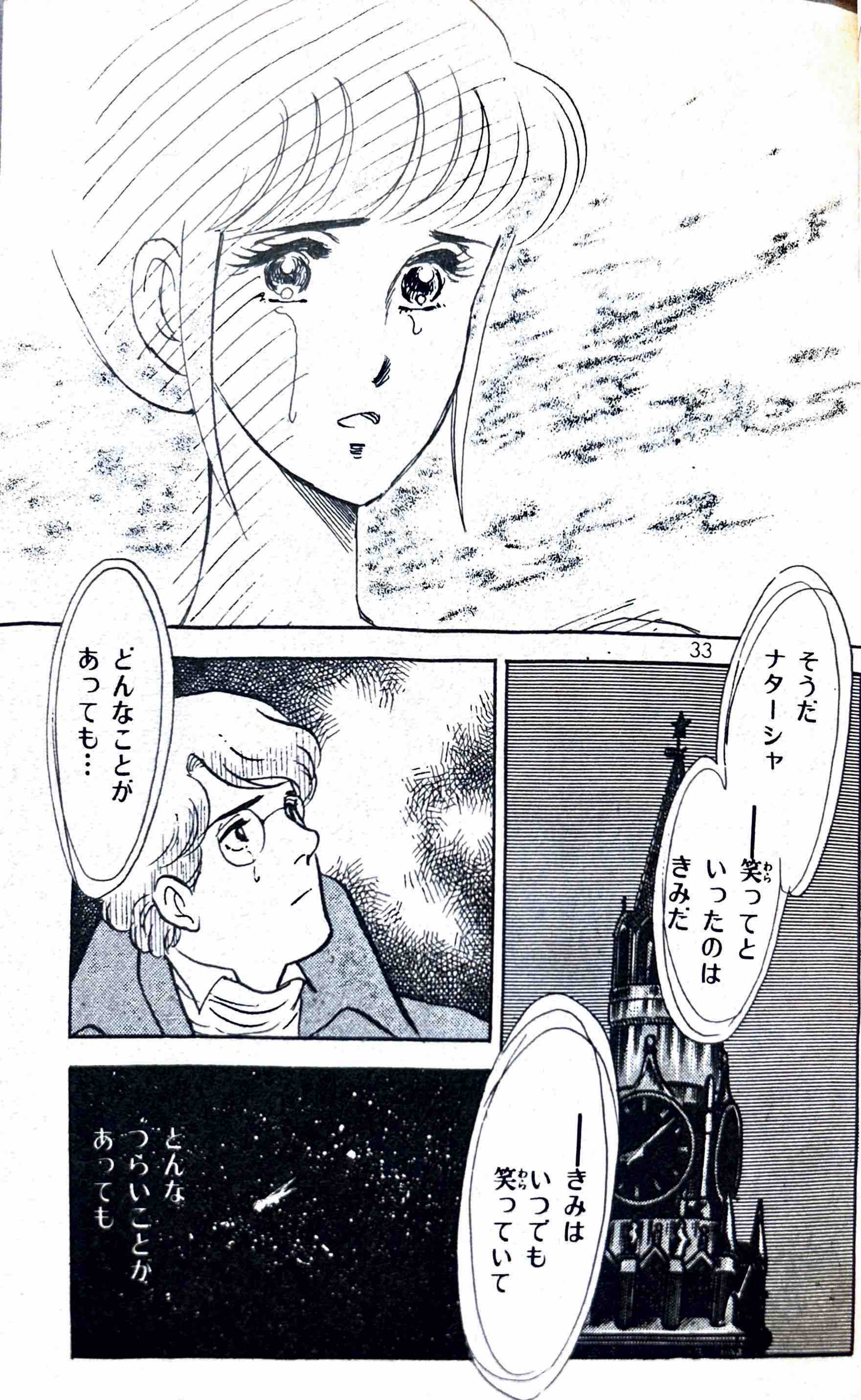
あの子はアナトーリとかいうのと結婚するのか
結婚なんてできないよ
アナトーリにはちゃんと妻がいるんだ
ふ!!
ははは
おやおや!!
はは
アンドレイ…彼女はだまされたんだ…!!
もういいもう帰ってくれ!!
ぼくはきみたちに幻惑されて夢を見ていたんだ
——目がさめたよ

ピエール
ぼくはまた軍隊にはいる
フランス軍が国境近くにせまってきている
まもなくロシア国内に進入してくるだろう
戦争だよピエール
これが現実だ


ピエールさん
ナターシャのぐあいは?
アナトーリが結婚してることきいて彼女自殺しかけたの
一時はあぶなかったんだけど…
いまは大丈夫
あなたにあいたがってますわ…
おねがい
はげましてあげて…
ピエールさん…

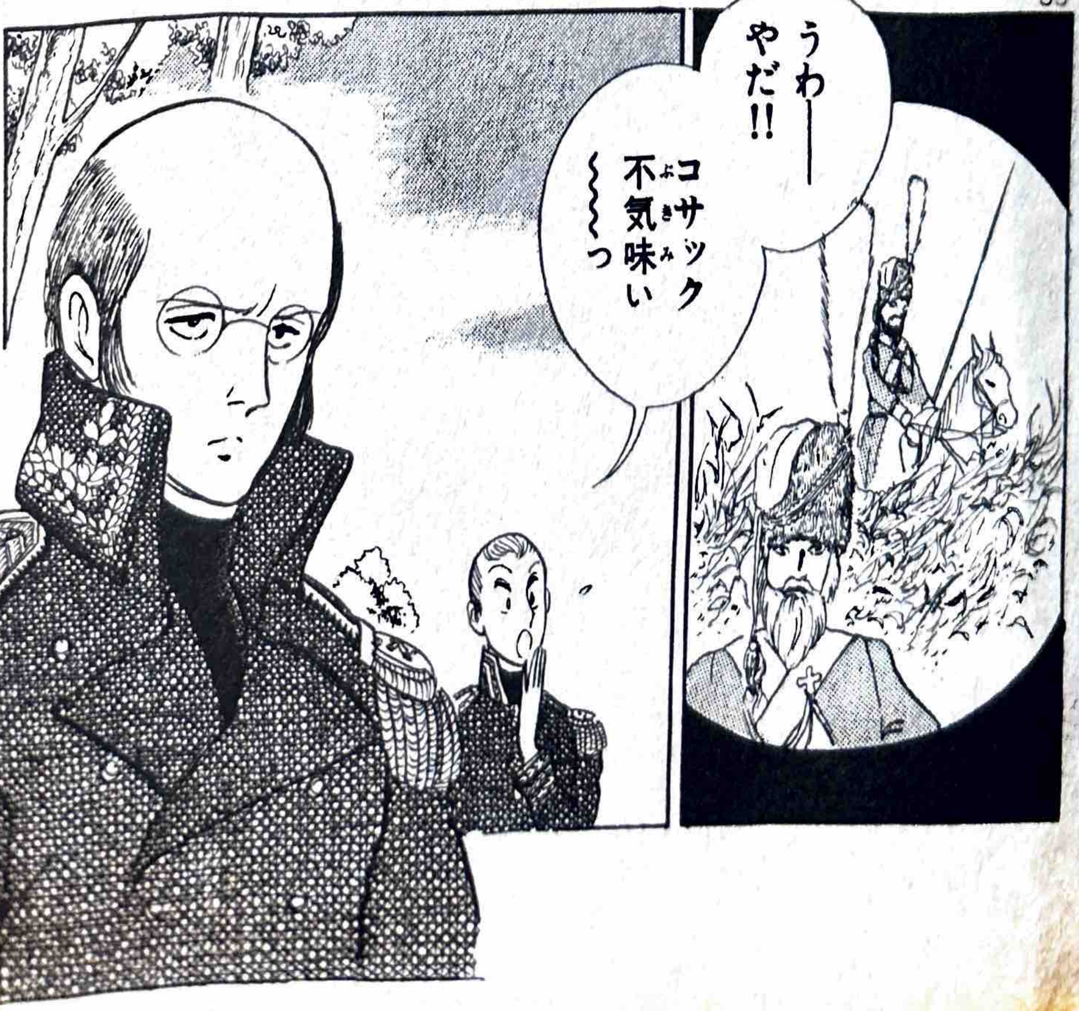
ナターシャ
——これがあの陽気な
ピエール…
アンドレイは
あなたの
親友ですね
え
ええ
おねがいです
あの人に
伝えてください
わたしを
わたしを
許して
くださる
ように…
わたしが
それに
ふさわしい
女じゃないことは
わかってます
すべてが
終わってしまったことは
わかってます
——でも


ナターシャ!! そんなふうに いうのは やめなさい!!
すべてが 終わったなんて!!
あなたは これからじゃ ないですか!
ぼ… ーぼ…
ゴク
ぼくが こんなじゃ なかったら…
もっと聡明で… かっこよくて
ーそして 自由の身 だったら
いますぐ あなたの 前に ひざまずいて
愛を 請うたでしょう


そうだ ナターシャ
――笑ってといったのはきみだ
――きみはいつでも笑っていて
どんなことがあっても…
どんなつらいことがあっても

ピエールが
見あげた空には
あの巨大な彗星が
かかっていた
あらゆる恐怖と
この世の終末を
予感させる
まつが星
だがその星は
ピエールの目には
新しい生活の
おとずれを
感じさせる
希望の星として
映ったのだった

第2章　崩壊の序奏



ねえ
元帥…
ん？
陛下は
――本当に
ニエーメンを
わたるつもり
でしょうか…
この遠征は
わが国に
なんの利が
あるのでしょう
ピィ
なに？
いま
なんといった
……
ロシアへの
遠征は
お考えなおし
ください

きみにはこの遠征の目的がわかっていないのだ!!
アレクサンドル皇帝はイギリスの口車にのってわたしに攻撃をしかけようとしてる
自分がヨーロッパの支配者だと思いこんでるあの若僧の目をさまさねばならんのだ!!
まだあるロシアはわたしに逆い大陸封鎖をやぶりイギリスと貿易を続けている
ロシアをたたくことにより
スペインにおけるイギリスの勢力をそぐことができる!
陛下
ドイツ国内には不穏な空気が流れています

37

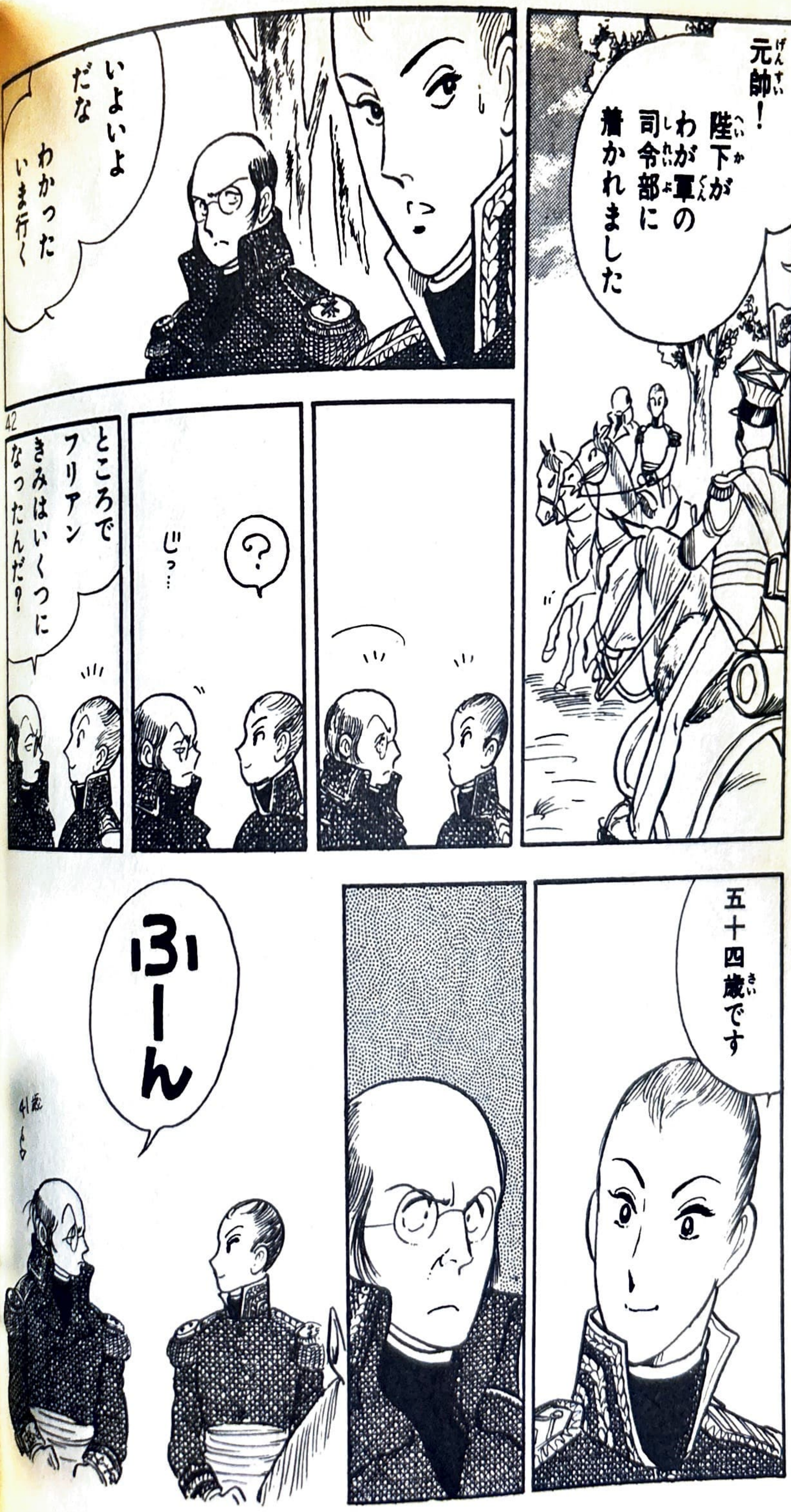
陛下が長くロシアにとどまるようなことになれば…
そうならないようにするのがきみたちの役目だ…!!
わたしは戦争は望んではいない!!
フランスの力をみせつければいいのだ!!
機動力を駆使した短期決戦こそ望ましい!!
陛下 アウステルリッツのようにはまいりません
軍事的にいって
軍事的…!?
軍事的だと…?
わたしにむかって軍事的になにをいおうというのだ?
ああ そうか

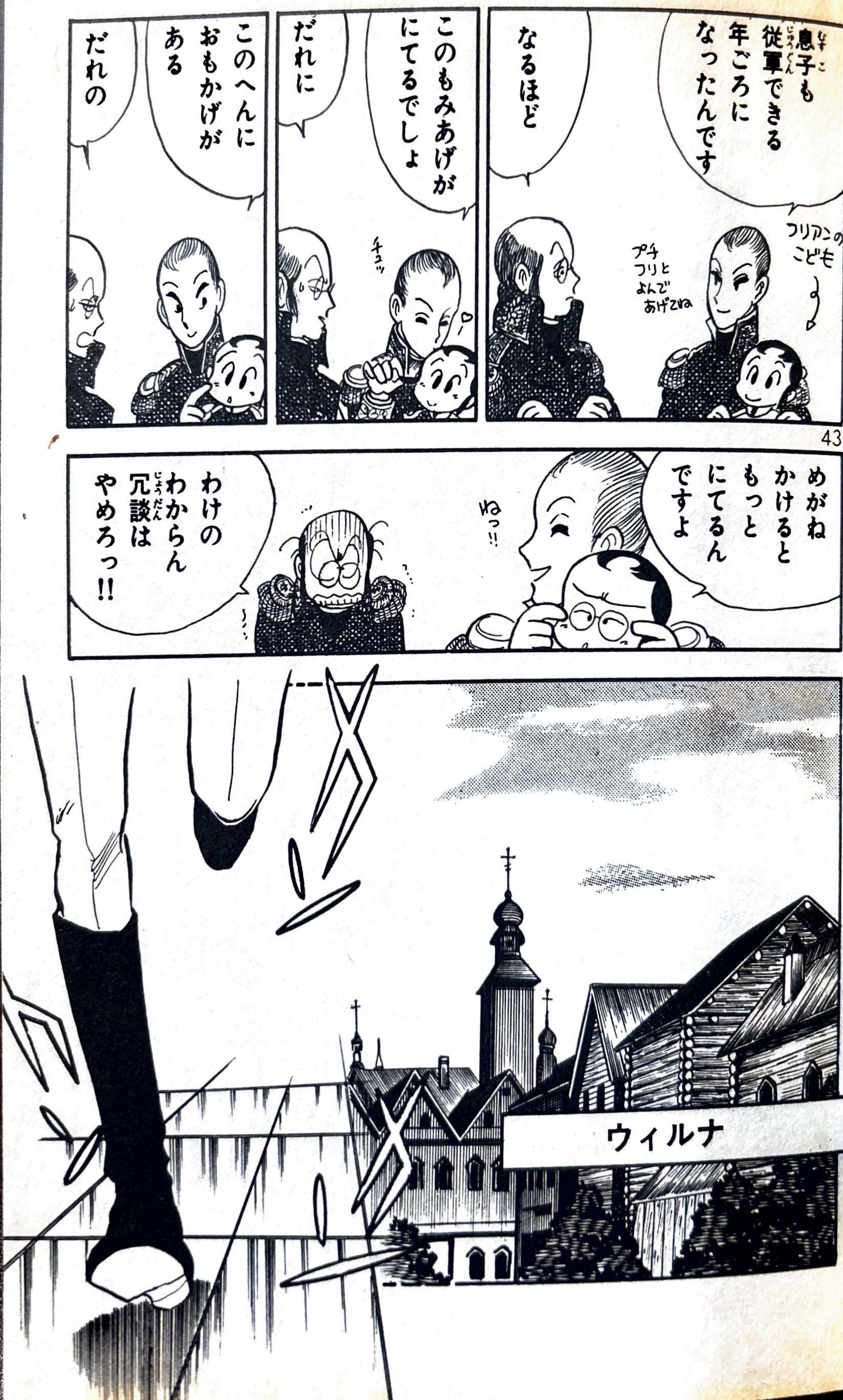
＊この戦いでダブーは三万の兵力で六万のプロイセン軍を撃破した。

＊人のあやまちを告げ正すこと。

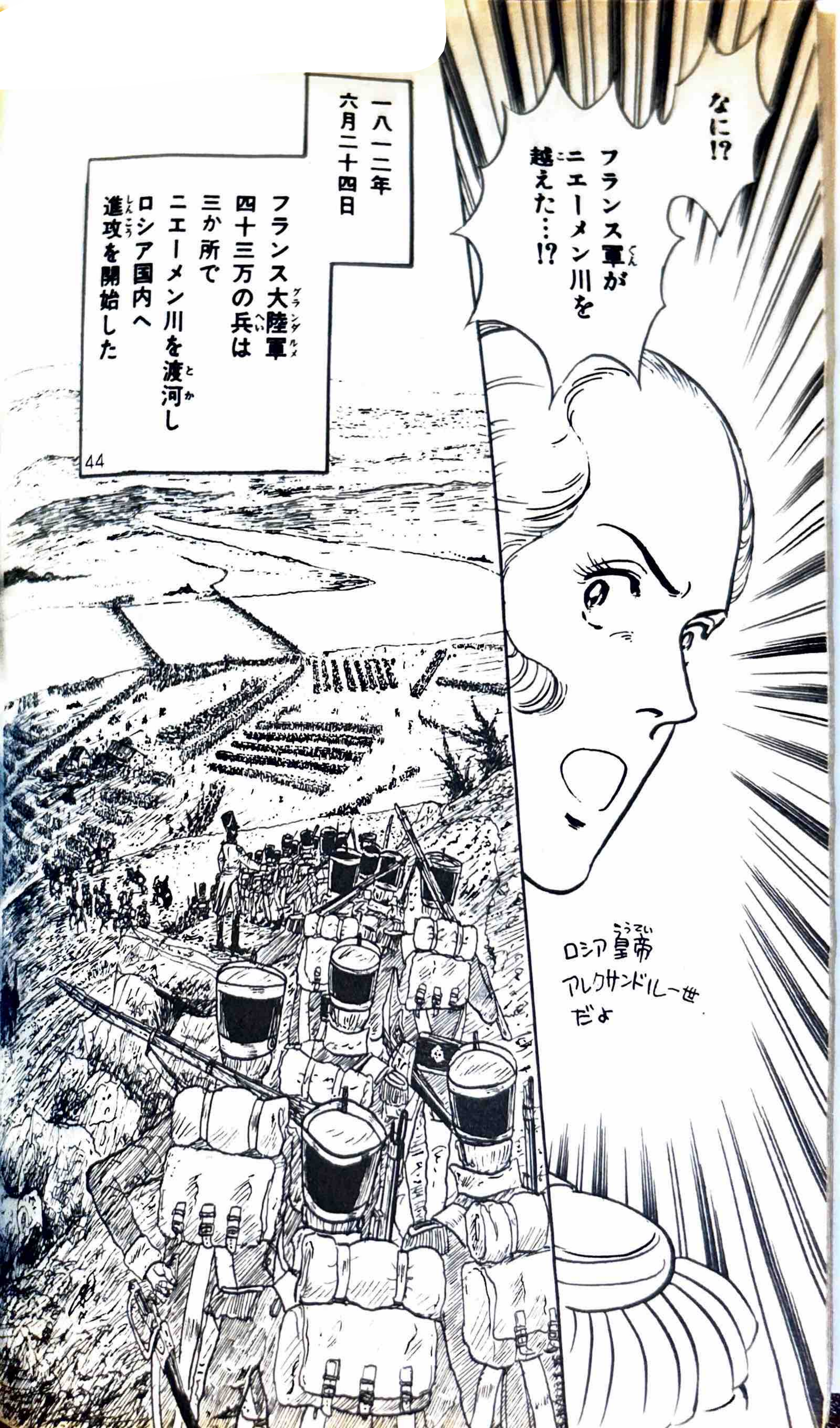
元帥……
遠征ははじまった…もうどうすることもできない
自分たちにできることは早急に敵を捕捉して撃滅することだけだ
41
大丈夫ですよ
アウステルリッツでもイエナでもワグラムでも
苦しいなかからぼくらはいつも勝利を得てきたじゃないですか
プルルル
だがここはイエナでもワグラムでもない
アウステルリッツでもない

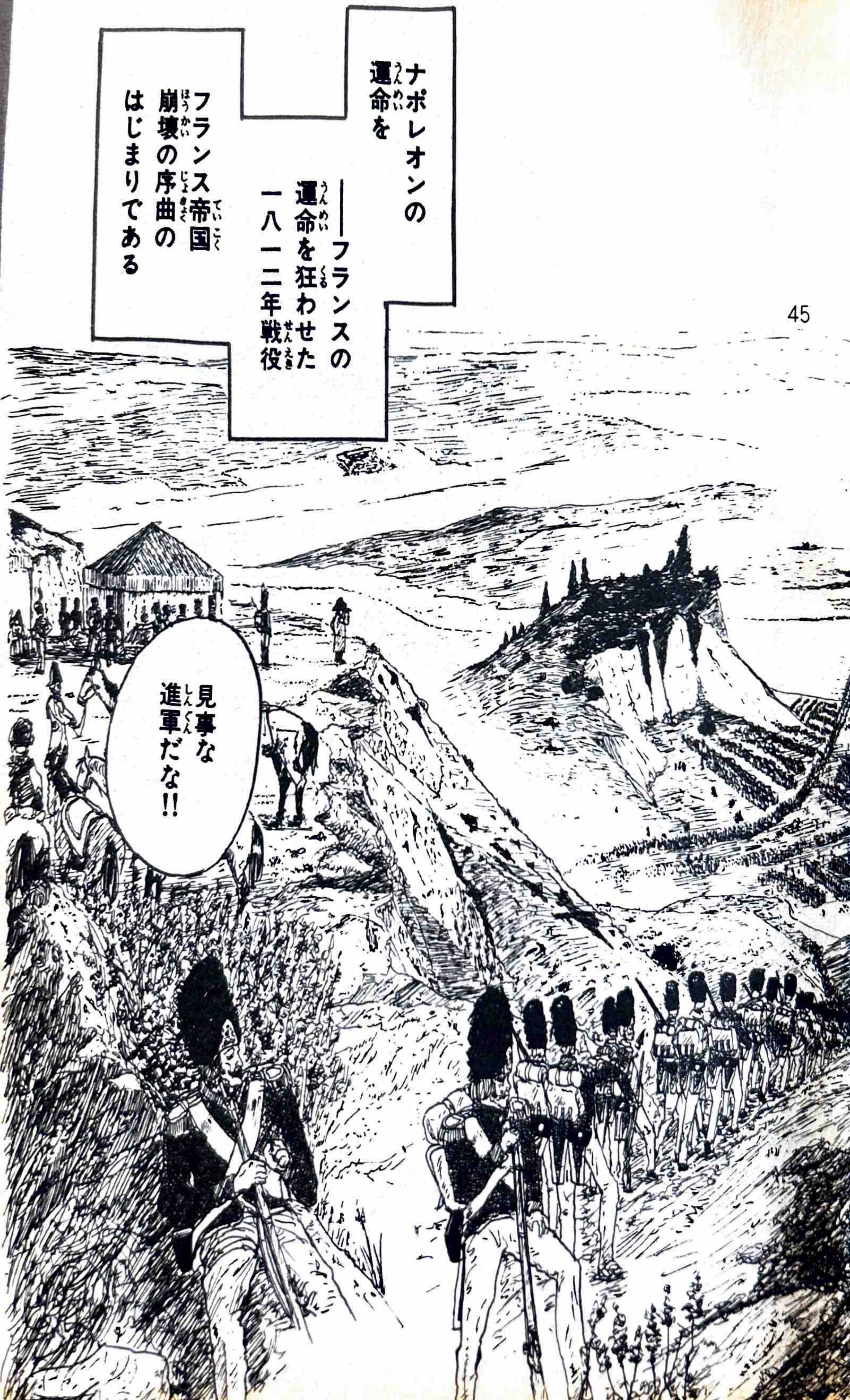
*とらえること


元帥！
陛下がわが軍の司令部に着かれました
いよいよだな
わかった いま行く
?
じっ…
ところでフリアン きみはいくつになったんだ?
五十四歳です
ふーん

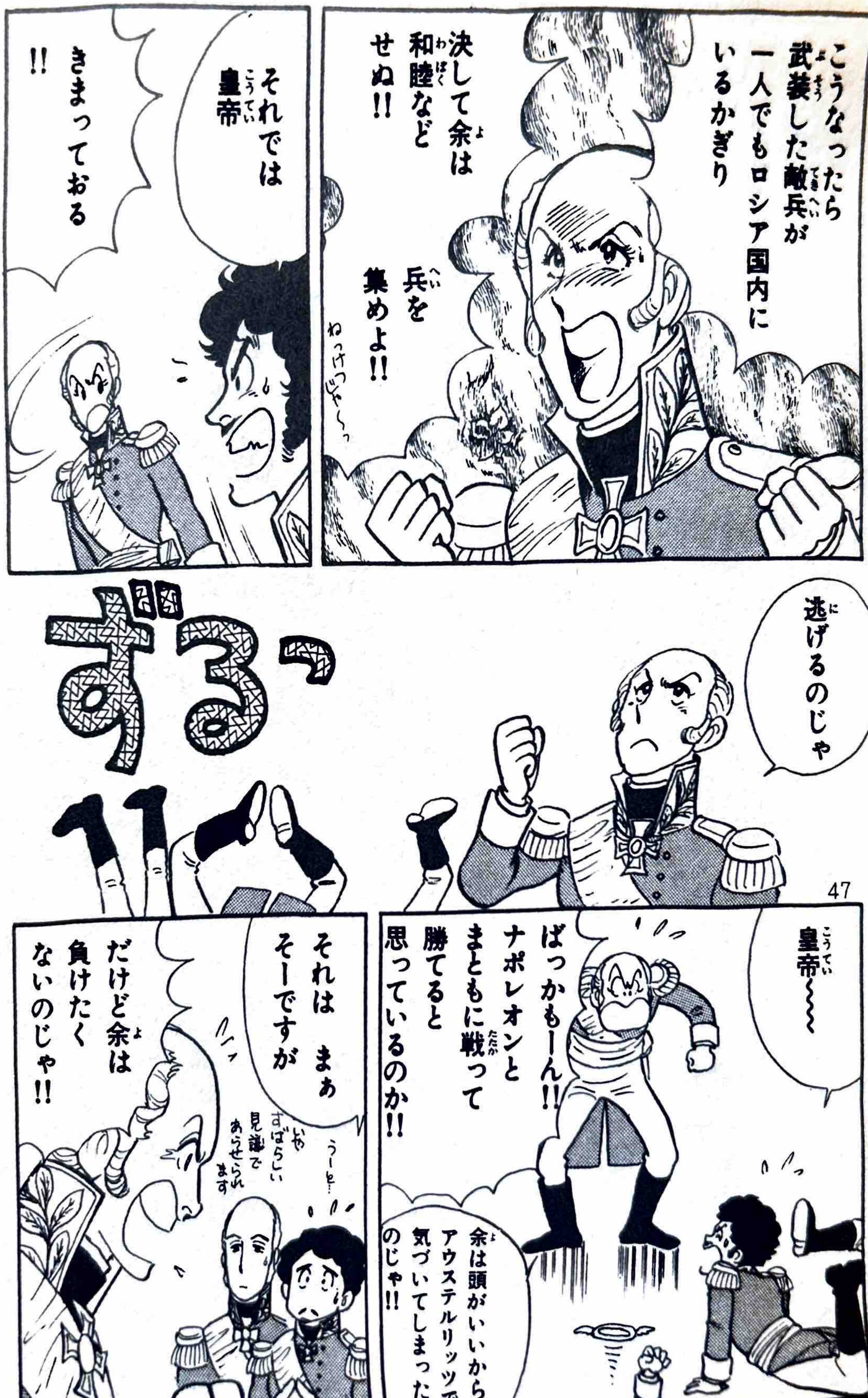

息子も従軍できる年ごろになったんです
フリアンのこども
プチフリとよんであげてね
なるほど
このもみあげがにてるでしょ
チュッ
だれに
このへんにおもかげがある
だれの
めがねかけるともっとにてるんですよ
ねっ!!
わけのわからん冗談はやめろっ!!
ウィルナ

43

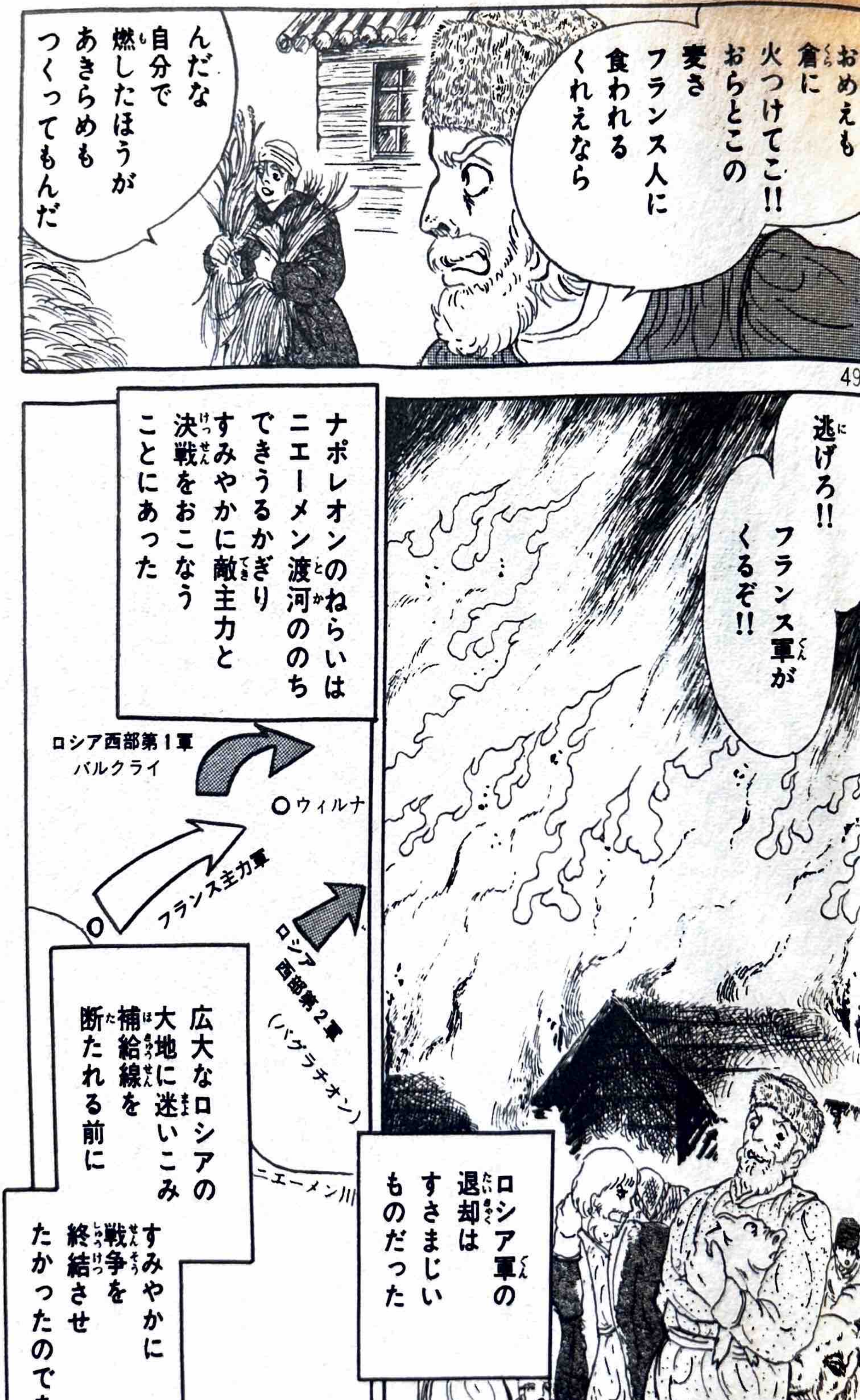

なに!?
フランス軍がニエーメン川を越えた…!?
一八一二年六月二十四日
フランス大陸軍四十三万の兵は三か所でニエーメン川を渡河しロシア国内へ進攻を開始した
ロシア皇帝アレクサンドル一世だよ


ナポレオンの運命を
―フランスの運命を狂わせた一八一二年戦役
フランス帝国崩壊の序曲のはじまりである
見事な進軍だな!!

おそろしい光景だ
不吉な予感がする
しぶくなりましたな
参謀長のさむがりベルチェです
よーさむちゃんでーっす!!
どうしたベルチェもうフランスが恋しくなったのか?
大丈夫だビルナ付近でロシア軍主力をつかまえてこれを撃滅すれば
アレクサンドルはすぐにでも和平交渉をもちだしてくるさ
だといいのだが……
宣戦布告もなしにわが国へ侵入するとは!!
これは挑戦だ!! 余は屈せぬぞ!!


こうなったら
武装した敵兵が
一人でもロシア国内に
いるかぎり
決して余は
和睦など
せぬ!!
兵を
集めよ!!
ねっけつじゃ〜っ
それでは
皇帝
きまっておる
!!
逃げるのじゃ
ずるっ
皇帝〜〜〜
ばっかも〜ん!!
ナポレオンと
まともに戦って
勝てると
思っているのか!!
余は頭がいいから
アウステルリッツで
気づいてしまった
のじゃ!!
それは まぁ
そーですが
だけど余は
負けたく
ないのじゃ!!
うーむ…
おや
すばらしい
見識で
あらせられ
ます

勝つみこみのない戦いをして敗北するのも服従するのも余はいやじゃ
そうなるくらいなら逃げて逃げて逃げてカムチャツカまで逃げてやる!!
ゴオオオオ
あんたなにすっだよ!!
パチ パチ
しれたことよ フランス人どもに おらとこの家を つかわれたく ねえだからな!!

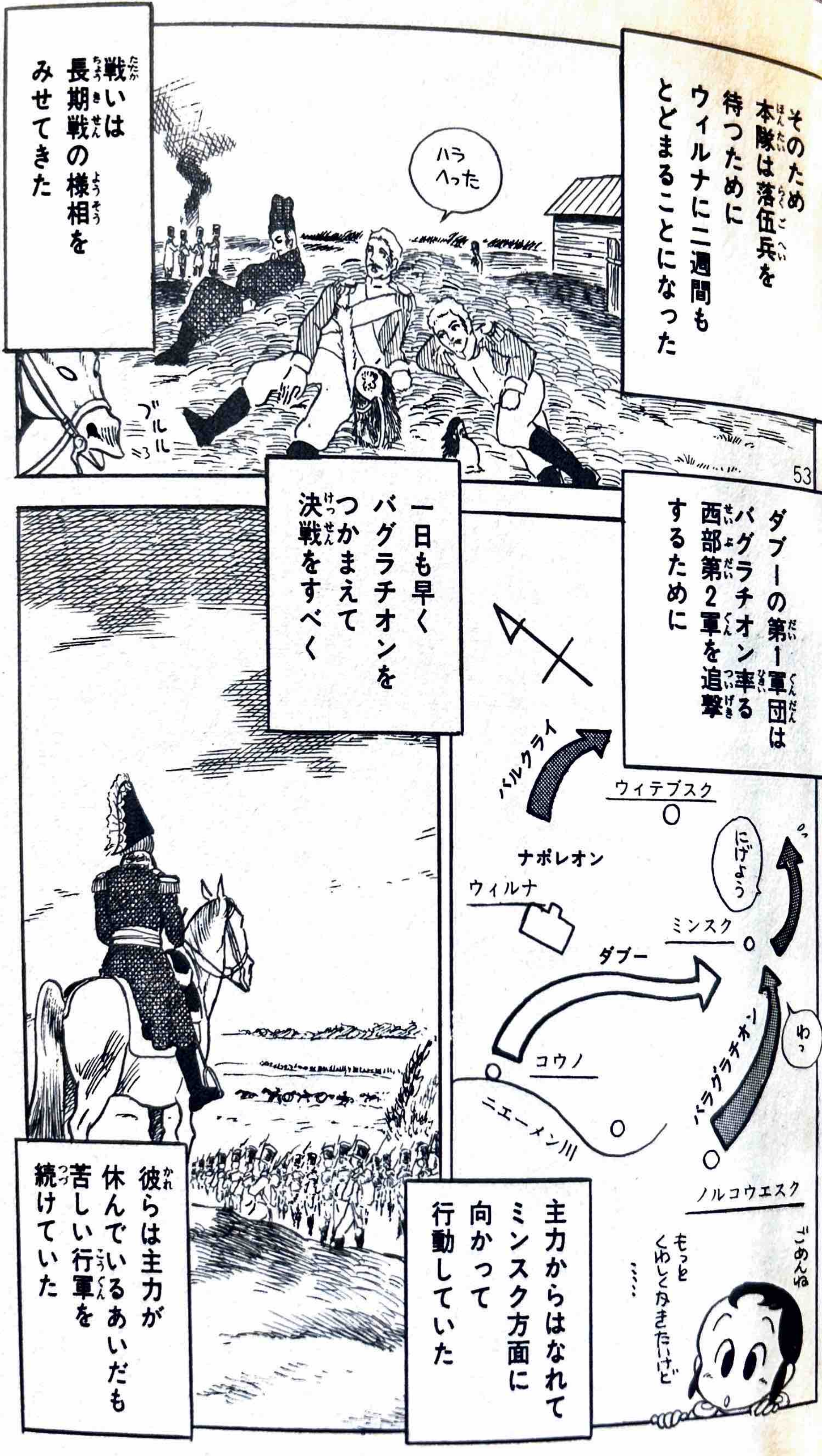

おめえも倉に火つけてこ!! おらとこの麦さフランス人に食われるくれえなら
んだな 自分で燃したほうがあきらめもつくってもんだ
逃げろ!! フランス軍がくるぞ!!
ロシア軍の退却はすさまじいものだった
ナポレオンのねらいはニエーメン渡河ののちできうるかぎりすみやかに敵主力と決戦をおこなうことにあった
ロシア西部第1軍
バルクライ
ウィルナ
フランス主力軍
ロシア西部第2軍
(バグラチオン)
ニエーメン川
広大なロシアの大地に迷いこみ補給線を断たれる前に
すみやかに戦争を終結させたかったのである

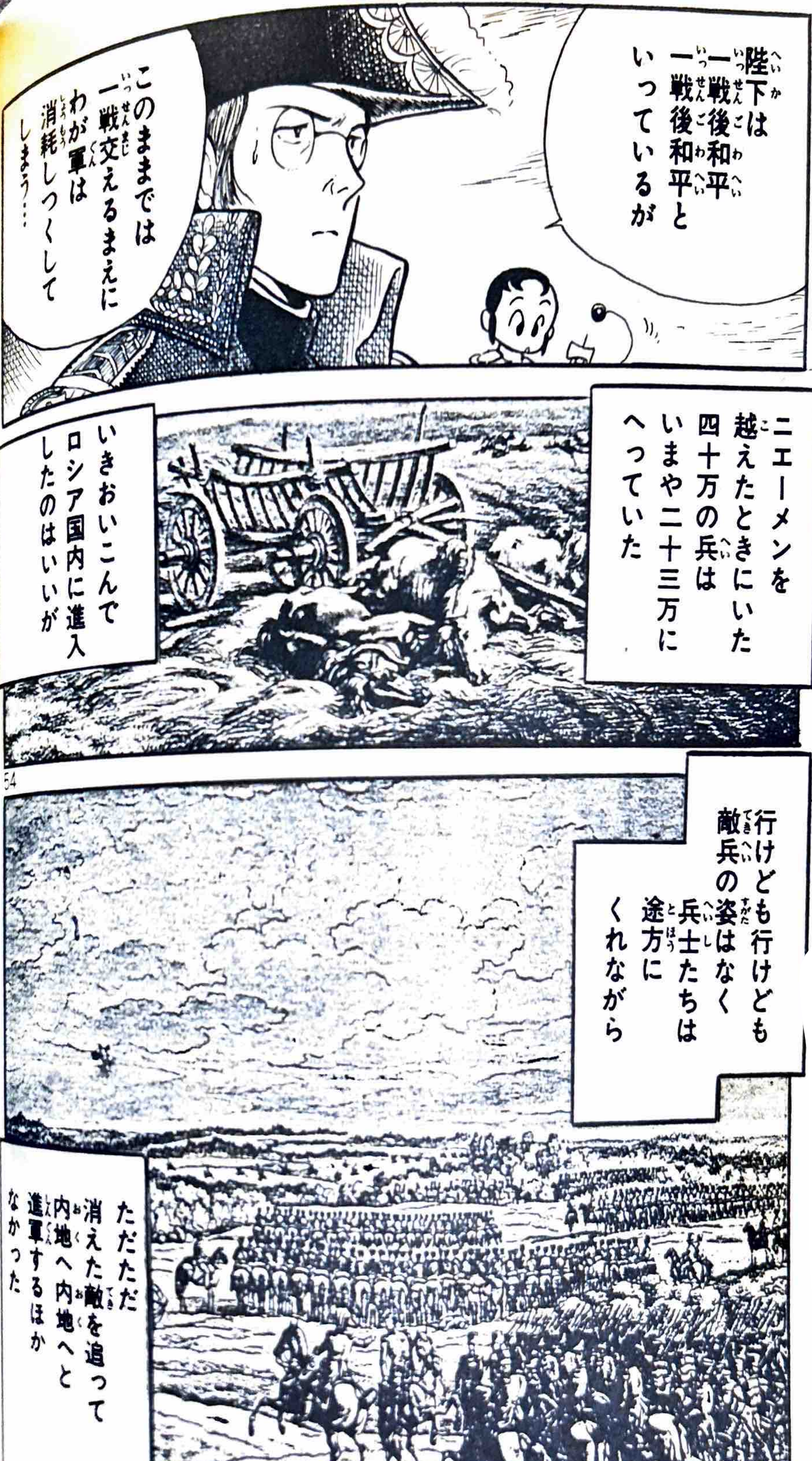
だがロシア軍の退却により彼のおもわくははずれた
ロシア ロシアと 人馬は すすむ ロシアいよいな 住みよいな しゃれたもんくに ふりかえりゃ お国なまりの マルボロー
決戦を焦った彼は強行軍でロシア軍の追撃をはじめた
その結果彼の意思に反し
フランス軍はどんどんロシアの内地へさそいこまれていった
それはまさに神が仕組んだ悪魔のワナであった

第3章　燃える大地

なに？
ウィルナにロシア軍はいない？
アレクサンドルはリトアニアの首都をすててまで退却したというのか？
はっ 敵は村々に火をつけ退却を続けています
クソ!! また追っかけか!!
陛下 強行軍による被害にはばかにできないものがあります ——前衛はともかく…
コランクール将軍

＊草木や家などを焼いてしまう戦術のこと。


そのため
本隊は落伍兵を
待つために
ウィルナに二週間も
とどまることになった
ハラ
へった
戦いは
長期戦の様相を
みせてきた
ブルルル
53
ダブーの第1軍団は
バグラチオン率いる
西部第2軍を追撃
するために
一日も早く
バグラチオンを
つかまえて
決戦をすべく
バルクライ
ウィテブスク
ナポレオン
ウィルナ
にげよう
ミンスク
ダブー
わっ
コウノ
バグラチオン
ニエーメン川
ノルコウエスク
主力からはなれて
ミンスク方面に
向かって
行動していた
彼らは主力が
休んでいるあいだも
苦しい行軍を
続けていた
ごめんね
もっと
くわしく かきたいけど
……

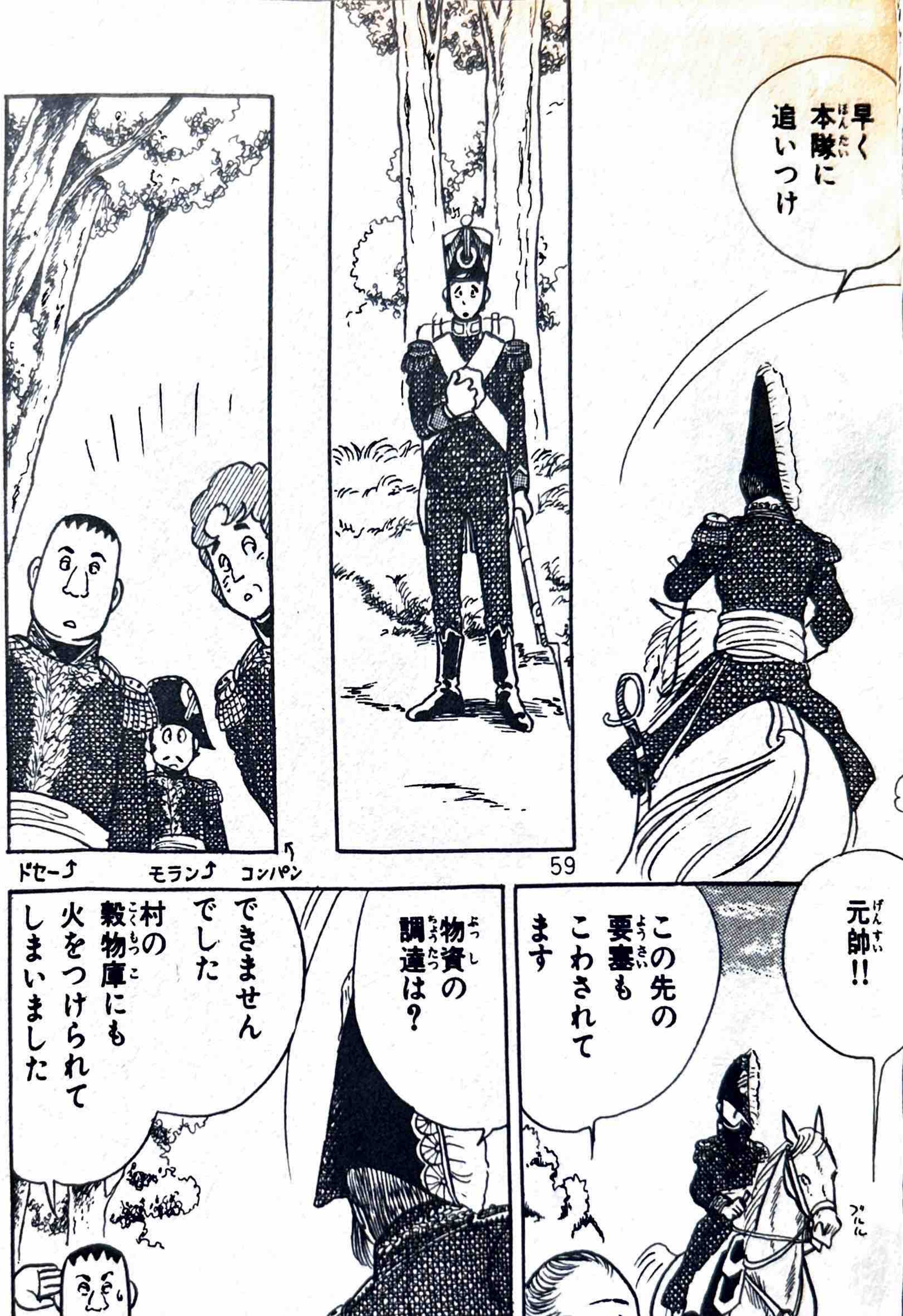

陛下は一戦後和平一戦後和平といっているが
このままでは一戦交えるまえにわが軍は消耗しつくしてしまう…
ニエーメンを越えたときにいた四十万の兵はいまや二十三万にへっていた
いきおいこんでロシア国内に進入したのはいいが
行けども行けども敵兵の姿はなく兵士たちは途方にくれながら
ただただ消えた敵を追って内地へ内地へと進軍するほかなかった

はあ
はあ
ヨロ。。
もう だめだ あ〜
ヘタ〜
こら しっかり しろ!!
アウステルリッツのときは一日に75キロも進んだんだ
これくらいの強行軍（きょうこうぐん）がなんだ!!
すみません 三日も ろくなもん 食べて… ないんです
だまれ!!
はい ちょっと 待ってね

＊ナポレオンの兄ジョセフが王となっているスペインから徴兵した外人部隊。

ぼくはソラーノ
アミーゴ名前は?
ルノール
ヨロシクルノール
原隊へ帰れ!!
バトンで50回たたくぞ
グランドーはずっと先にいるぞ!!
元帥…!!
ジョセフ・ボナパルト連隊がなにをしてる!!

じゃ アミーゴ またね！
銃殺!!
ゴン…
苦しいのは だれもが 一緒だ



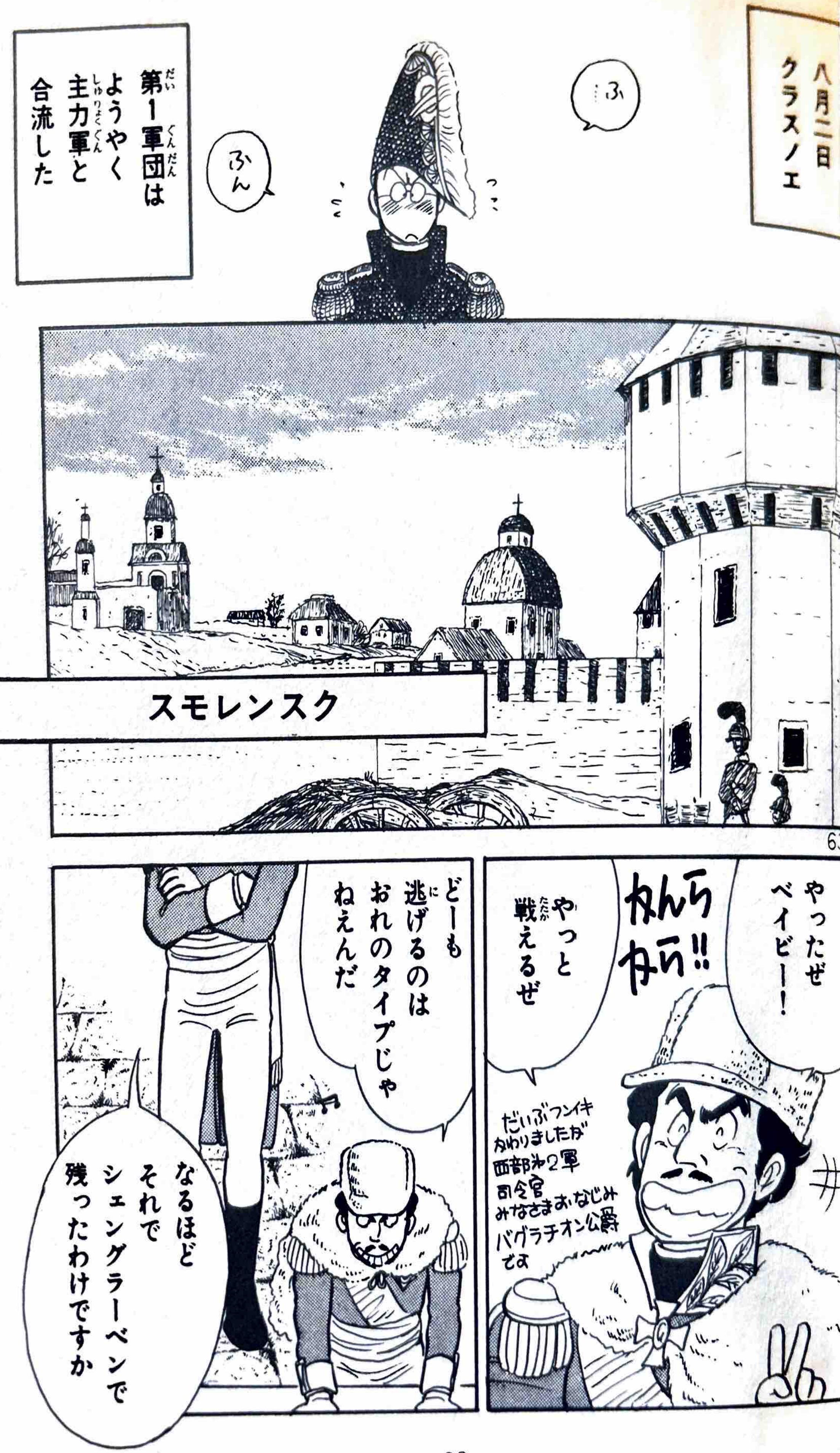
早く本隊に追いつけ
ドセー
モラン
コンパン
59
元帥!!
この先の要塞もこわされてます
物資の調達は？
できませんでした
村の穀物庫にも火をつけられてしまいました

ひきょうです!! 戦いもしないで逃げまわってるだけじゃなく
こんな汚い手を使うなんて!!
自分は軍人です 戦って死ぬなら文句はいいません
おーいおい
でも…
泣くな
これも戦争だ
でも 兵の士気がおとろえてるのは否めません
みんな飢え死にするくらいならコサックに刺されて死にたいとこぼしてます
わー
ちーん!!
HUM!
自分だって同じだ
死ねるものなら死にたいよ

60

元帥!!
ぐすっ
ぐすっ
バグラチオンがスモレンスクへ向かう行動をとっています
どうやらバルクライとスモレンスクで合流して攻撃に転じてくるもようです!!
なに!? 主力は?
主力はバルクライを追ってウィテブスクに到着しています
やった!! いよいよ決戦だ!!
わーい わい
はしゃぐなっ!!

われわれも
モヒレフを
経由して
スモレンスクに
向かう!!
バグラチオンから
目をはなすな!!
よし
やったるぜ
!!
一気に
カタを
つけてやる!!
ねえ
元帥
元帥
死にたいなんて
言っちゃ
いやですよ
!
あせっ


八月二日
クラスノエ
……ふ
ふん
第1軍団はようやく主力軍と合流した
スモレンスク
やったぜベイビー！
やっと戦えるぜ
だいぶフンイキかわりましたが西部第2軍司令官みなさまおなじみバグラチオン公爵です
どーも逃げるのはおれのタイプじゃねえんだ
なるほど それで シェングラーベンで 残ったわけですか

まったく あなたときたら まっすぐ逃げれば いいものを
お初に 西部沖1軍 司令官 バルクライ・ド・トーリー
ちょいちょい ダブーに ちょっかいだしては たたかれてたでしょう
いや あれは つい
えーと
戦うのは いいですが 兵をむだにするのは 許せません
なんだこの えらそうに 総司令官面 すんな タコ!!
あなたを 追ってきた ダブーの軍団は クラスノエで ナポレオンと 合流しました
やったぜ あのハゲ こんどこそ ひとあわ ふかせてやる
お待ち なさい
なんだ もう片っぽの ハゲ!
あなたは まだおわかりに ならないようですね

消耗しているとはいえ敵はまだ十四万もいるのですよ
そのうえ士気もあがっています
あんた……
まさか…
一八一二年八月十六日

前日から
はげしい砲撃を
開始していた
フランス軍は
この日
スモレンスクに
総攻撃を
かけた
すばらしい
攻撃だな!!
待ちに待った
決戦ですからね
ここが落ちるのも
時間の問題だよ
ここで
主力をたたいたら
アレクサンドルは
和平に応じる
でしょうか
フリアン
あれが
見えるか
ぺい!!

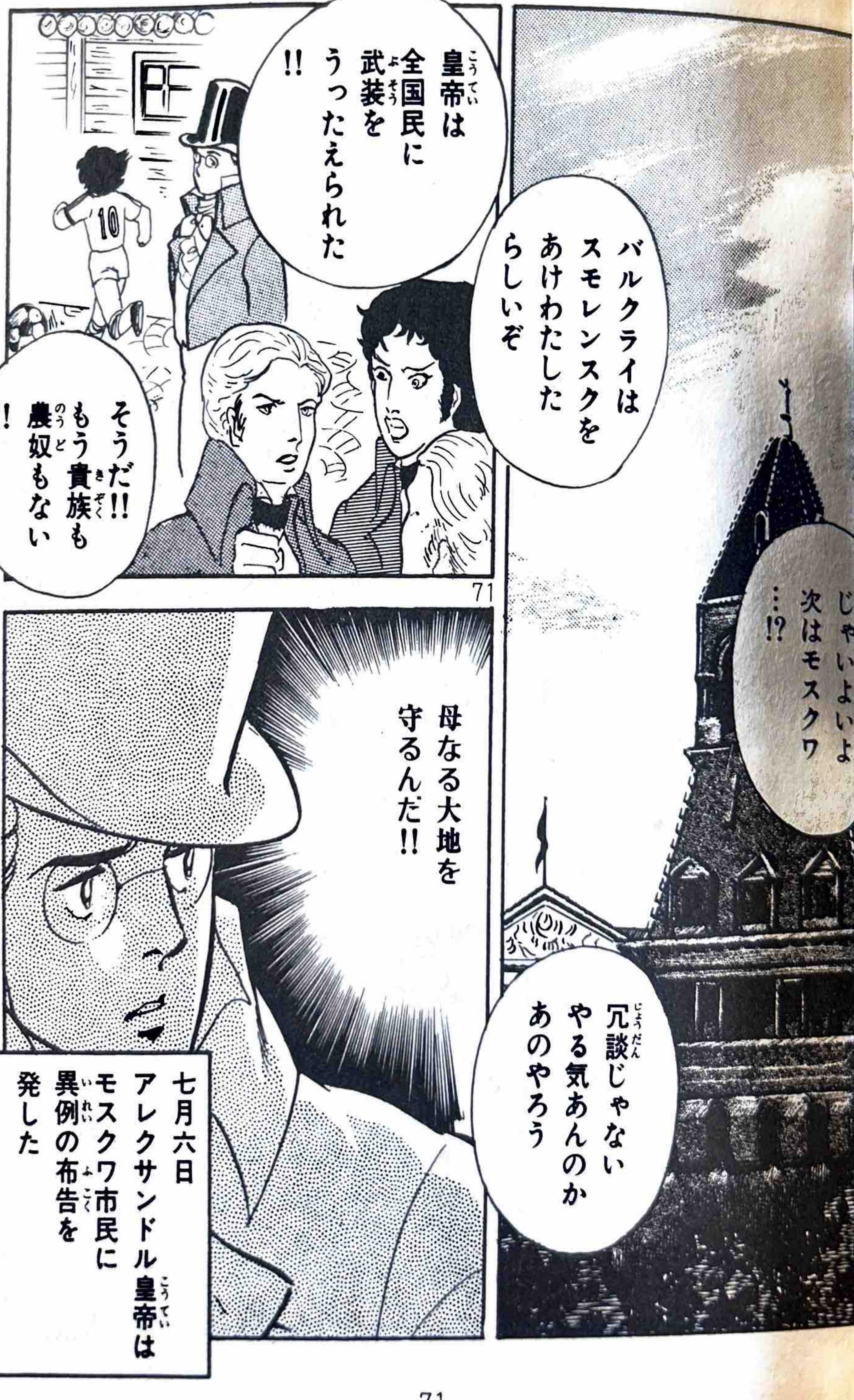
えっ?
ドターん
橋のところにいるやつらはバルクライの後衛だ
守備隊の援護にまわってるんだ
どういうことですか…?
ケツをかためてるってわけだ
うっそオ…
じゃあまさか…
ロシア軍が撤退してる!?
まちがいありません続々とモスクワ街道へ…

皇帝(こうてい)!!
て…敵(てき)は
敵(てき)は
敵(てき)はスモレンスクにも火をつけました!!
ゴオオオオ

ガオオオー
あぜん

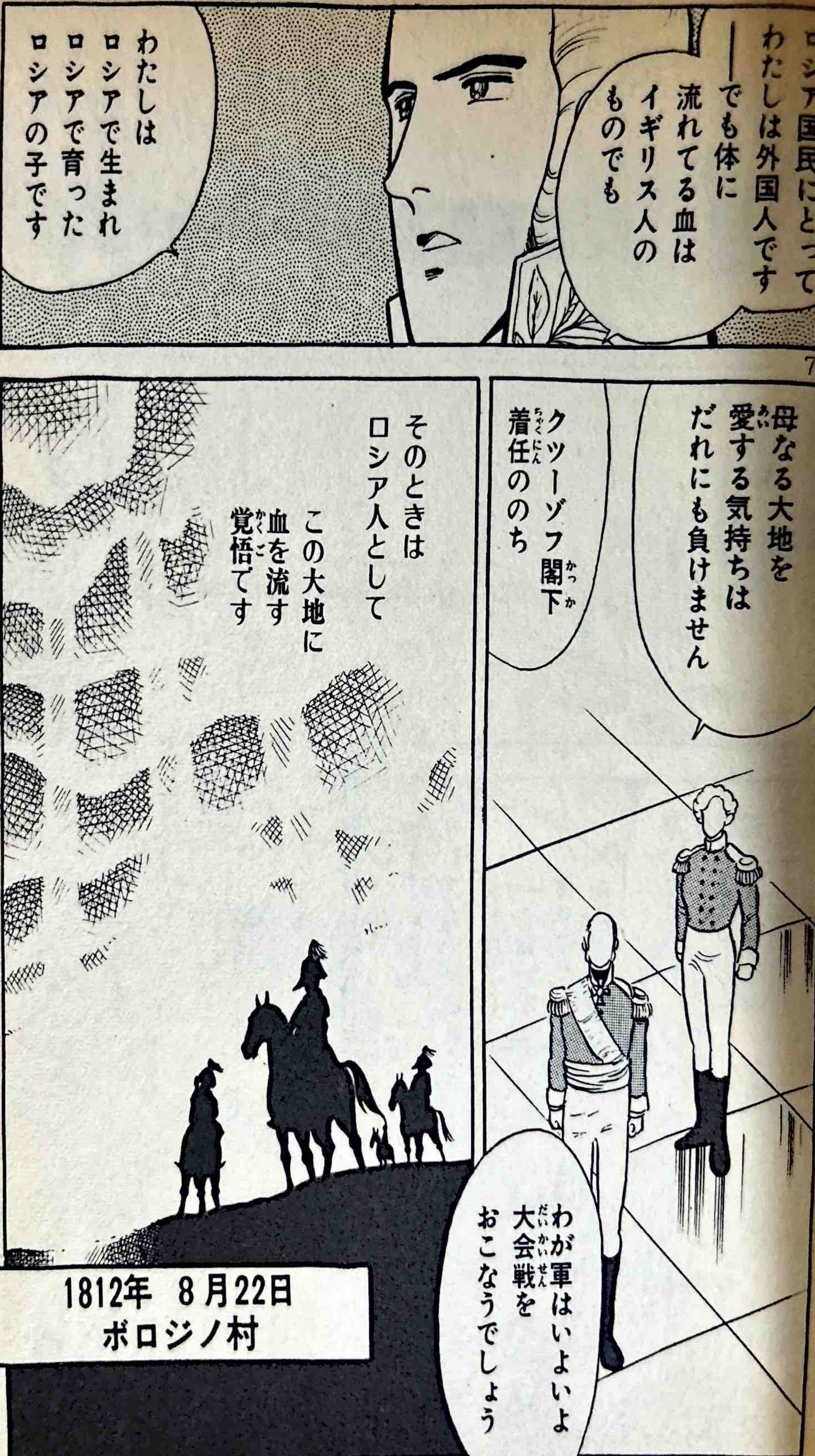
イタリア南部にある火山。79年の大爆発でポンペイの町をうめつくした。

第4章　祈り



じゃいよいよ次はモスクワ…!?
冗談じゃないやる気あんのかあのやろう
バルクライはスモレンスクをあけわたしたらしいぞ
皇帝は全国民に武装をうったえられた!!
そうだ!! もう貴族も農奴もない!!
71
母なる大地を守るんだ!!
七月六日アレクサンドル皇帝はモスクワ市民に異例の布告を発した

＊その役目の人をかえること。

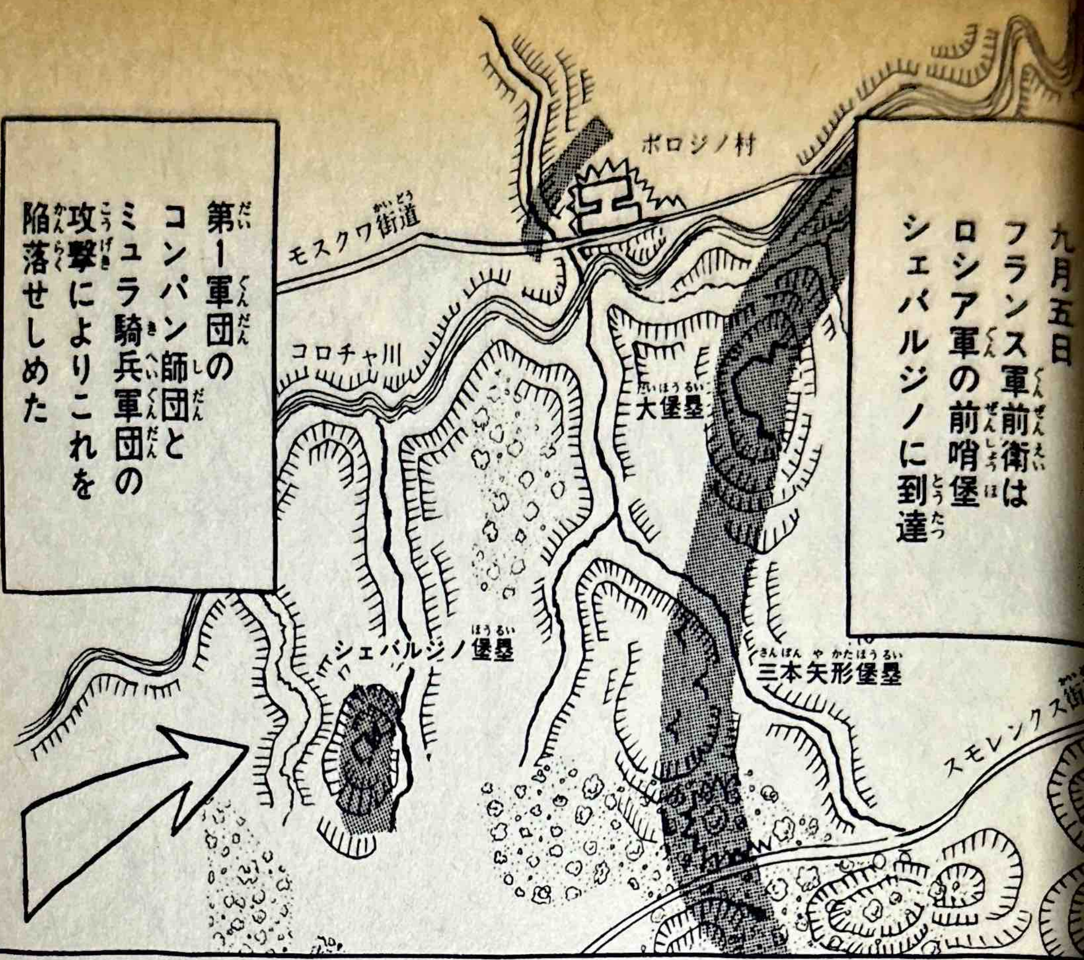

ロシア国民にとって
わたしは外国人です
——でも体に
流れてる血は
イギリス人の
ものでも
わたしは
ロシアで生まれ
ロシアで育った
ロシアの子です
母なる大地を
愛する気持ちは
だれにも負けません
クツーゾフ閣下
着任ののち
わが軍はいよいよ
大会戦を
おこなうでしょう
そのときは
ロシア人として
この大地に
血を流す
覚悟です
1812年 8月22日
ボロジノ村

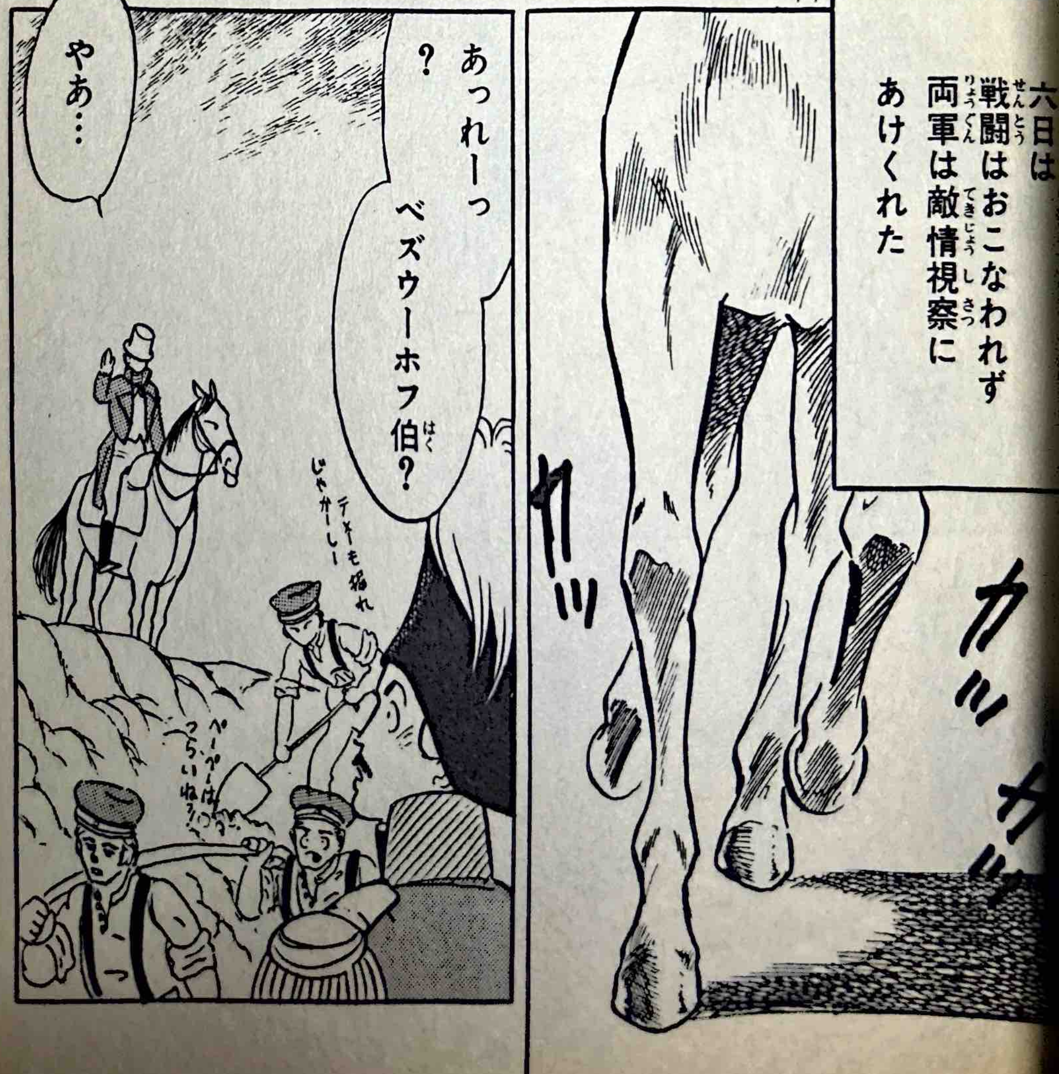
左には 森
中央には 古い堡塁
右がすこし 弱いようだね
——まあ 川があるが
あれが ボロジノ村だな
このへんで 手を打とうか フランス軍は ものすごい いきおいで モスクワに 向かってきてる
早いところ 場所をきめて 迎えうつ準備を しなくちゃな

＊とりでのこと。

バルクライが よく逃げてくれた おかげで フランス軍はいまや 十三万にへっている
ニエーメンを 越えた時点じゃ 四十万もいたのにな これで数の上では ほぼ同数になった
だが相手は ナポレオンだ まだまだ 油断はできん
さ いそいで 要塞線を 築くんだ!!
はっ!!
ところで アンドレイ
やはり 実戦配備を 望むのかね
はい
わたしは 副官の職より 連隊を与えて いただいたほうが 光栄です

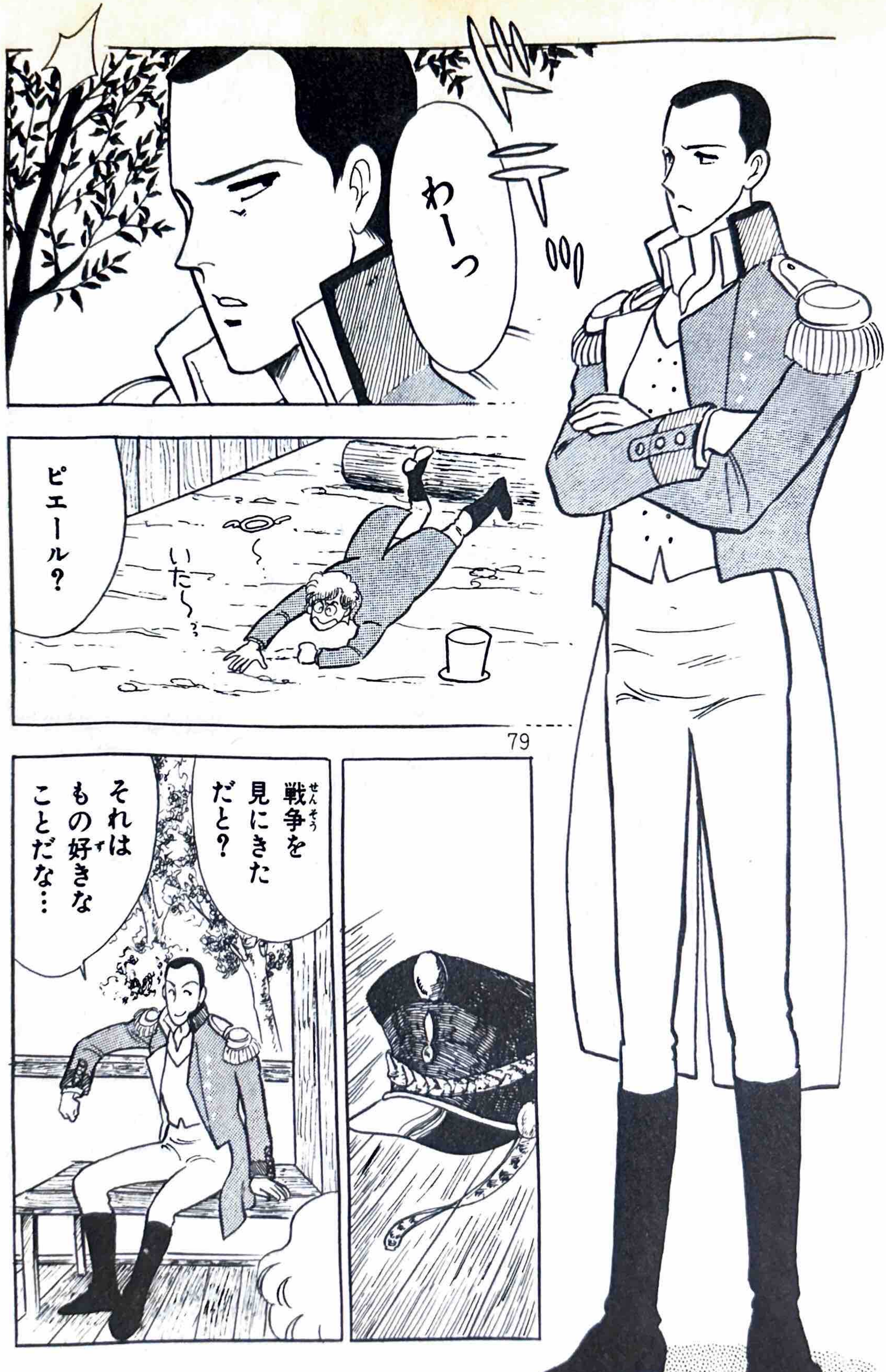
そうか
決心はかたいようだな
この戦いはいままでの戦いのなかで
もっともきびしい戦いになるだろう
しかし将軍……わたしたちは
祖国の大地に立っているのです
ともに戦い わがロシアの大地を守ろう


九月五日
フランス軍前衛は
ロシア軍の前哨堡
シェバルジノに到達
第1軍団の
コンパン師団と
ミュラ騎兵軍団の
攻撃によりこれを
陥落せしめた
ボロジノ村
モスクワ街道
コロチャ川
大堡塁
シェバルジノ堡塁
三本矢形堡塁
スモレンクス街


六日は
戦闘はおこなわれず
両軍は敵情視察に
あけくれた
カツ
カツ
カツ
あっれーっ
？
ベズウーホフ伯？
やあ…
テメーも掘れ
じゃかーしー
ペーペーは
つらいねェ

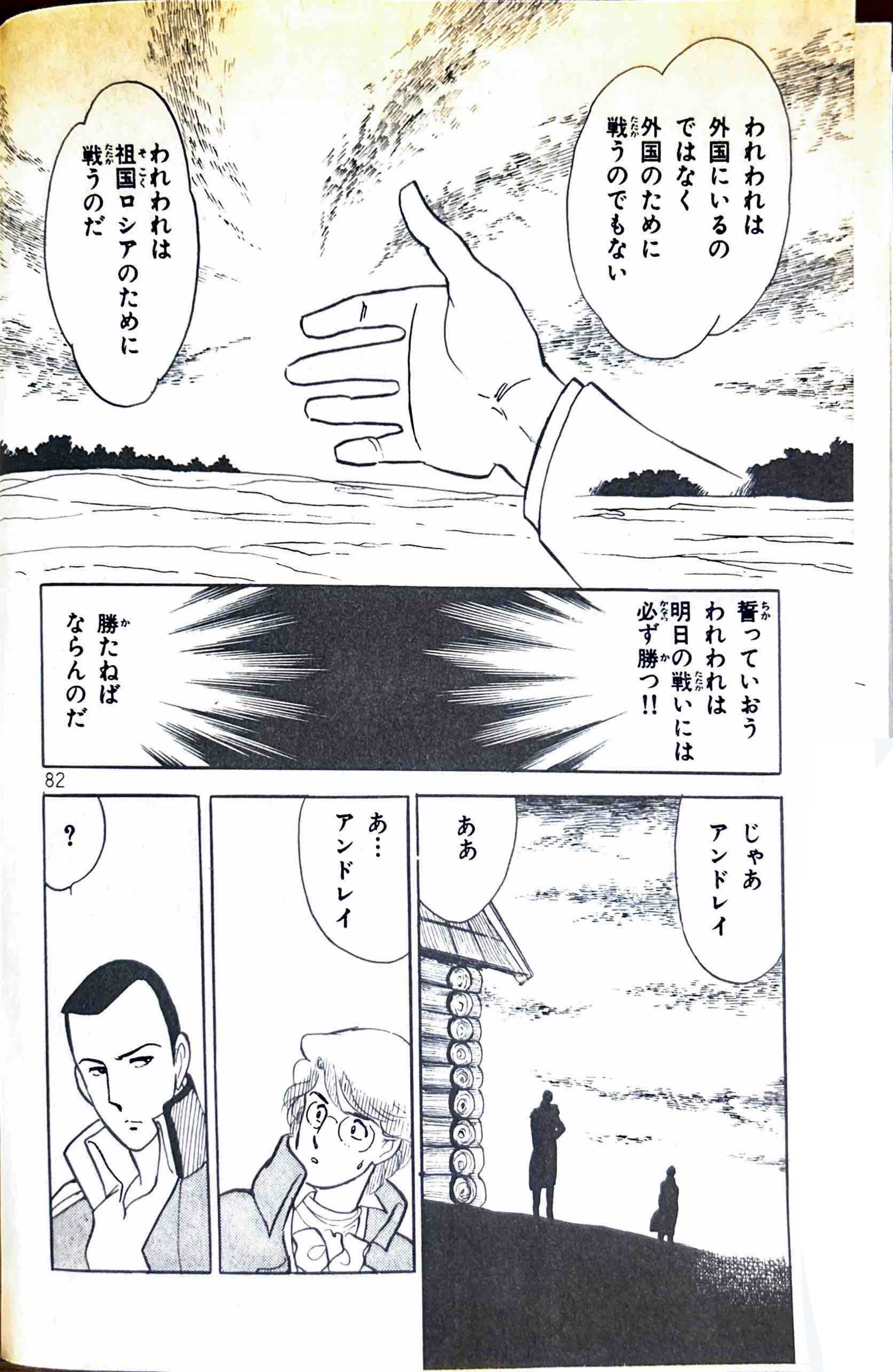
どうしたんです こんなとこに なんの用です?
なにっ?
うりゃっ はよせんかあ
なんの用って いわれると こまるんだけど

戦争を
見にきたんだ
は…あっ?
?
プルルル…
アンドレイは どこかな…
ああ 公爵なら ……

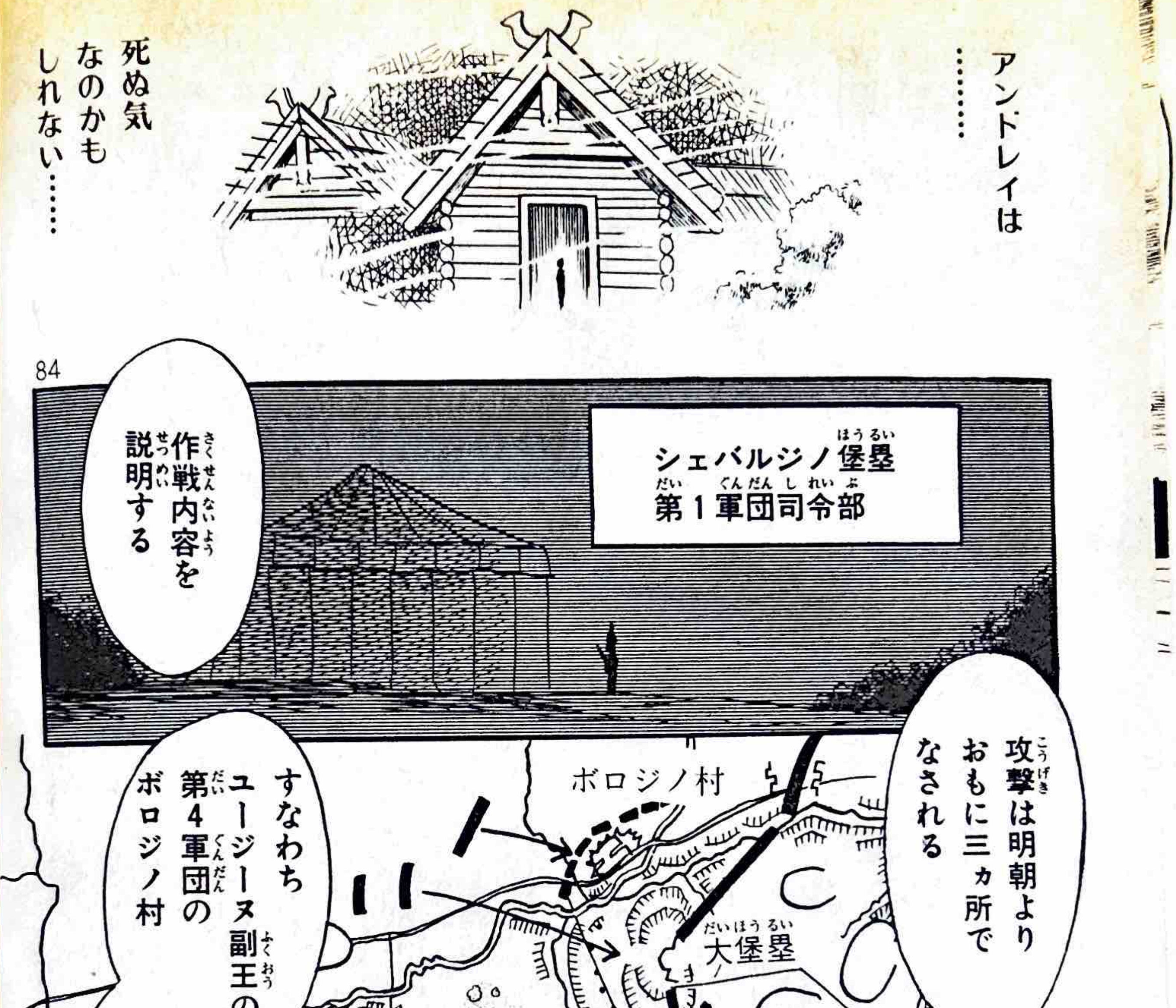

わーっ
ピエール？
いた～っ
戦争を見にきただと？
それはもの好きなことだな…

そんないいかたしないでくれよ
戦争がきみのいうようにさけられない事実なら
え――とだねぼくも今日一日戦闘配置を見てまわったんだけど
ぼくはそれをこの目でみておく必要があると思ったんだ
で?きみのご意見は?
はは戦闘配置だって!
むっ…
まあいいや続けて
わが軍は左がうすくて右翼がのびすぎてるような気がするんだけど…
それが戦闘に関係があると思ってるのかな?
80

えっ？
勝敗をきめるのは陣地じゃないし作戦でもない
兵士の士気だ
アウステルリッツでわれわれがなぜ負けたと思う
作戦か？陣地か？
われわれにはあそこで戦う理由がなかったからだ
だが明日の戦いはちがう

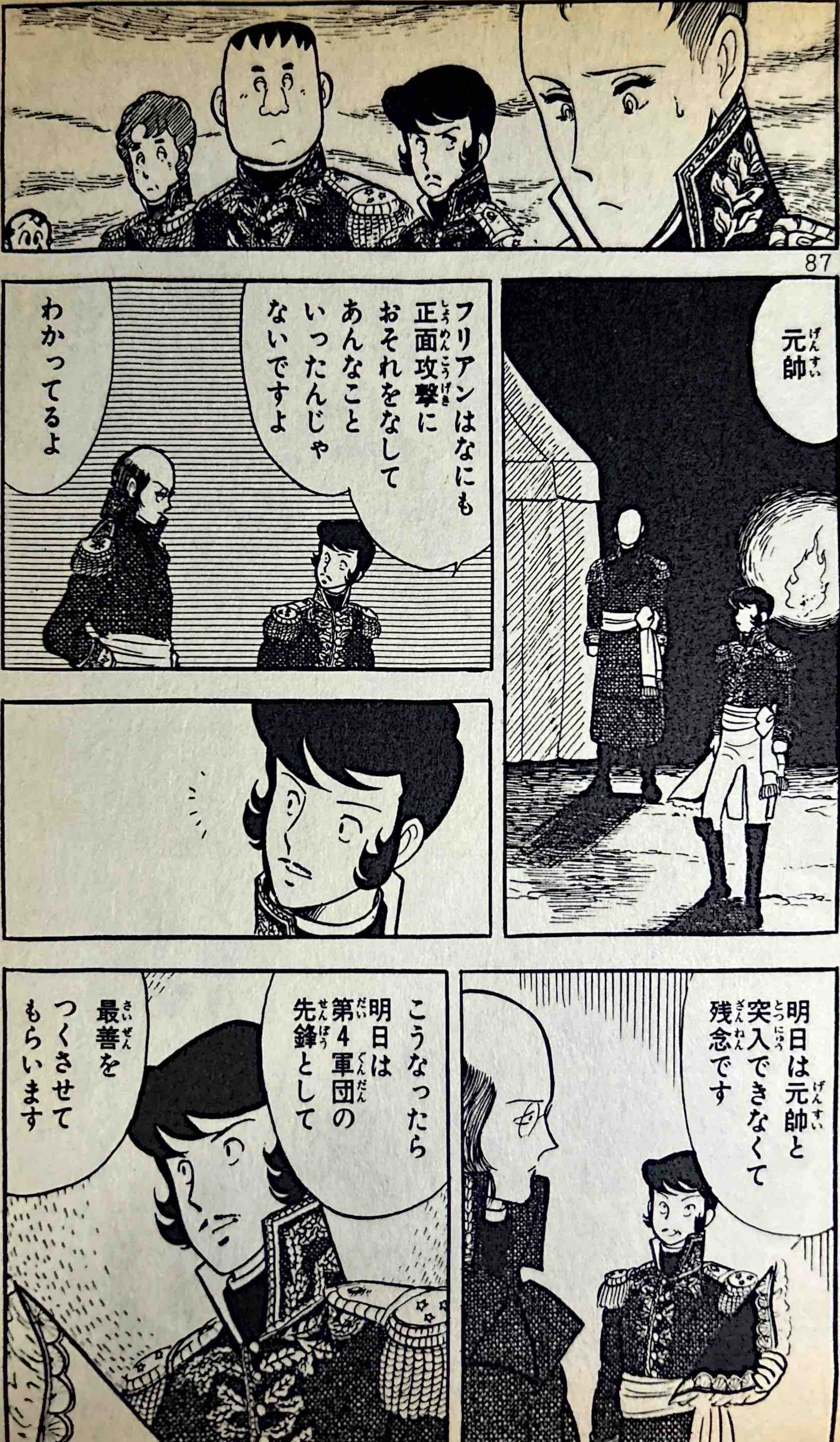

われわれは外国にいるのではなく外国のために戦うのでもない
われわれは祖国ロシアのために戦うのだ
誓っていおう われわれは明日の戦いには必ず勝つ!!
勝たねばならんのだ
じゃあ アンドレイ
ああ
あ… アンドレイ
?

83


アンドレイは……
死ぬ気なのかもしれない……
シェバルジノ堡塁
第1軍団司令部
作戦内容を説明する
攻撃は明朝よりおもに三ヵ所でなされる
すなわちユージーヌ副王の第4軍団のボロジノ村
および大堡塁へのアタック
そしてネイ元帥の第3軍団による矢形堡塁北部へのアタック
ボロジノ村
大堡塁
三本矢形堡塁

わが軍は ポニアトウスキー殿下の 第5軍団の援護で 敵左翼の 三本矢形堡塁の 南側に攻撃を かける
セミヨノフスコエ村
突入する 師団は コンパン ドセー フリアンは 予備
モランと ギュダンは 第4軍団配下へ 出張だ
おしまい
第5軍団は 森をぬけて くるんでしょう?
おれたちだって 森をぬけて 行くんだぜ
こりゃ 死ぬな
敵要塞の まっ正面で 隊列を ととのえるのか
地獄だ なあ…
元帥 この作戦では 損害のみ多く 利は少ないと 思われます
敵は要塞線をつくり 満を持してわが軍を 待ちかまえてるのに わが軍は全戦域にわたり 正面攻撃をおこなう のみじゃないですか

＊意見をくわしく申しのべること。


元帥
フリアンはなにも正面攻撃におそれをなしてあんなこといったんじゃないですよ
わかってるよ
明日は元帥と突入できなくて残念です
こうなったら明日は第4軍団の先鋒として
最善をつくさせてもらいます

自分も はっきりいって この作戦は 歯がゆいです
なんと いうか ―力攻めと いうのは…
陛下らしく ないですからね
ポン
待ちに待った 決戦だと いうのに…

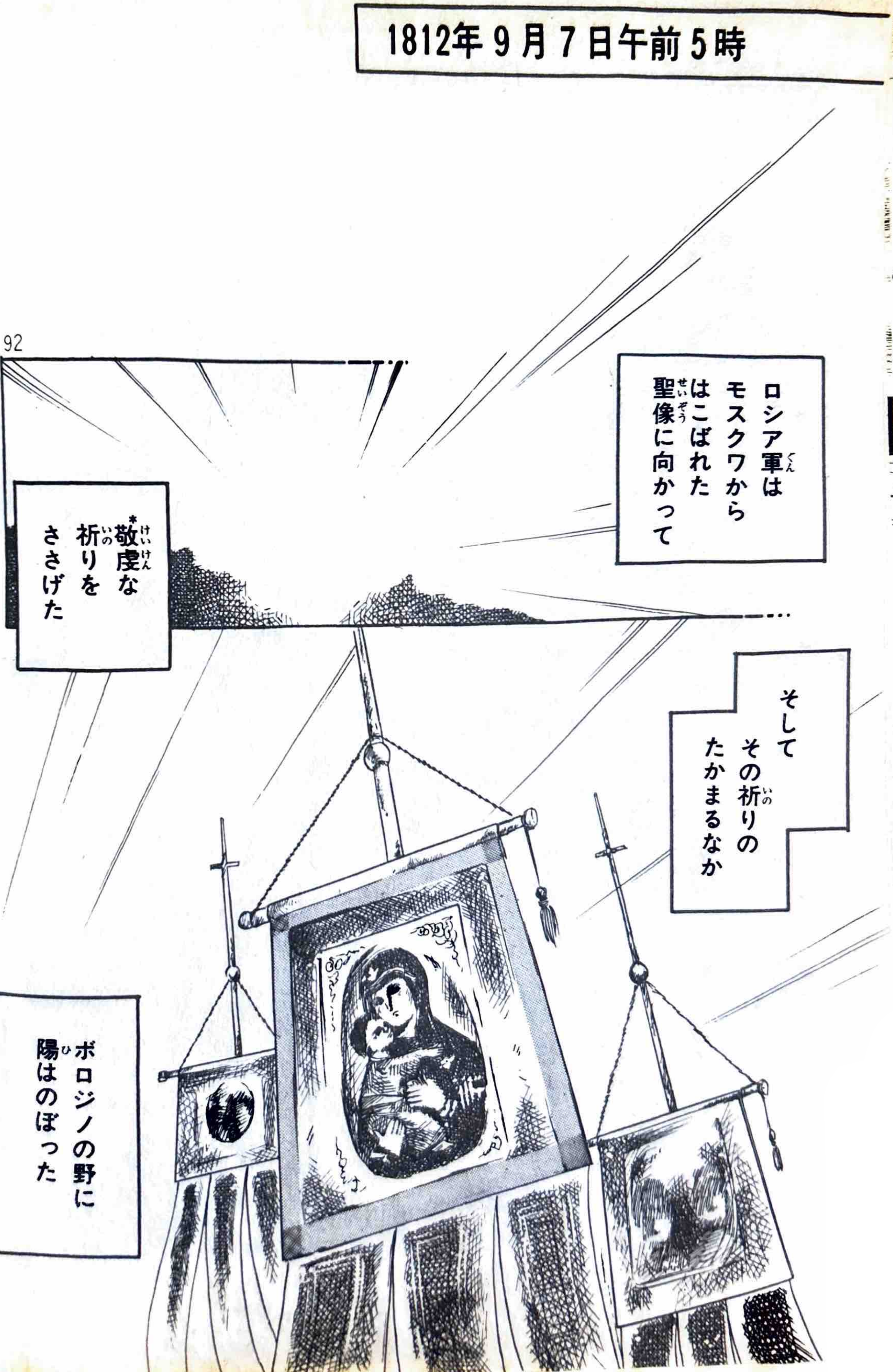
アウステルリッツのときは……
陛下はわれわれを信頼してくれて…
なんだぐちるなおまえらしくないぞ
ぴぃぴぃぴぃ
決定的勝利を得られなければ和平はあり得ません
ロシア人たちは並々ならぬ決意でこの戦いにのぞんでます
自分は軍人です死ぬことはなんとも思ってません
でも同じ死ぬならより大きな勝利を得られるほうに………
——すみません

元帥のほうがずっと……
もういい泣くな
いまの状態では正面攻撃しか手段はないのはたしかだ――敵が必死なら
われわれも必死だ
まさしくそのとおりだった
ロシア軍はついに首都モスクワを前にフランス軍の前に立ちはだかった
彼らはもはや逃げることはない
フランス軍が待ちのぞんでいた決戦のときがきたのである

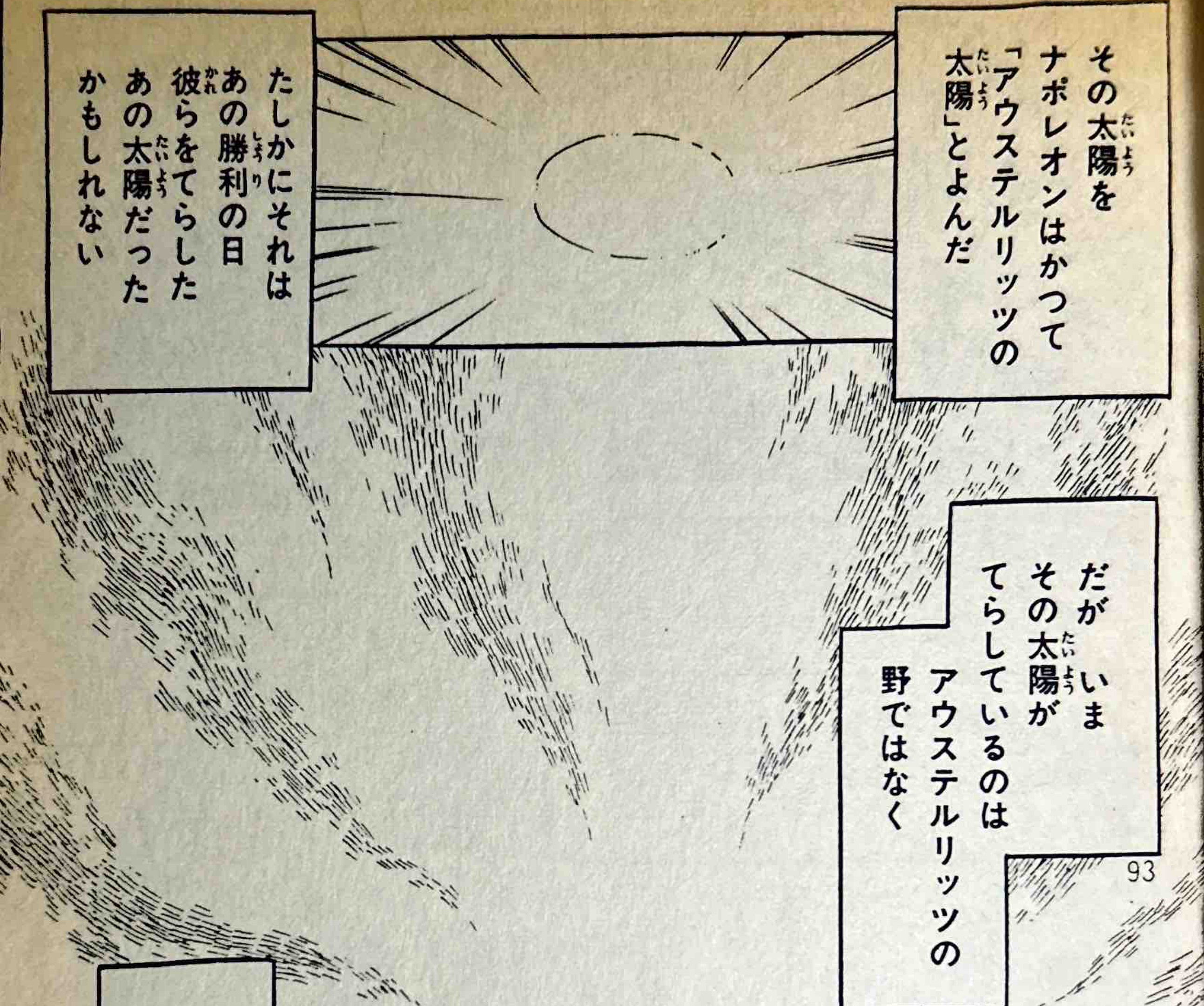
90

やっとつかまえたぜ
もう逃げんなよ!
明日はあんたらをかたづけて
おれたちはフランスへ＊凱旋だ!!
ロシア軍めやっと戦う気になってくれたか
ロシア国内に侵攻してから味あわされてきた失望を
倍にしてかえしてやる

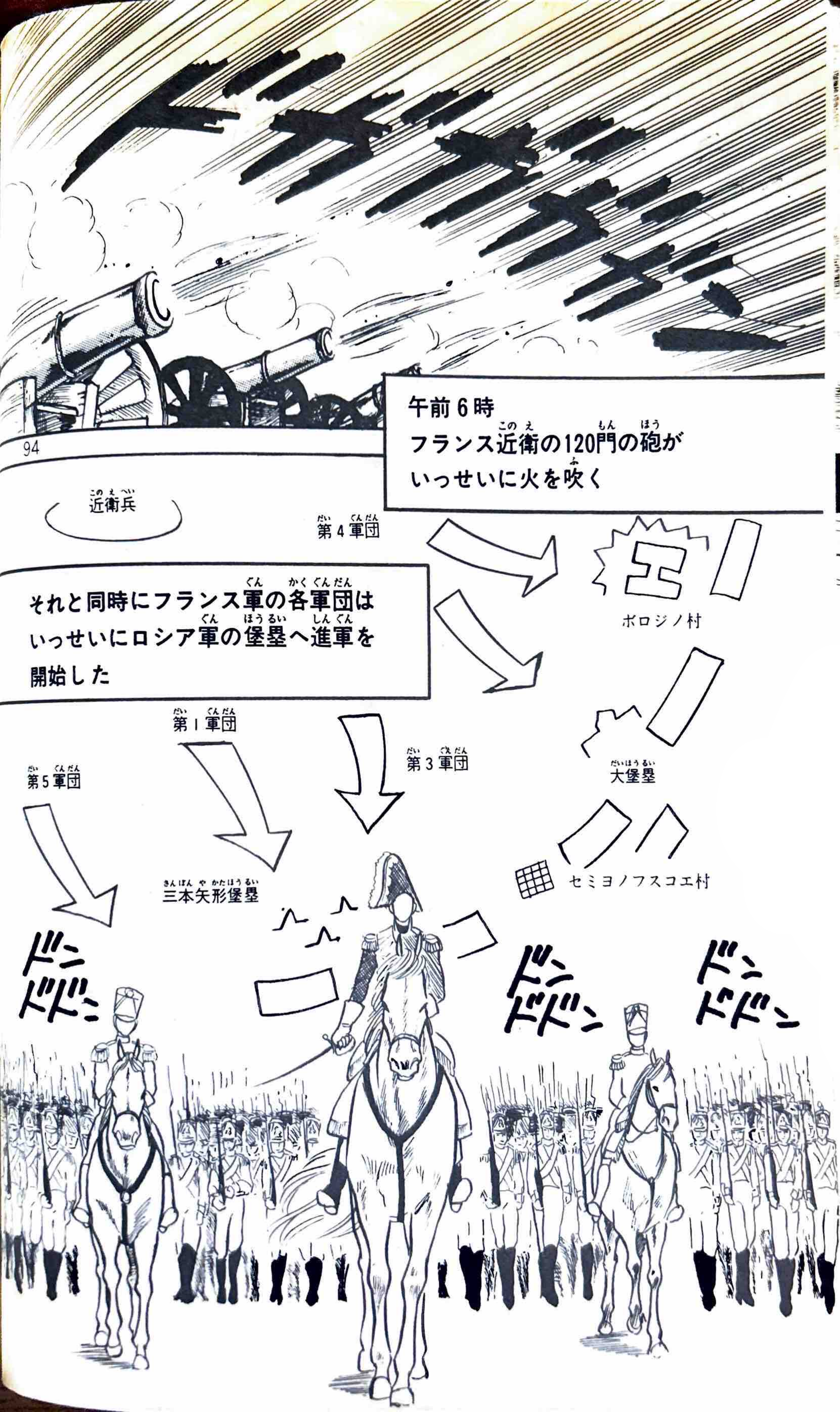
＊戦に勝って帰ること。



＊ふかくうやまい、つつしみぶかいこと。

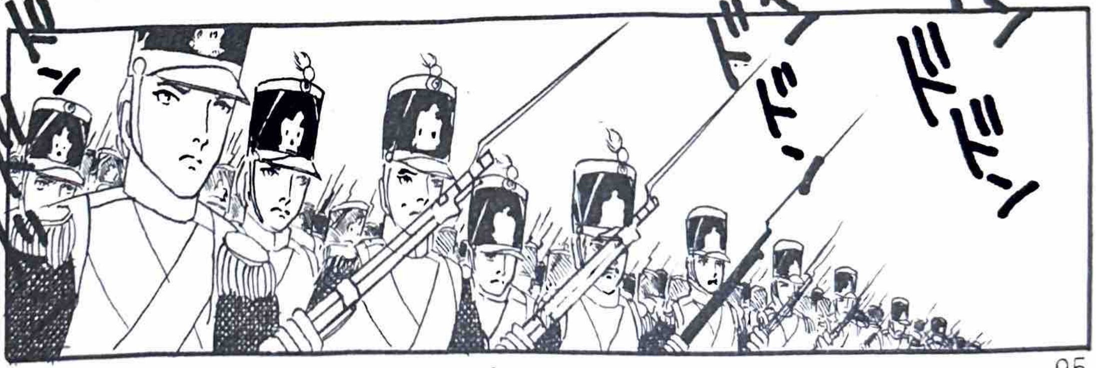

その太陽をナポレオンはかつて「アウステルリッツの太陽」とよんだ
たしかにそれはあの勝利の日彼らをてらしたあの太陽だったかもしれない
だが　いまその太陽がてらしているのはアウステルリッツの野ではなく
ロシアの大地であった

第5章　殺りくの大地

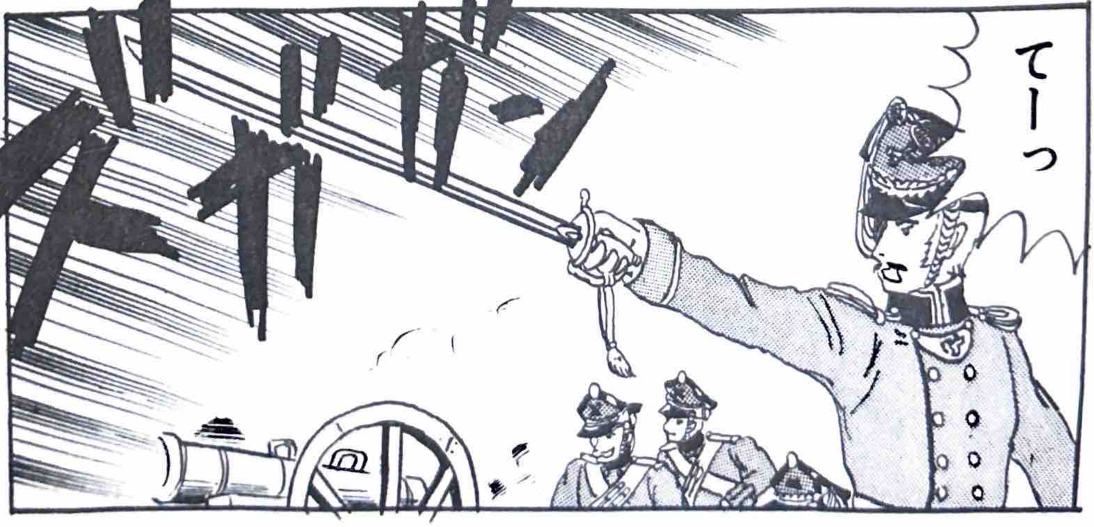


午前6時
フランス近衛の120門の砲がいっせいに火を吹く
それと同時にフランス軍の各軍団はいっせいにロシア軍の堡塁へ進軍を開始した
近衛兵
第4軍団
ボロジノ村
第1軍団
第3軍団
大堡塁
第5軍団
三本矢形堡塁
セミヨノフスコエ村
ドン ドドン
ドン ドドン
ドン ドドン

三本矢形堡塁
ドドン
ドガガン
第1軍団　コンパンドセー師団の
攻撃がはじまった

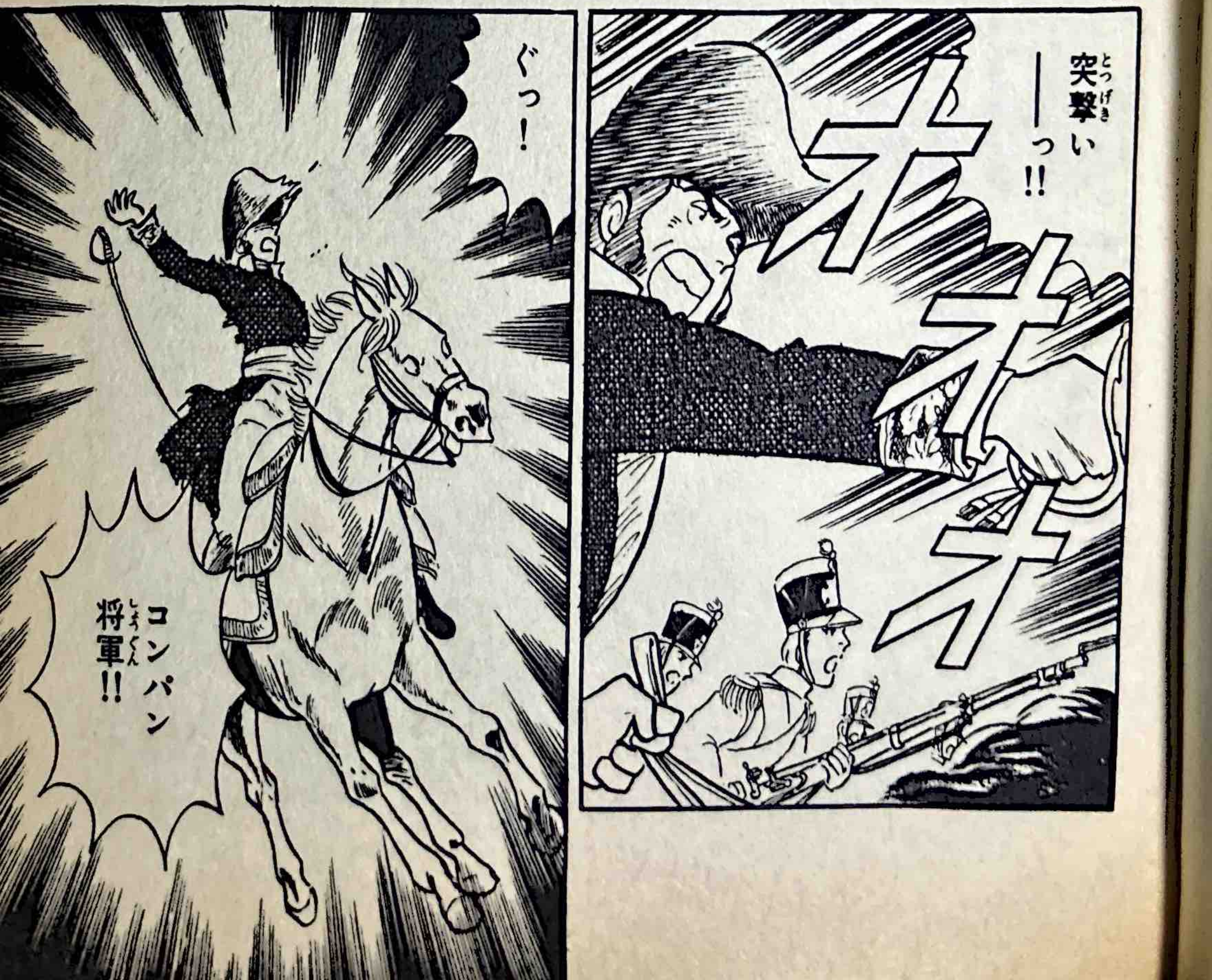

ドドン
ドドン
ドドン

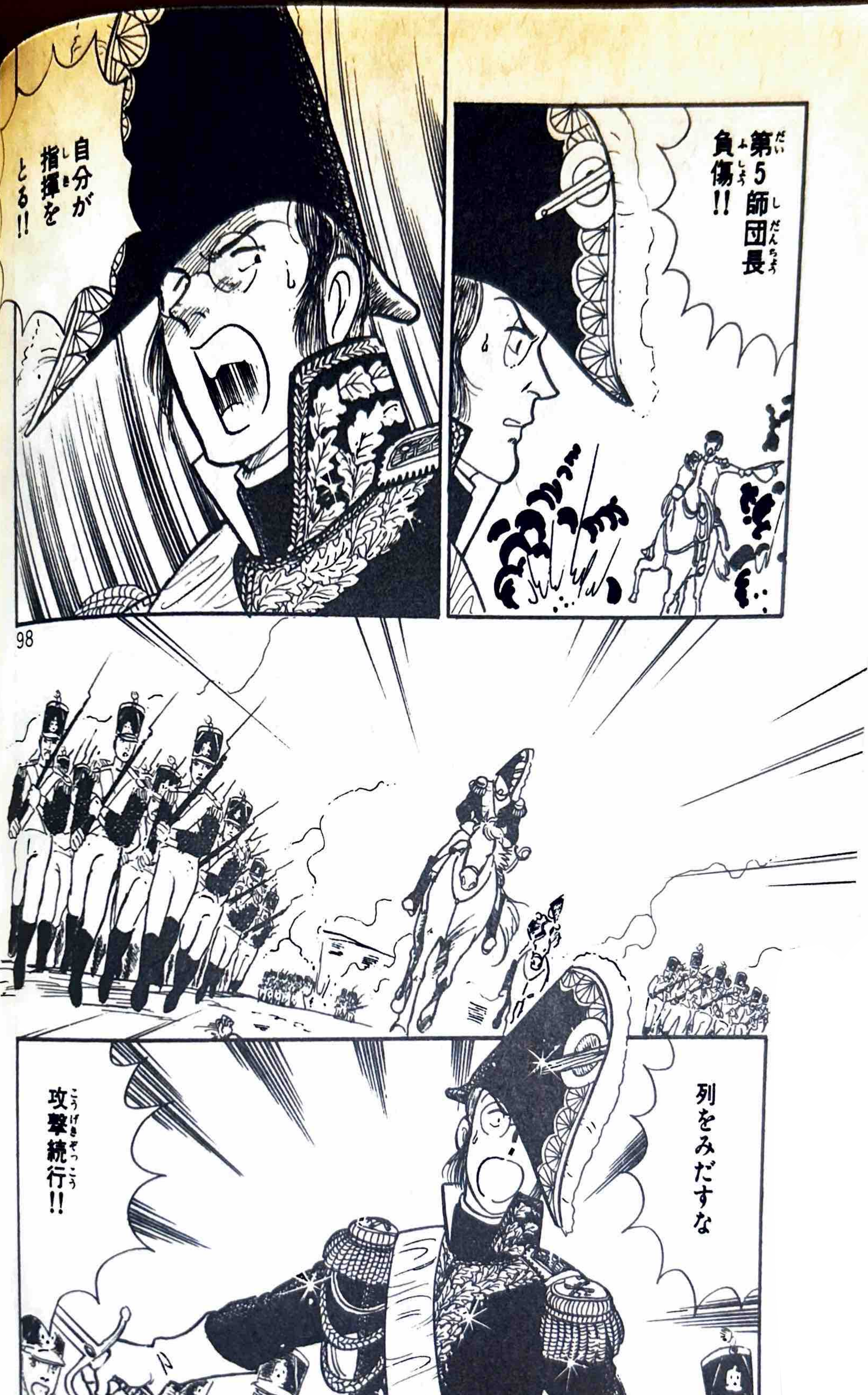
95


ガガガン
てーっ

突っこめ!!
ひるむな!!
ドドーン
ドドーン
ズドドドーン
くそ!!
まっすぐくるぜ
かまうこたねえ!!
どんどんくらわせろ!!
じゃまだ
民間人がなにしてやがる!!
どん!
よぉダンナ!!
こわくないのかい?

きみたちはこわいのか?
あったりめえよ 死んだらそれっきりだぜ
くるぞ!!
ドガン
ドガン
ウオオオオ

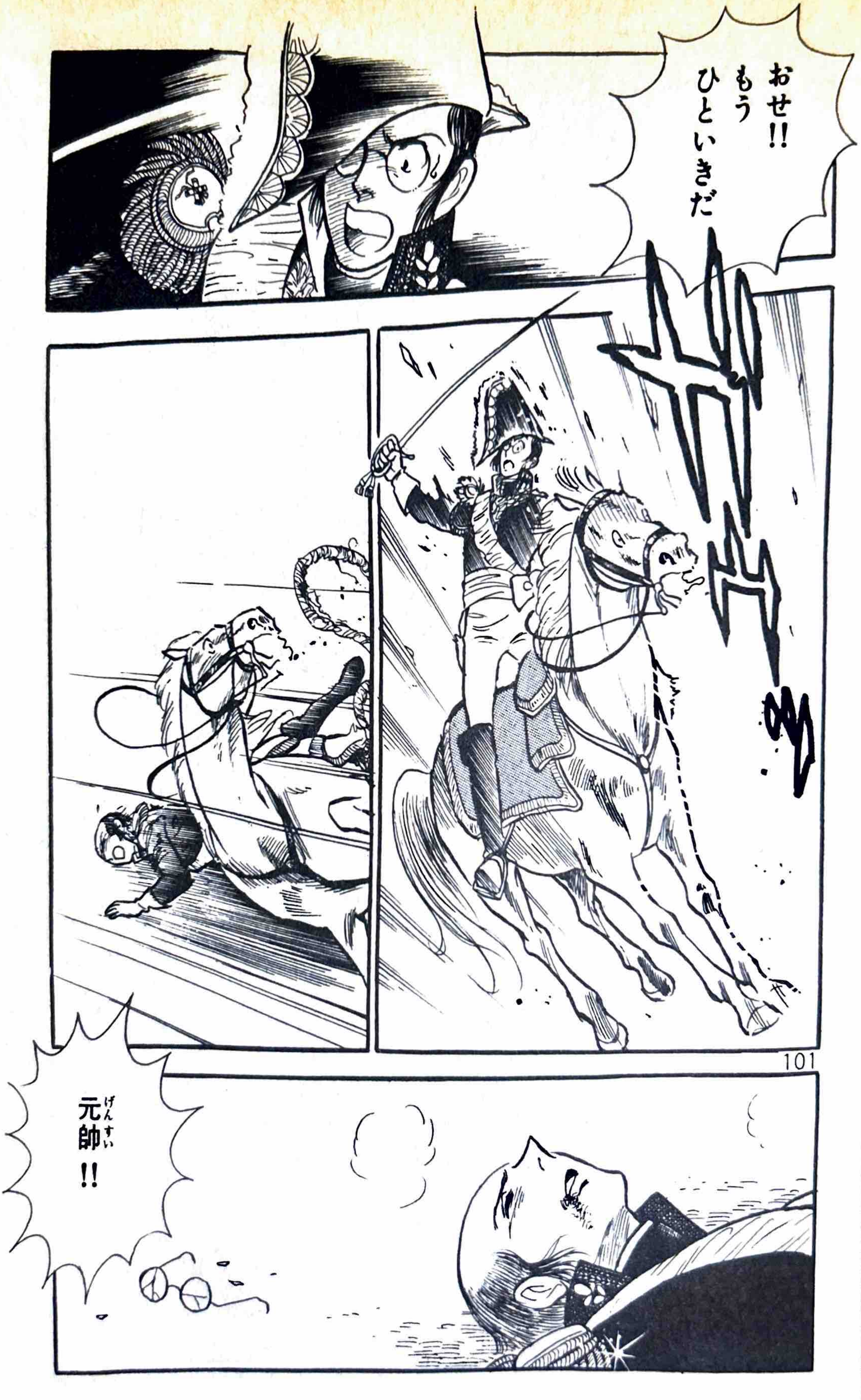

突撃い──っ!!
オオオ
ぐっ!
コンパン将軍!!



98

タマが
もう
ありません
!!
ななばか
どじ!!
予備隊へ行って
とってこい
ぼくに
手伝わせて
ください!!
99
はあ
はあ
ドゴーン

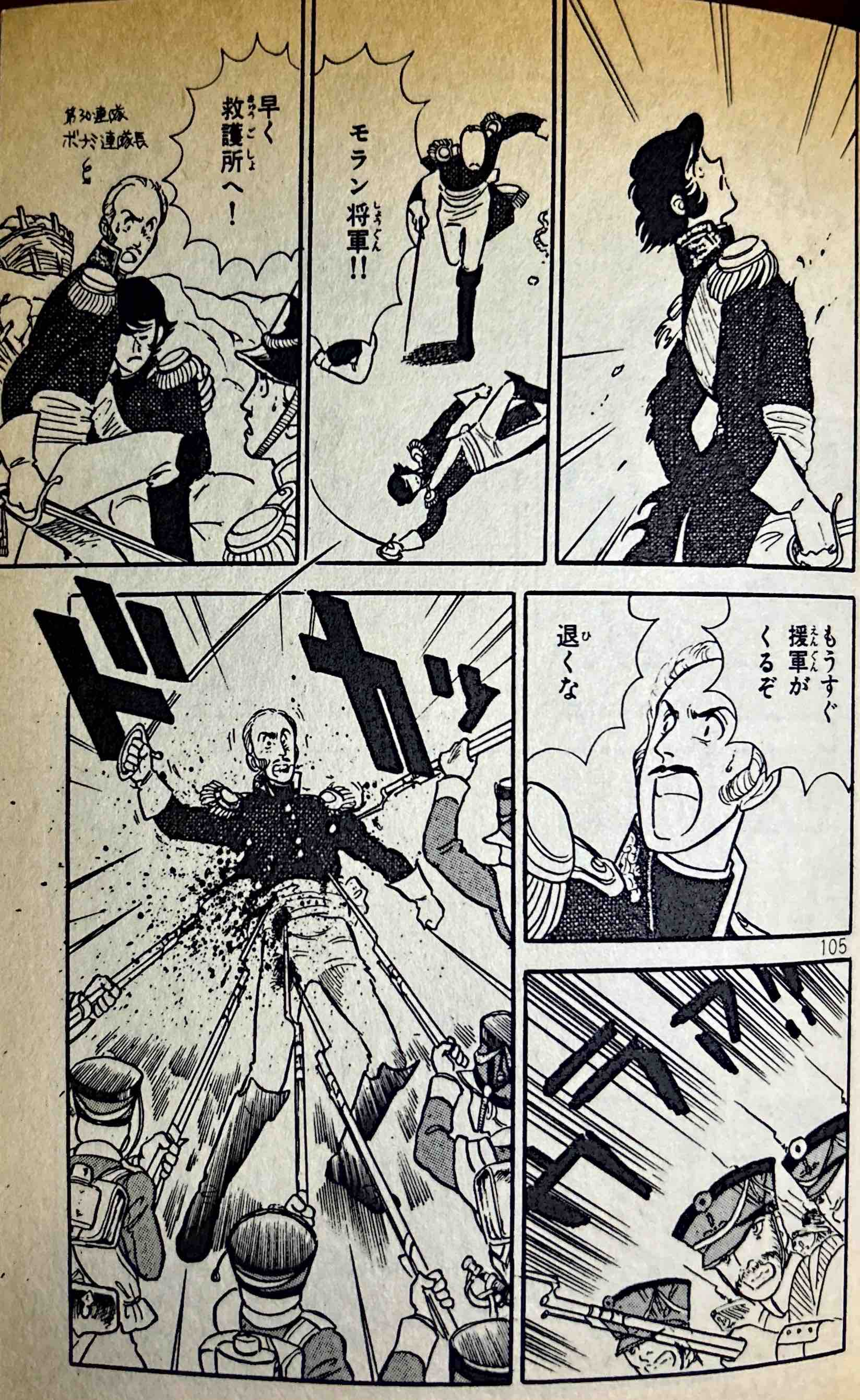
ドガーン
100
わあああああ


おせ!!
もう
ひといきだ
元帥(げんすい)!!

戦闘ははじめから大混戦だった
陛下!
情報は混乱し
ナポレオンもクツーゾフも正確な戦闘状況を把握できなかった
三本矢形堡塁は落ちました!!
増援をおくってください!
三本矢形堡塁は奪回されました!!
ダブー元帥戦死!!
元帥は死んでません
矢形堡塁もおさえ続けています
いったいなにがどうなっているんだ…
戦況は……
大堡塁は……?
ポカ
ポカ
くぬやろ

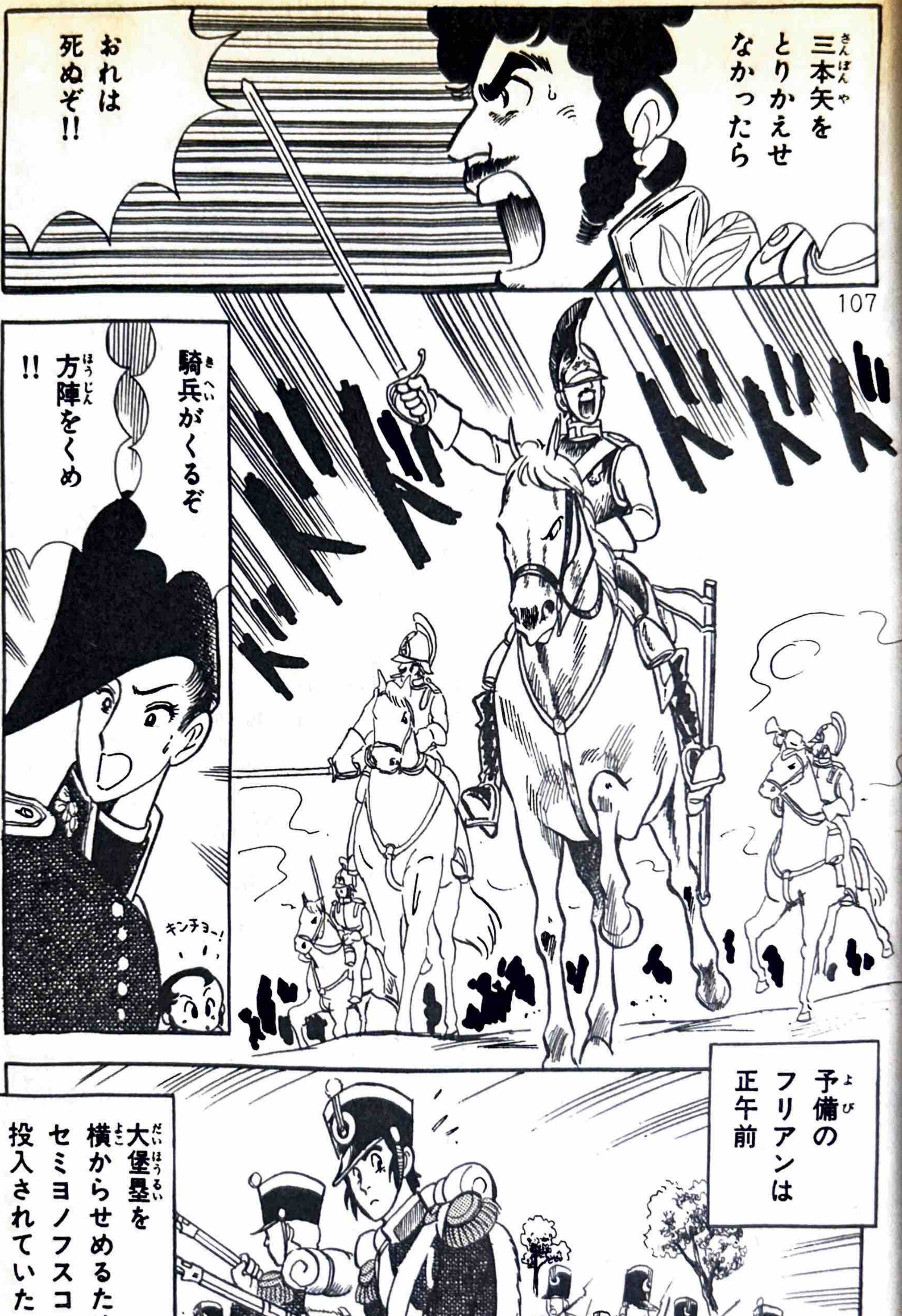
大堡塁　午前10時
とつげきーっ!!
わあああああ
ここではモラン師団が
敵の一瞬のスキをついて
いままさに大堡塁を
とったところであった
——だが……
いいか
兵士諸君!
大堡塁を
とりかえすのだ
!!

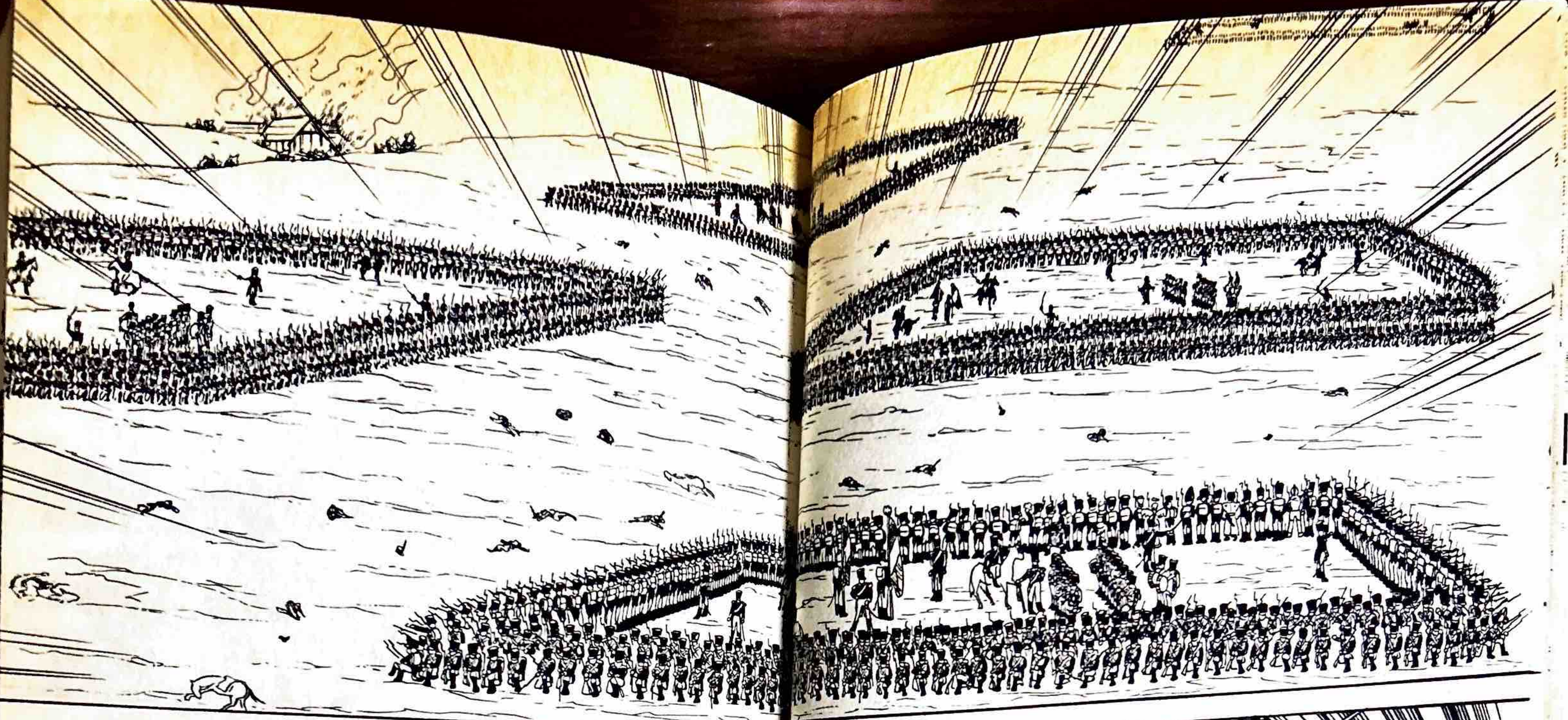
あの堡塁(ほうるい)を
ロシアと
おもえ!!
ウラアアア!!
退(ひ)くな!
おしもどせ!!
ふみとどまって
戦(たたか)え!!

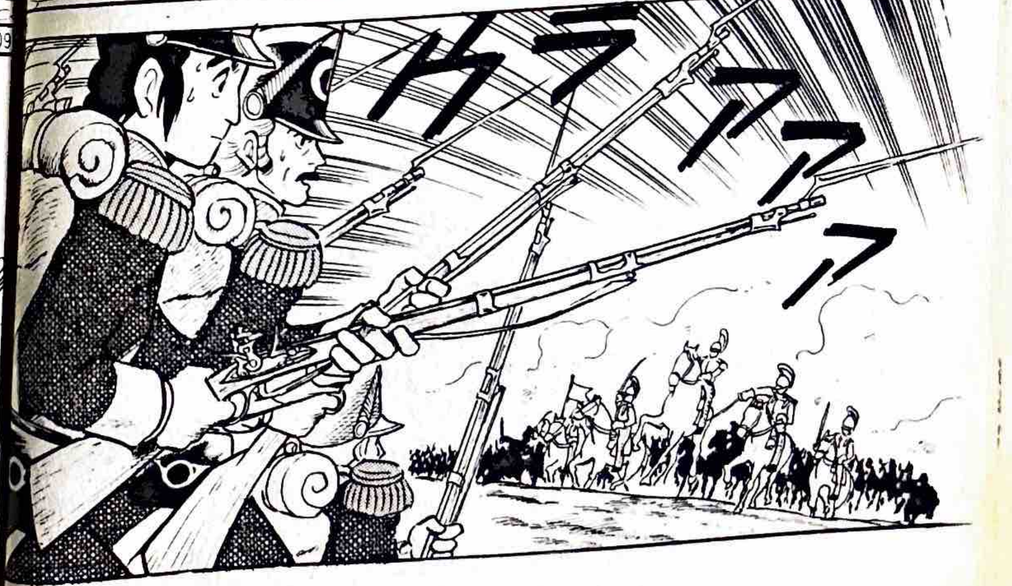

モラン将軍!!
早く救護所へ!
第30連隊 ボナミ連隊長
もうすぐ援軍がくるぞ
退くな
ドカッ

106

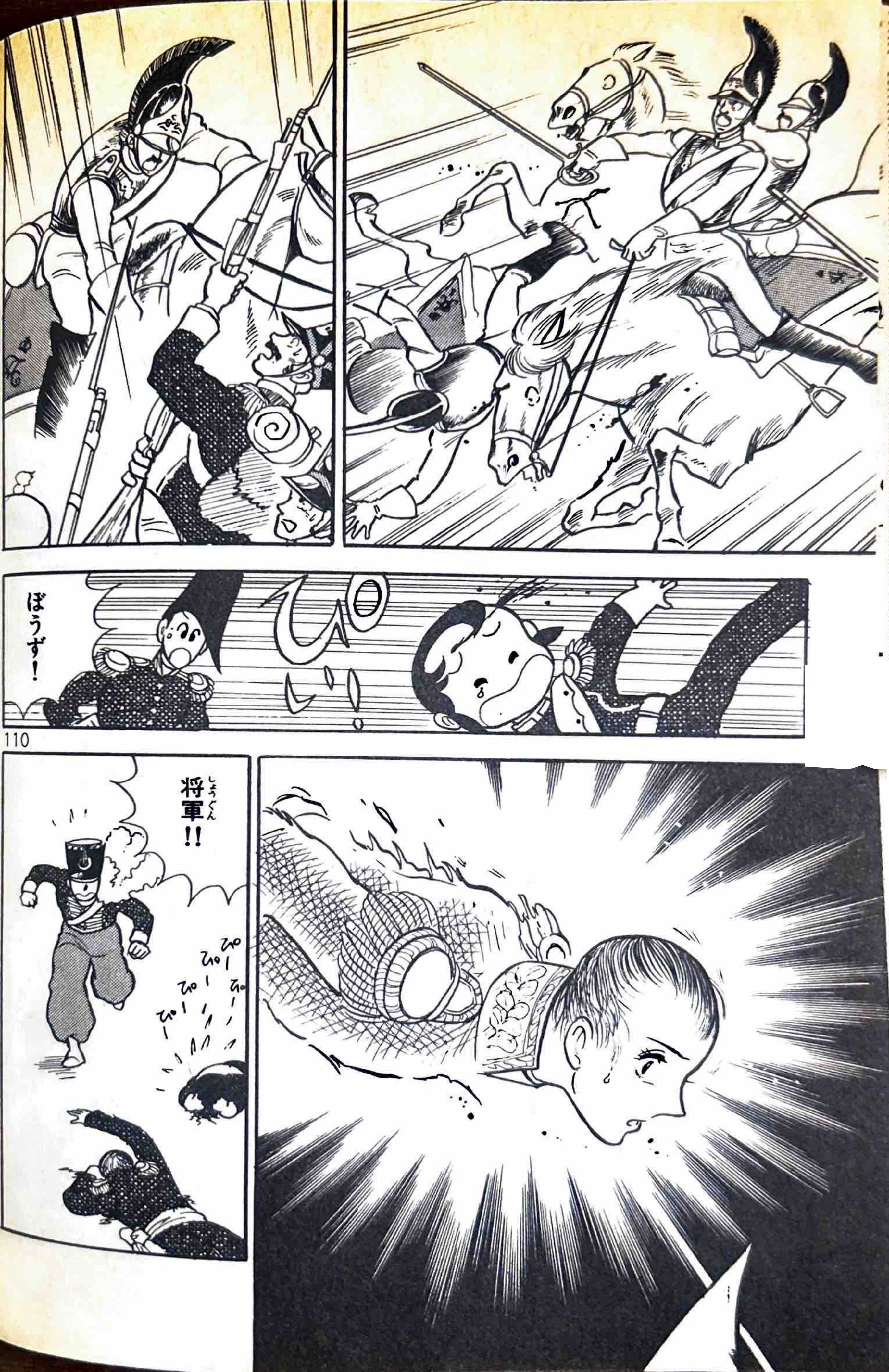
*むごたらしく殺すこと。


三本矢をとりかえせなかったら
おれは死ぬぞ!!
騎兵がくるぞ方陣をくめ!!
キンチョー!
予備のフリアンは正午前
大堡塁を横からせめるためセミヨノフスコエに投入されていた
107




ウラァァァ

うてーっ
バババー


ぼうず!
ぴい!
将軍(しょうぐん)!!

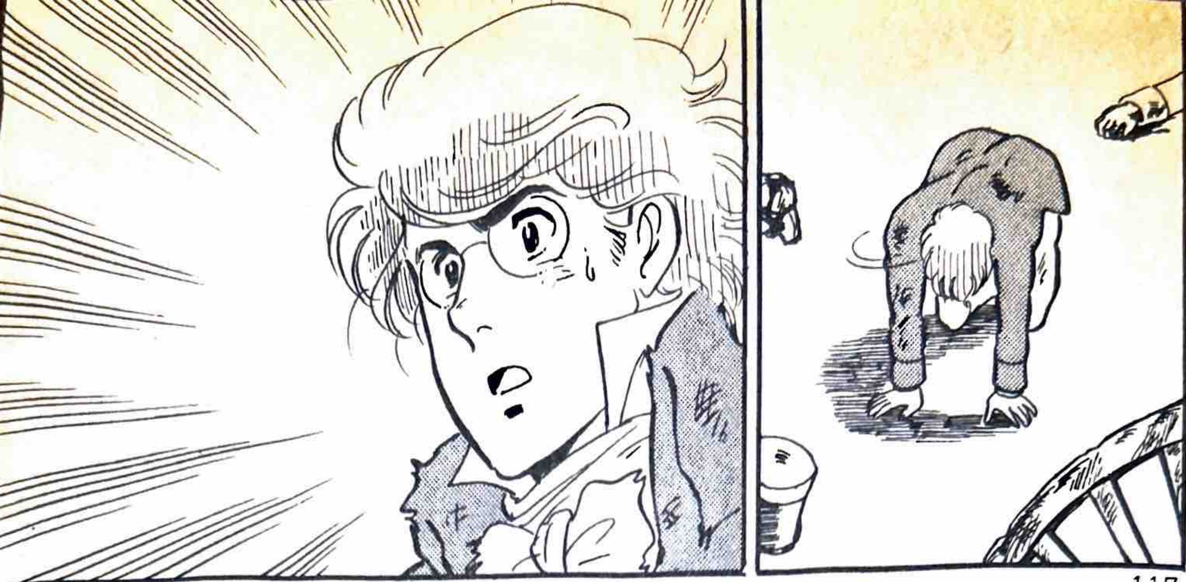
はっ
元気がでるフリアン
復活ーっ
……
わーやっぱりだめだーっ
ぴぃ
バグラチオン将軍！
ぐわっ
セミヨノフスコエ村はとられました
大堡塁への砲撃が始められてます
……!!

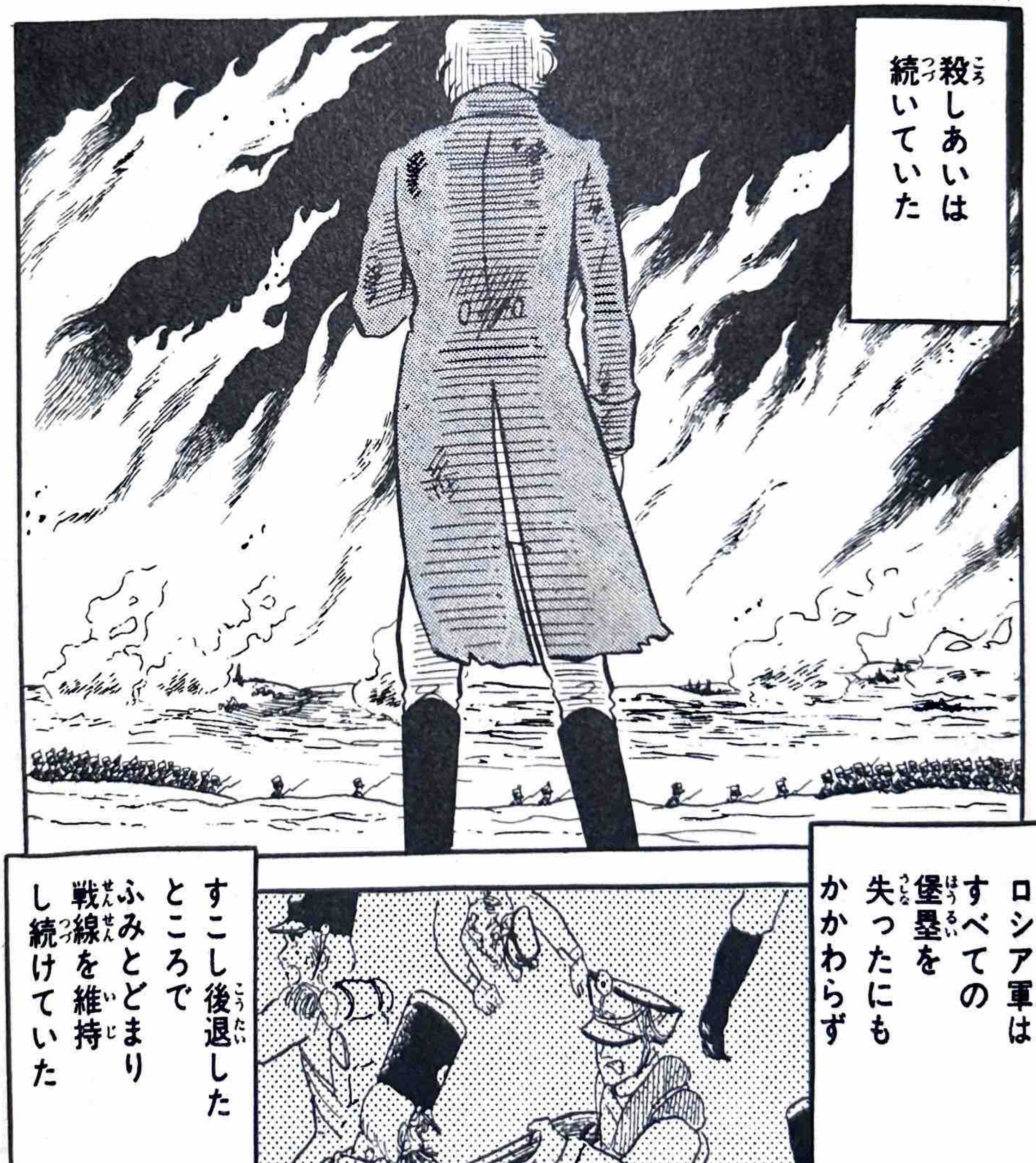
ウォオオオオオ
かくてボロジノの戦いの決定的瞬間がおとずれた
午後２時
いまやセミヨノフスコエ村からの砲撃で大堡塁の方陣は分解していた
ドドドドドド
フランス騎兵軍団の大堡塁への波状攻撃である
ドガガガガガガー

第一回攻撃で戦死したモンブランにかわって指揮をするのはオーギュスト・コレンクール
泣くな！復讐だ!!
退くな!! 祖国ロシアのために死ね!!
ぬけええ——っ
そしてついに 午後3時

とった!!
大堡塁をとったぞ!!
皇帝
大堡塁に穴があきました
近衛を投入するのはいまです!!
皇帝!!

いまここで近衛をだせば…大陸軍は大出血をしてしまう…
だが決定的勝利は…
皇帝!
はっ
フランスから3200キロもはなれたところで
わが近衛をつぶすわけにはいかない
ちぇー!
出番ないのーっ
ぶー
う…ん




殺しあいは
続いていた
ロシア軍は
すべての
堡塁を
失ったにも
かかわらず
すこし後退した
ところで
ふみとどまり
戦線を維持
し続けていた

きみ
しっかり
ロシアは……
おれたちは勝ったのか…
う…
勝ったよ……
もう戦争は終わったよ

きみ…!!
ちくしょう…
ちくしょう……
やめろ!!戦争なんか
こんな殺しあいなんかやめろおおお!!
ロシアの大地は血にそまった
やがておとずれた暗闇だけが
この殺りくをとめることができたのである…

120

ただひとつの希望
——和平を求めて

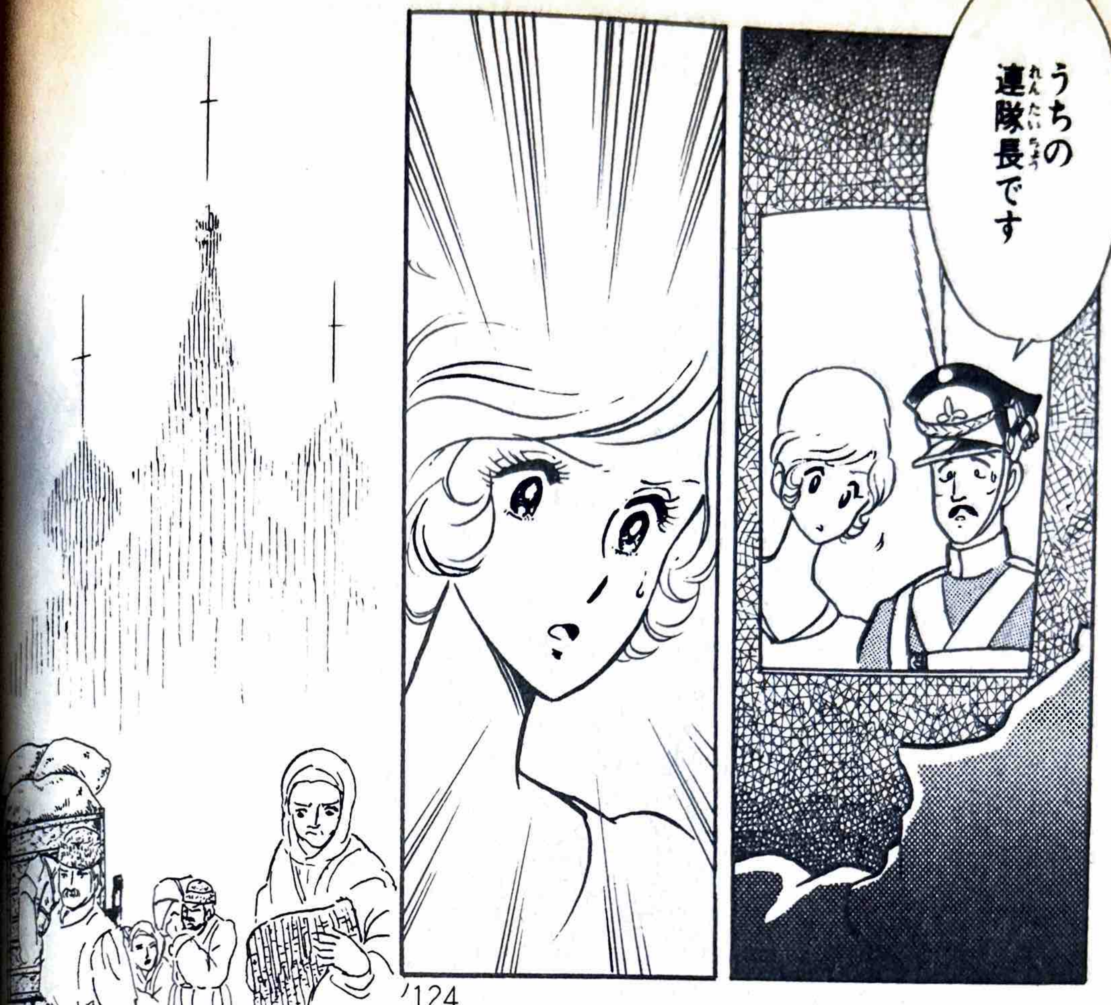
第6章　死の美女

ボロジノでロシア軍が負けたぞ!!
次はモスクワだ!!
おお神よ!!
戦わずしてモスクワをあけわたすなどできませんッ
われわれには戦闘能力があります
しかしここならモスクワまでのあいだにもはやボロジノのような陣地はみつからない
いま戦ったらわれわれは今度こそ壊滅的打撃をうけることになる
しかし!
待ちたまえ諸君!

モスクワは われらが 聖なる首都だ
われわれは これを心の支えに 戦ってきた
だが いま戦っても わが軍が勝てる みこみはない
都市防衛に 心をうばわれ 主力軍を 失うわけには いかない
われわれが 守らなければ ならないのは ロシアの大地だ
では 将軍

ロストフ家──
なにしてるの そんな絵 いらないわ
でも 奥さまが
おもてに ボロジノで けがした人が いっぱい いるのよ!!
その人たちに 馬車をかして あげるんだから
お水を どうぞ
ありがとう お嬢さん
その馬車の なかの人は傷が おもいの?
ええ おそらく 助かりません
どなた ですの?

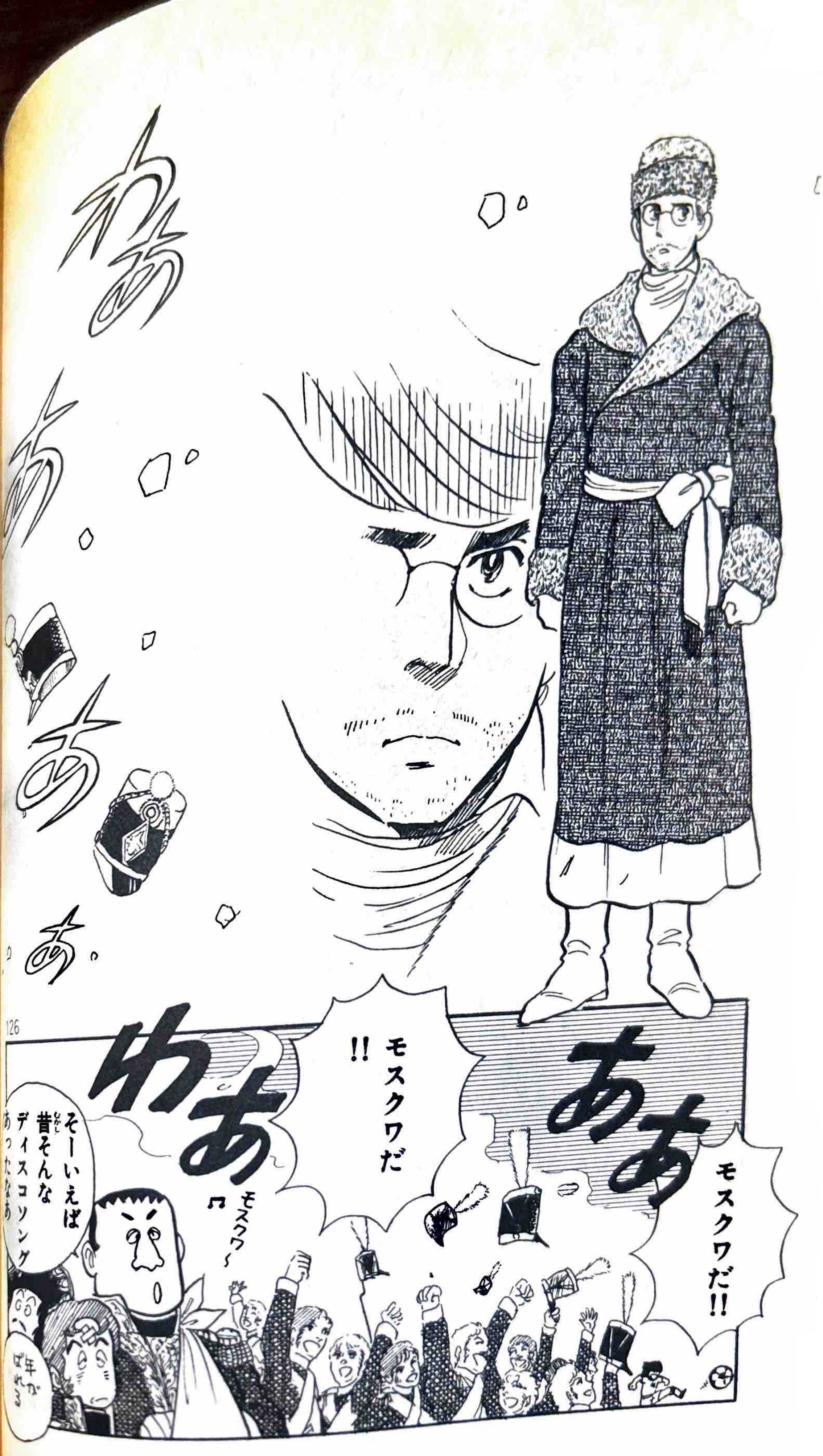
123

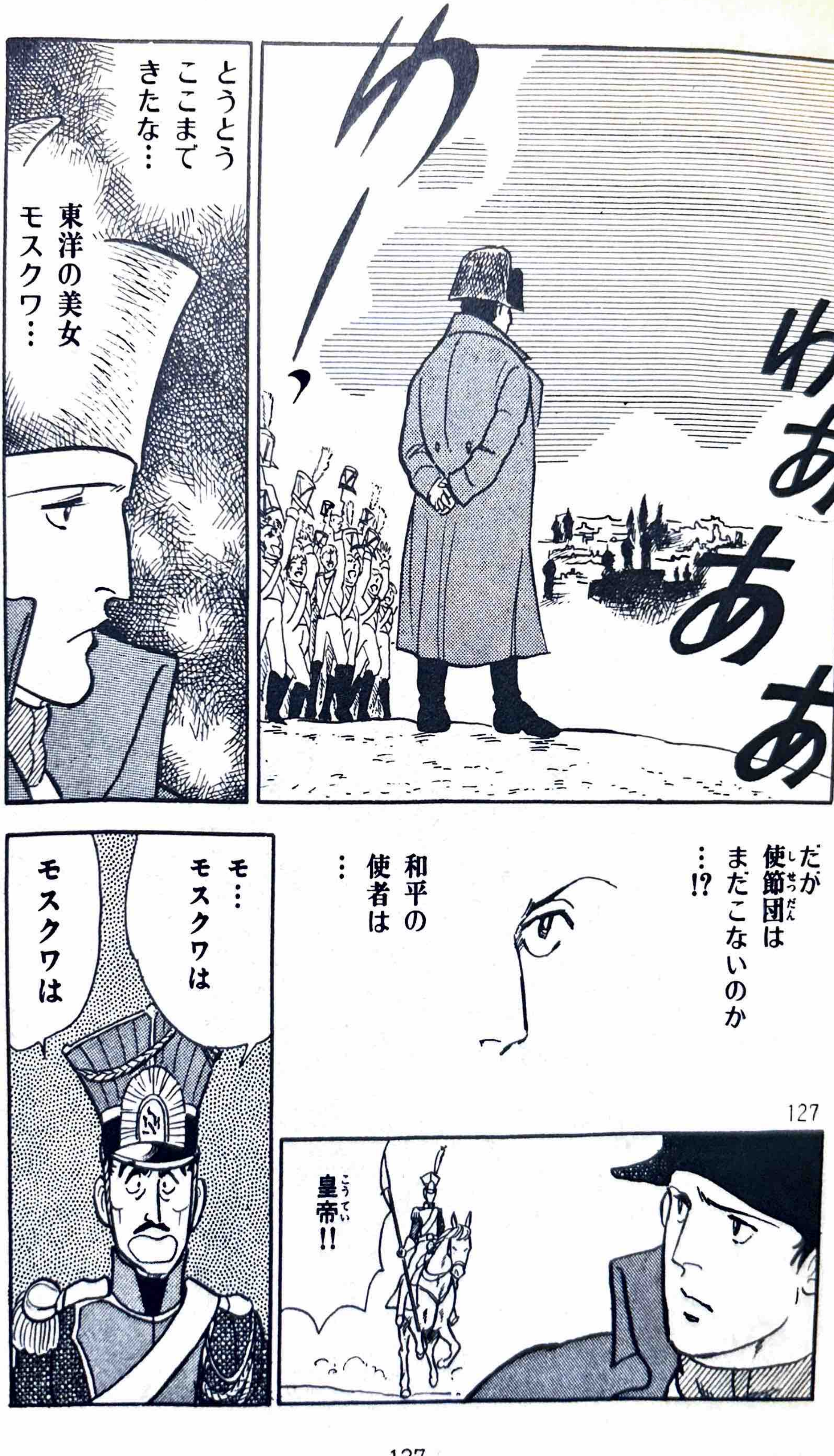


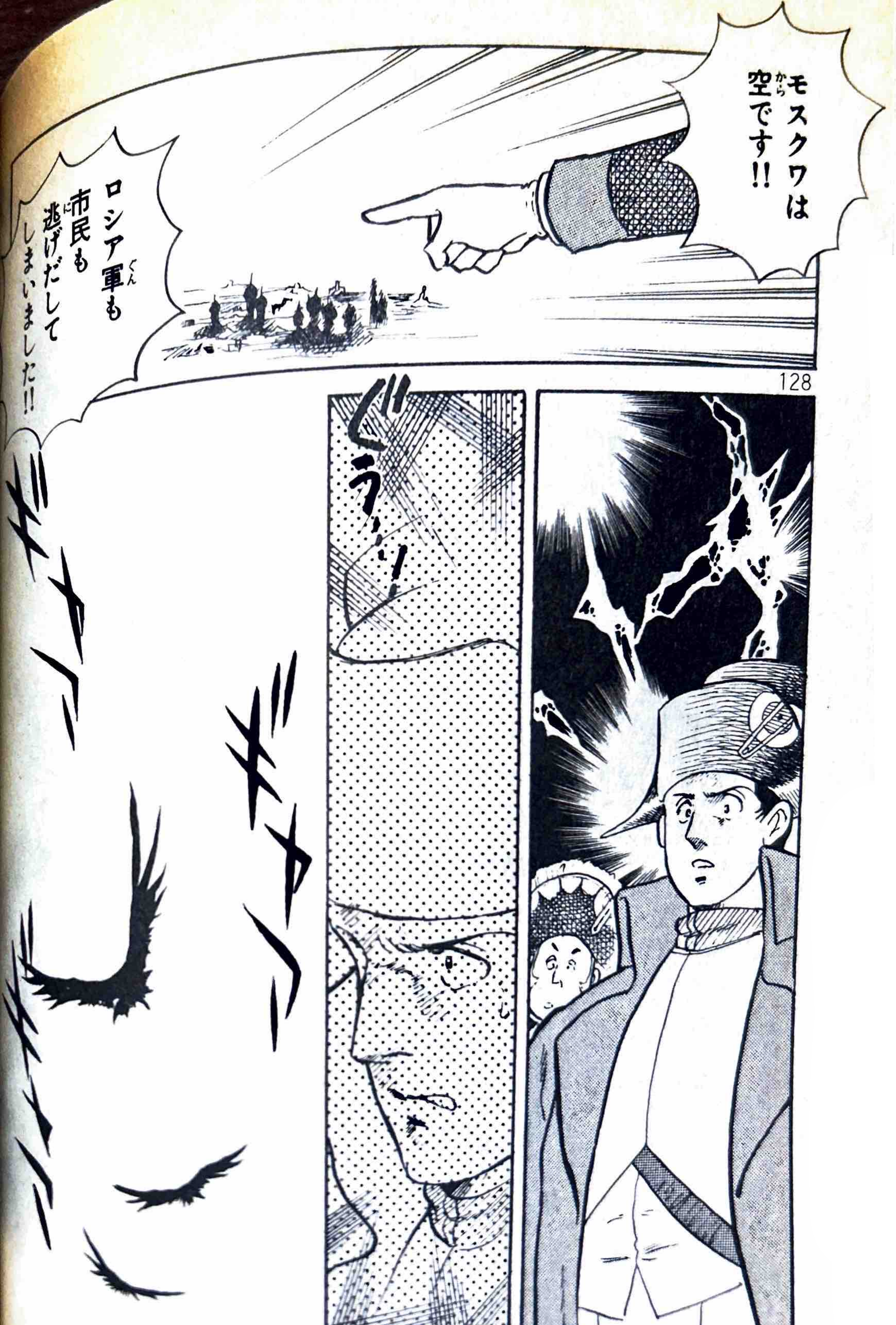
124

ピエールさん!!
お逃げにならないの?
ナターシャ!!
ボロジノの戦いごらんになったんですって?
ええ
…見ました
ですから
ぼくは…
ここからはなれるわけにはいかないと思ったんです
ピエールさん!
お元気で
ナターシャ!!
さようなら

125

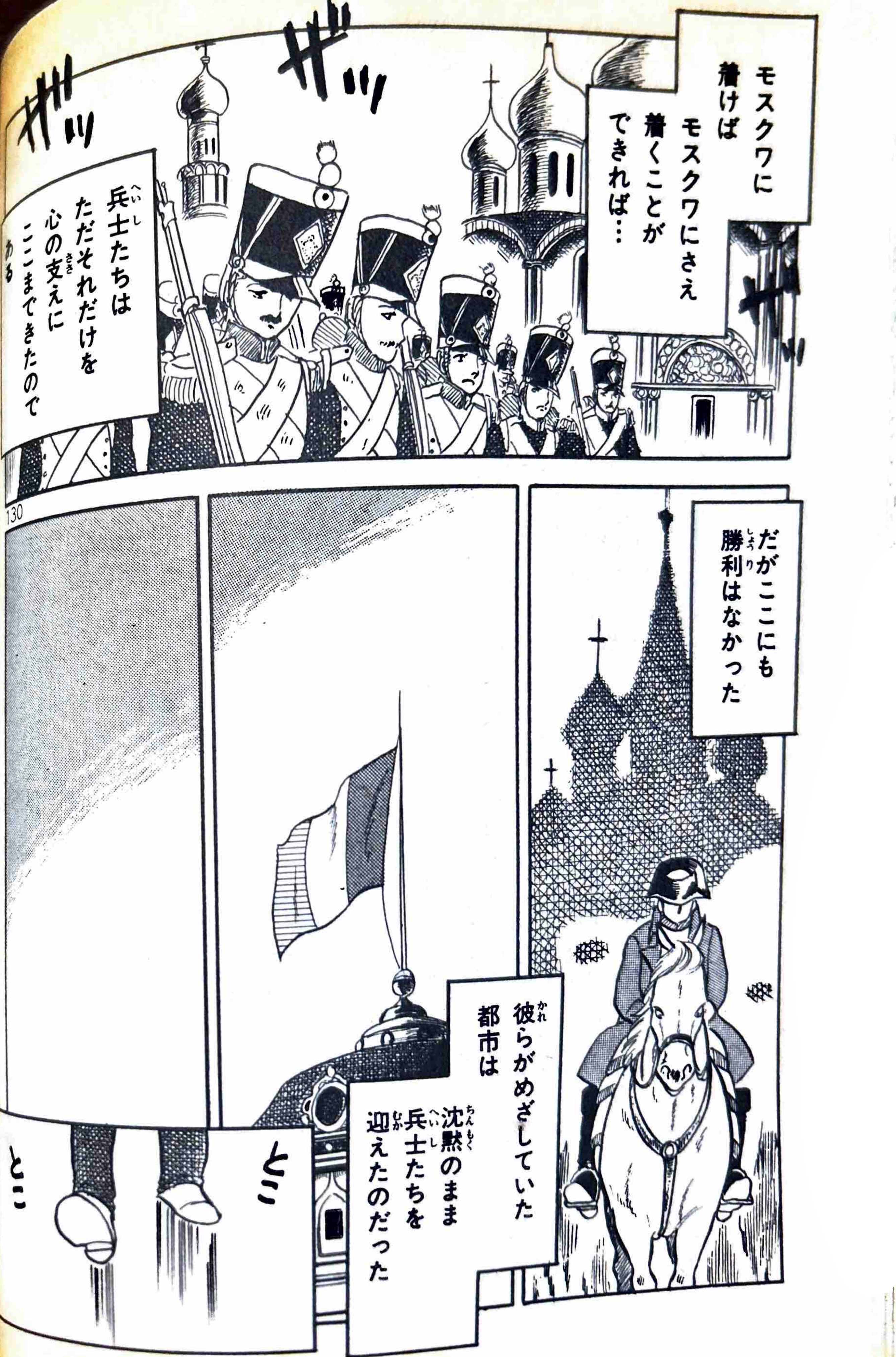

わああああ。
ああ
モスクワだ!!
モスクワだ!!
わあ
♪モスクワ～
そーいえば昔そんなディスコソングあったなあ
年がばれる


わあああ
わー!
とうとうここまできたな…
東洋の美女モスクワ…
だが使節団はまだこないのか…!?
和平の使者は…
皇帝!!
モ…モスクワは
モスクワは

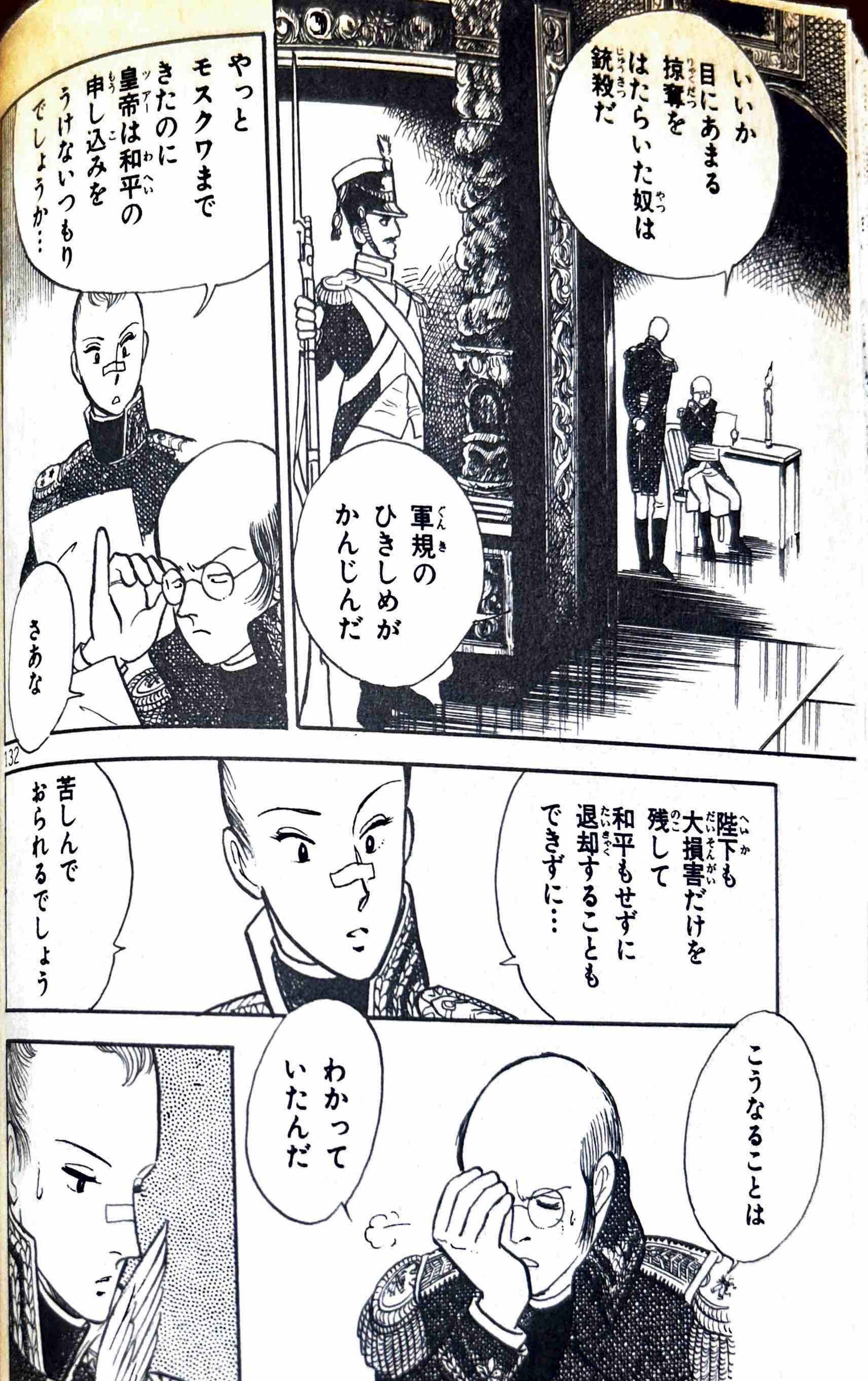


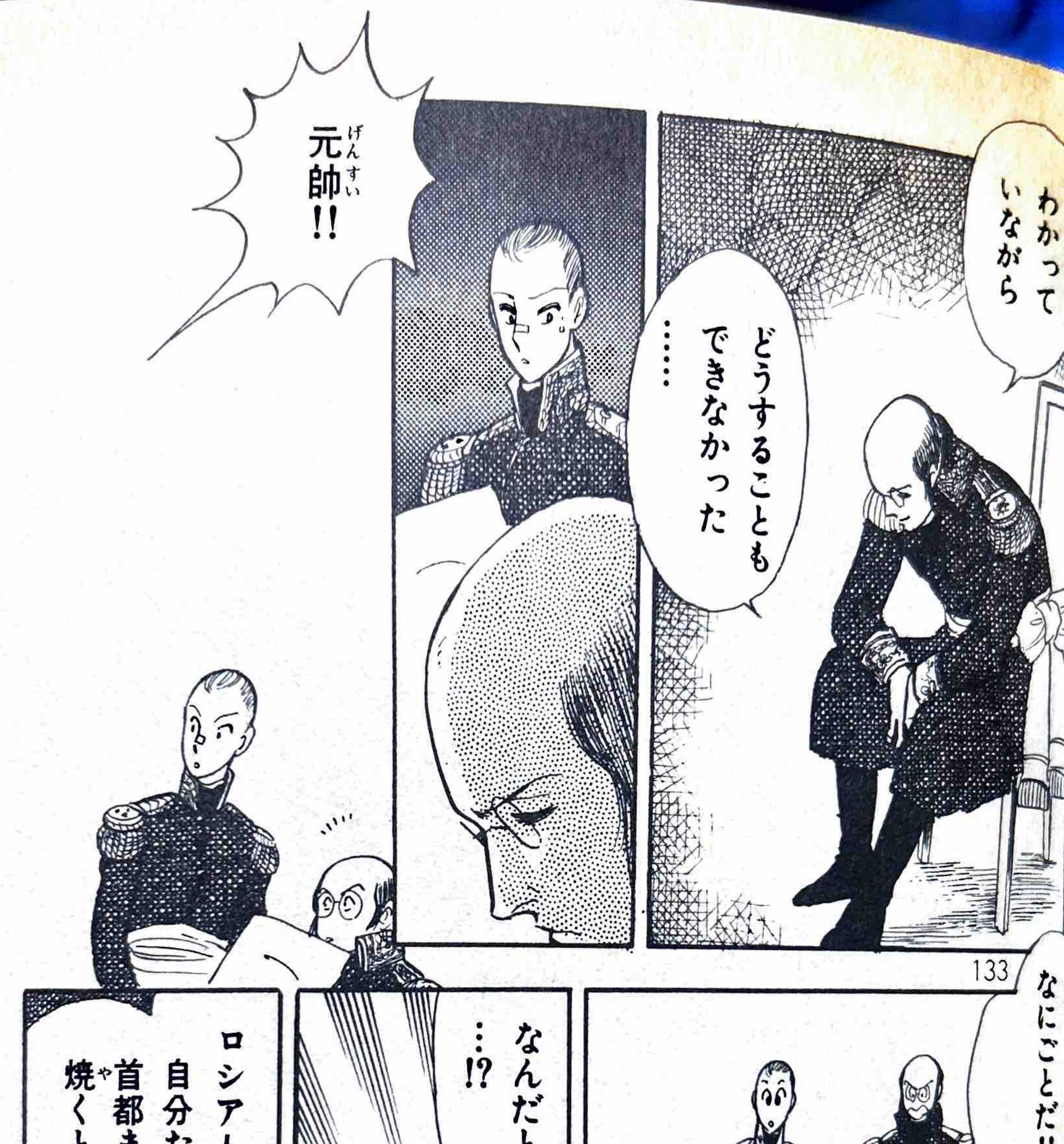
モスクワは空です!!
ロシア軍も市民も逃げだしてしまいました!!
グラッ!
ギャー
ギャー
ギャー

ギャア
ギャアー
九月十五日
フランス軍は
都市の砂漠と化した
聖都モスクワに
入城した


モスクワに着けば
モスクワにさえ着くことができれば…
ザッ
ザッ
ザッ
兵士たちはただそれだけを心の支えにここまできたのである
だがここにも勝利はなかった
彼らがめざしていた都市は
沈黙のまま兵士たちを迎えたのだった
とこ
とこ

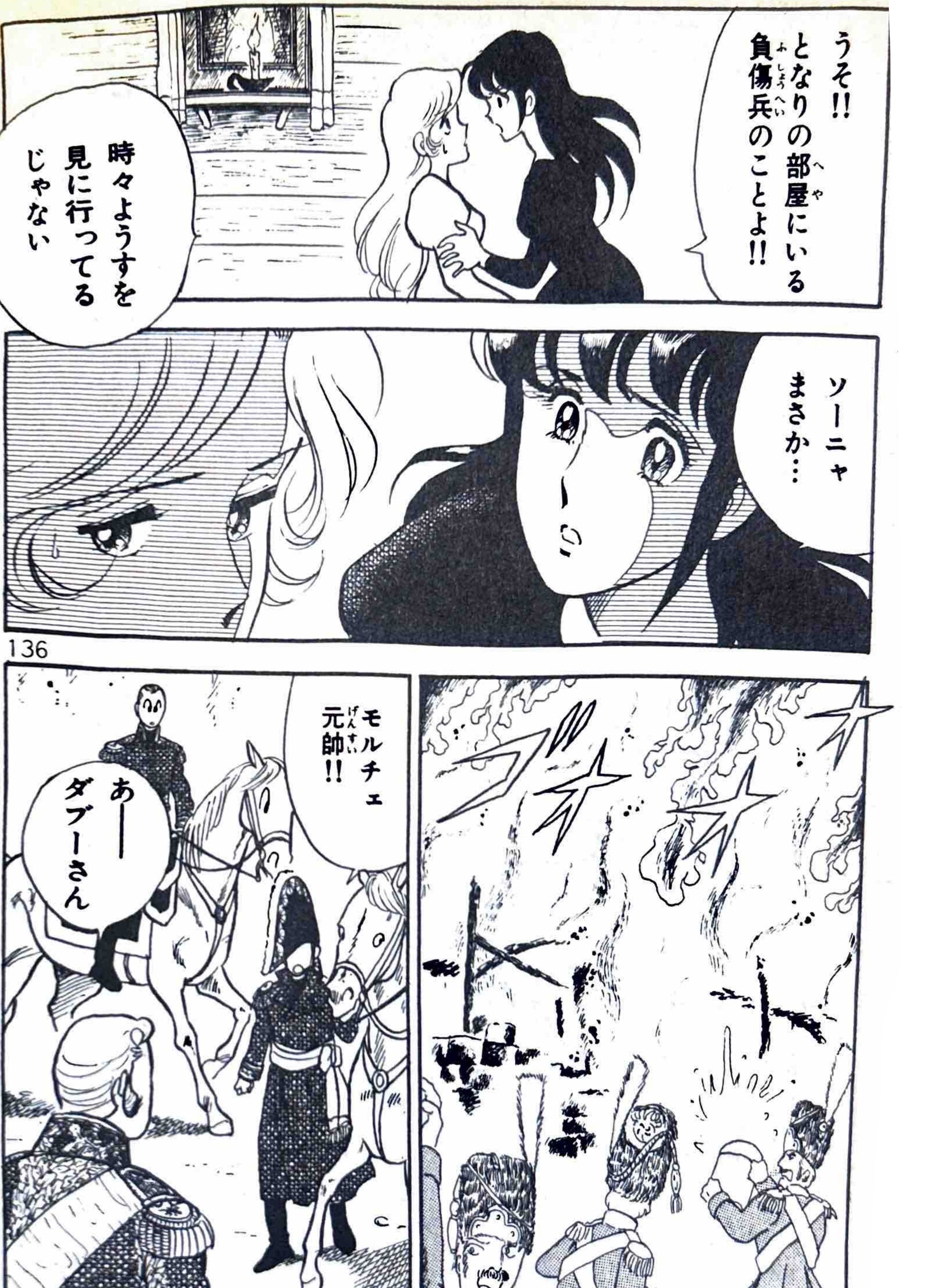
元帥
捕虜のリスト
もってきました
元帥
ぼやあ
うわー
よろ
よろ
ゴン
なにをやっちょるんだ
めずらしいやつだな


いいか
目にあまる掠奪をはたらいた奴は銃殺だ
軍規のひきしめがかんじんだ
やっとモスクワまできたのに皇帝は和平の申し込みをうけないつもりでしょうか…
さあな
陛下も大損害だけを残して和平もせずに退却することもできずに…
苦しんでおられるでしょう
こうなることは
わかっていたんだ

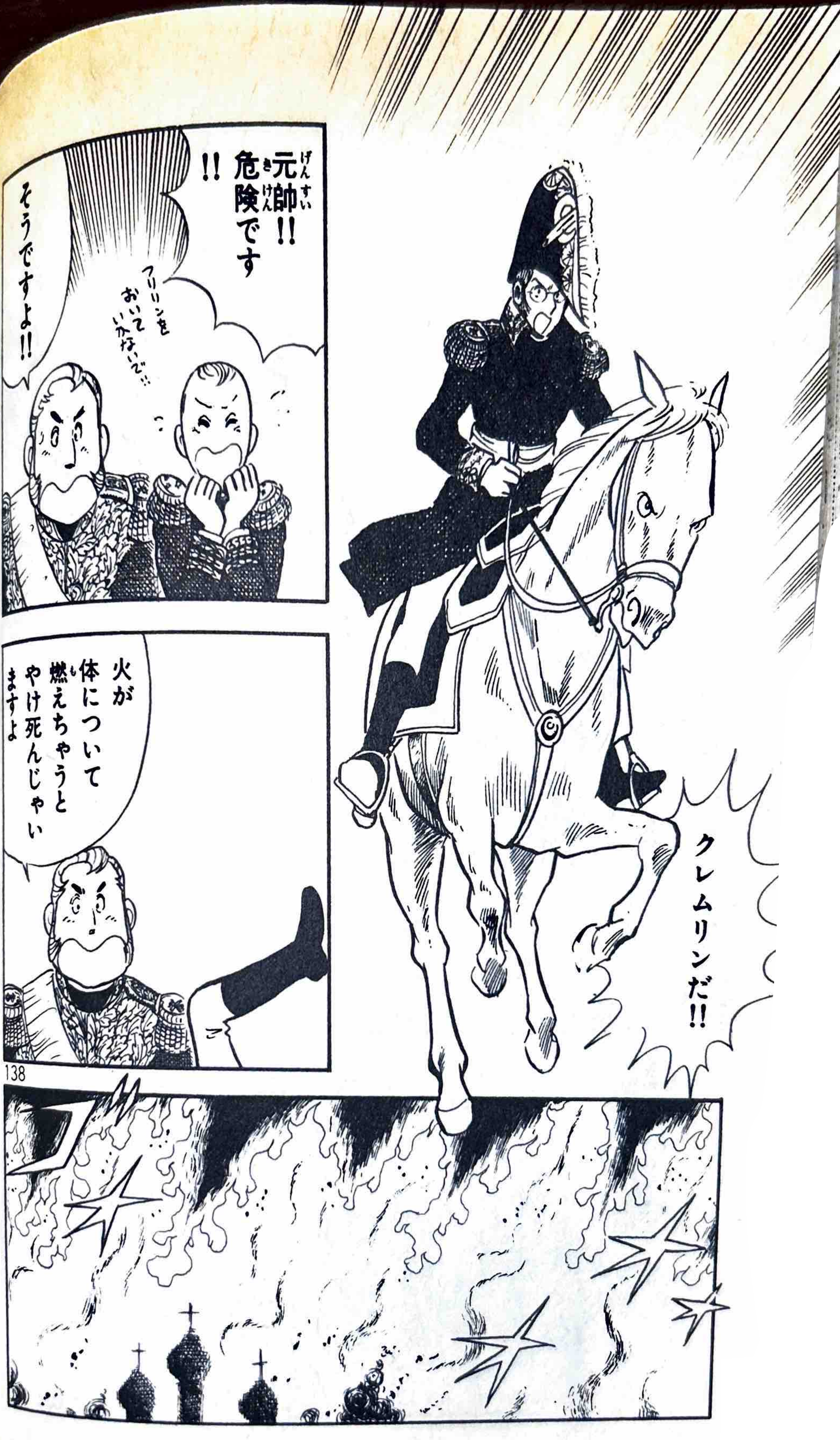

わかっていながら
どうすることもできなかった……
元帥!!
なにごとだ!!
か…火事です…市内のいたるところで火がでました
なんだと…!?
ロシア人は自分たちの首都まで焼くというのか…!?
133

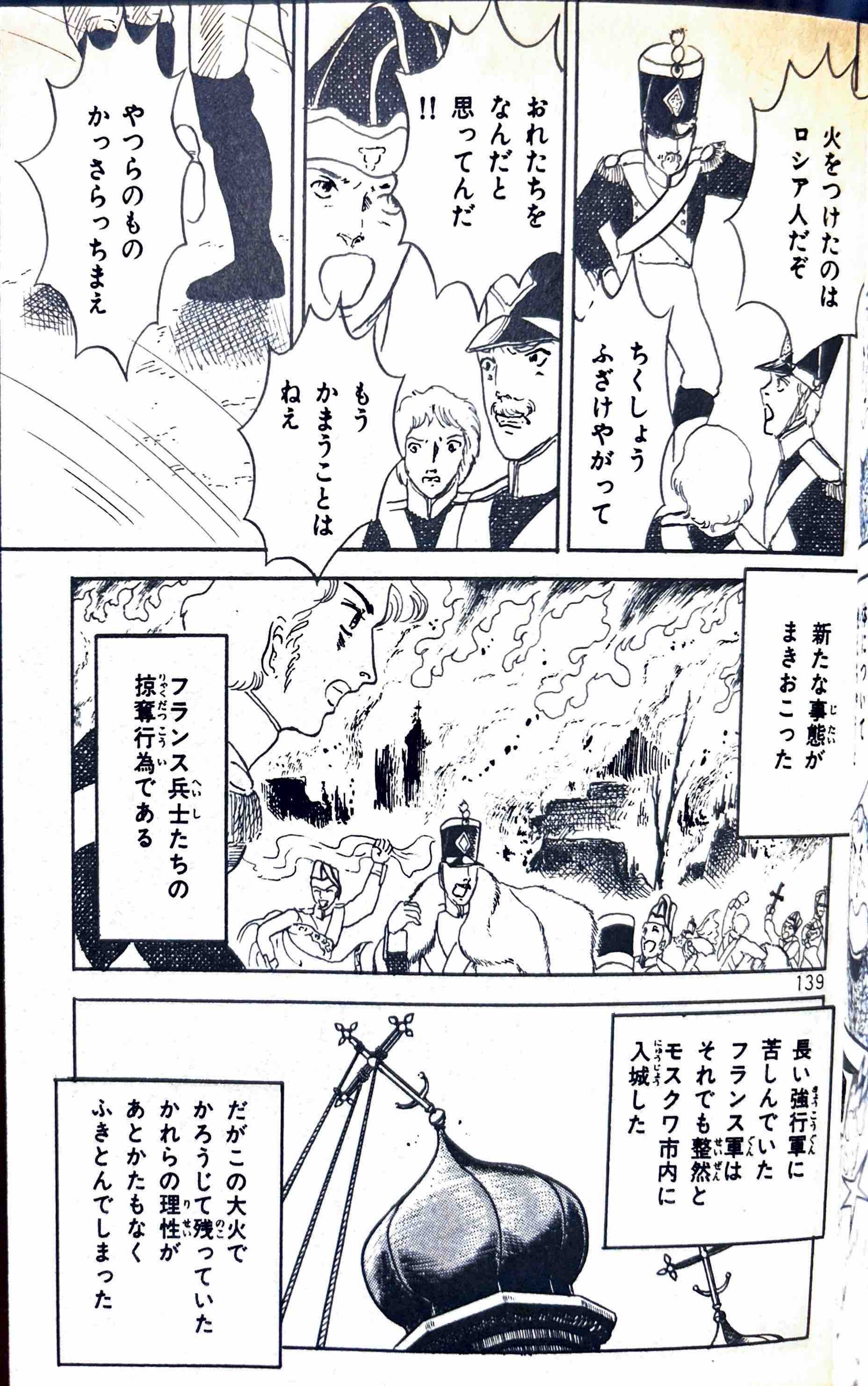
ウオオオオオ
これがロシア人の戦い方か…!!
見ろあれを!!
モスクワだ…!!

モスクワが燃えてるぞ
おそろしいことだ…
ナターシャ見てすごい火よ
ねえソーニャ
あなたわたしになにかかくしてるんじゃない?
そ…そんなことないわ
なにもかくしちゃいないわよ


うそ!!
となりの部屋にいる
負傷兵のことよ!!
時々ようすを
見に行ってる
じゃない
ソーニャ
まさか…
モルチェ
元帥!!
あー
ダブーさん
136

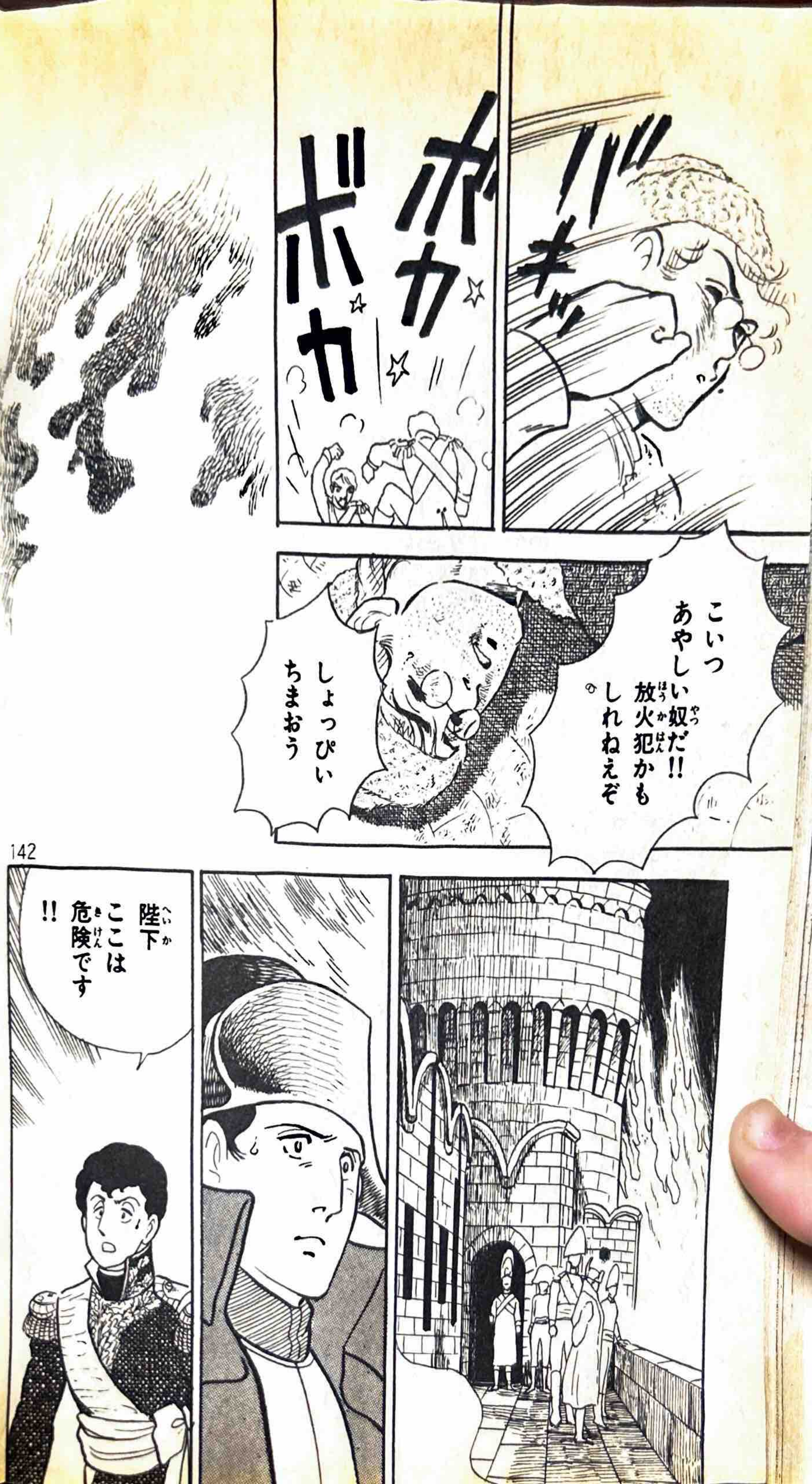
消火はどうなってるんですか…
モルチエの身長は2mもあるの!
それが消火器がみんなこわされちゃってるんです
消火器がないってことは火を消す道具がないから
火を消す道具がないと火を消せないから火が消えないいんです
あじえ
ラーんと…!!
だめですとうとうクレムリンにも火がはいりました!!
あち あちち
えーほんとー!?
陛下…!!
あっ元帥どこへ!!
しれたことよ!


クレムリンだ!!
元帥!!危険です!!
フリリンをおいていかないで!!
そうですよ!!
火が体について燃えちゃうとやけ死んじゃいますよ
138


火をつけたのは
ロシア人だぞ
ちくしょう
ふざけやがって
おれたちを
なんだと
思ってんだ
!!
もう
かまうことは
ねえ
やつらのもの
かっさらっちまえ
新たな事態がまきおこった
フランス兵士たちの掠奪行為である
長い強行軍に苦しんでいたフランス軍はそれでも整然とモスクワ市内に入城した
だがこの大火でかろうじて残っていたかれらの理性があとかたもなくふきとんでしまった

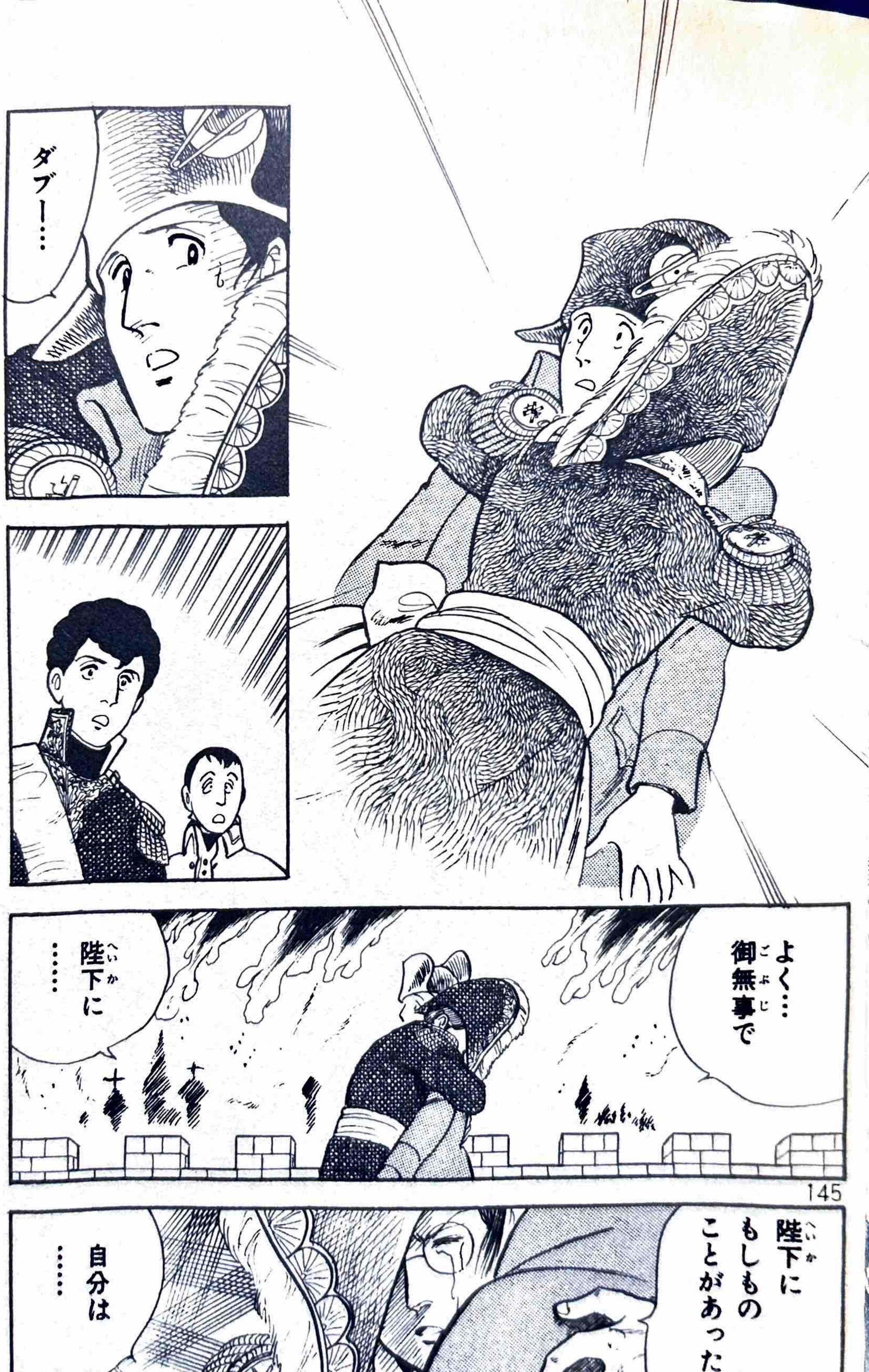
たえにたえた
反動がやってきた
彼らはもはや
軍隊では
なかった
ボロジノの戦いのあと
ピエールの心は
ナポレオン暗殺という
考えに支配されていた
彼こそ
この戦争をおこした
張本人であり
彼を殺さなければ
平和は得られない
だがこの
モスクワの惨状を
目の前にして
そんな考えは
なくなってしまった

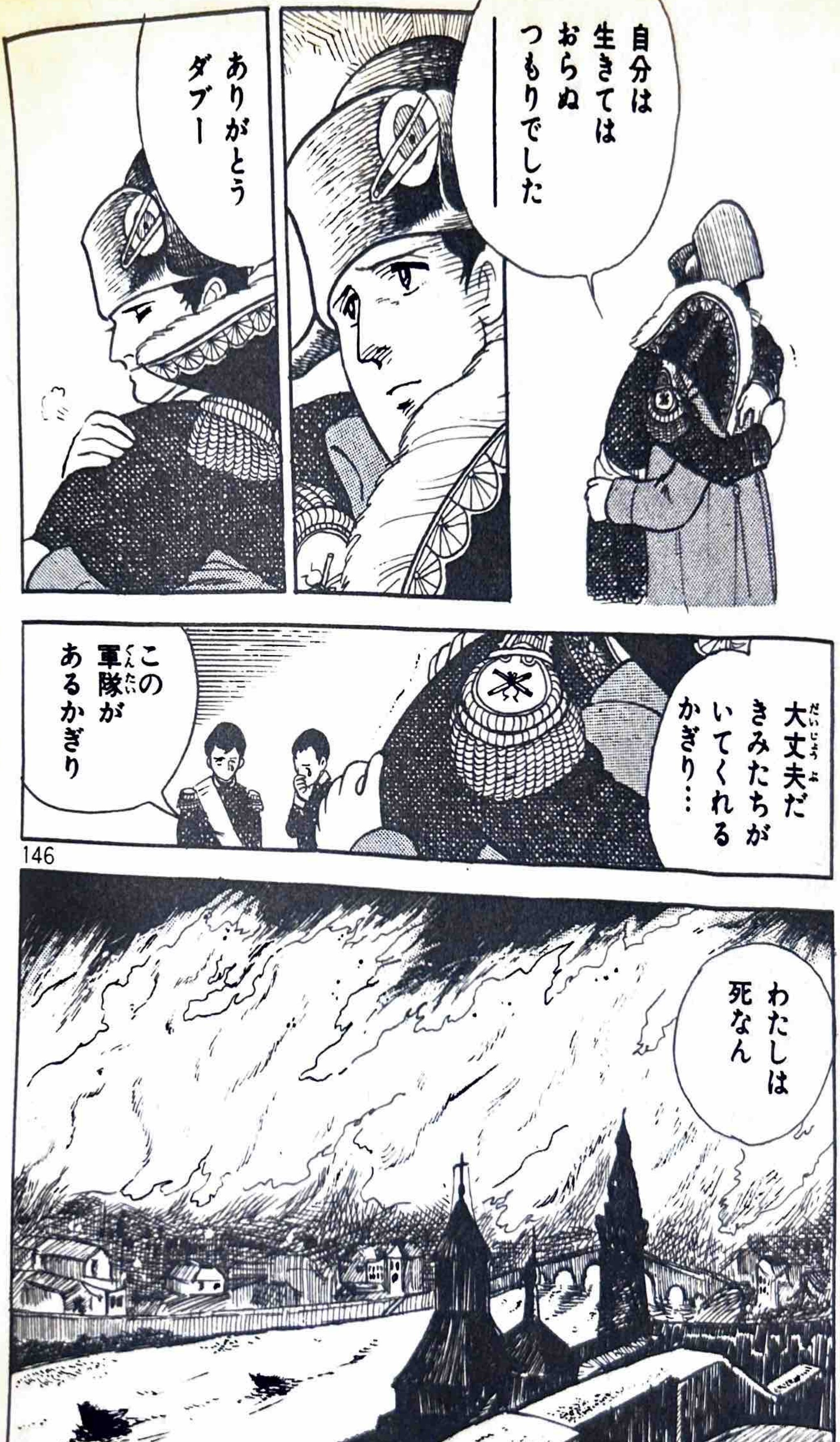
ちがう
こんなことは
だれかの意志で
おこなわれている
ことではない!!
なにか大きな力が
この戦いを
支配しているのだ
……
だがいったい
それはなんだ!?
だれがこんなことを
させているのだ
…!?
きゃーっ
きゃー!!
やめて
その
首かざりを
よこせ!!
やめろ!!
その人を
はなせ
なんだ
このやろう
邪魔すんのか!!


バキッ
ボカ
ボカ
こいつ
あやしい奴だ!!
放火犯かも
しれねえぞ
しょっぴいちまおう
陛下
ここは
危険です
!!

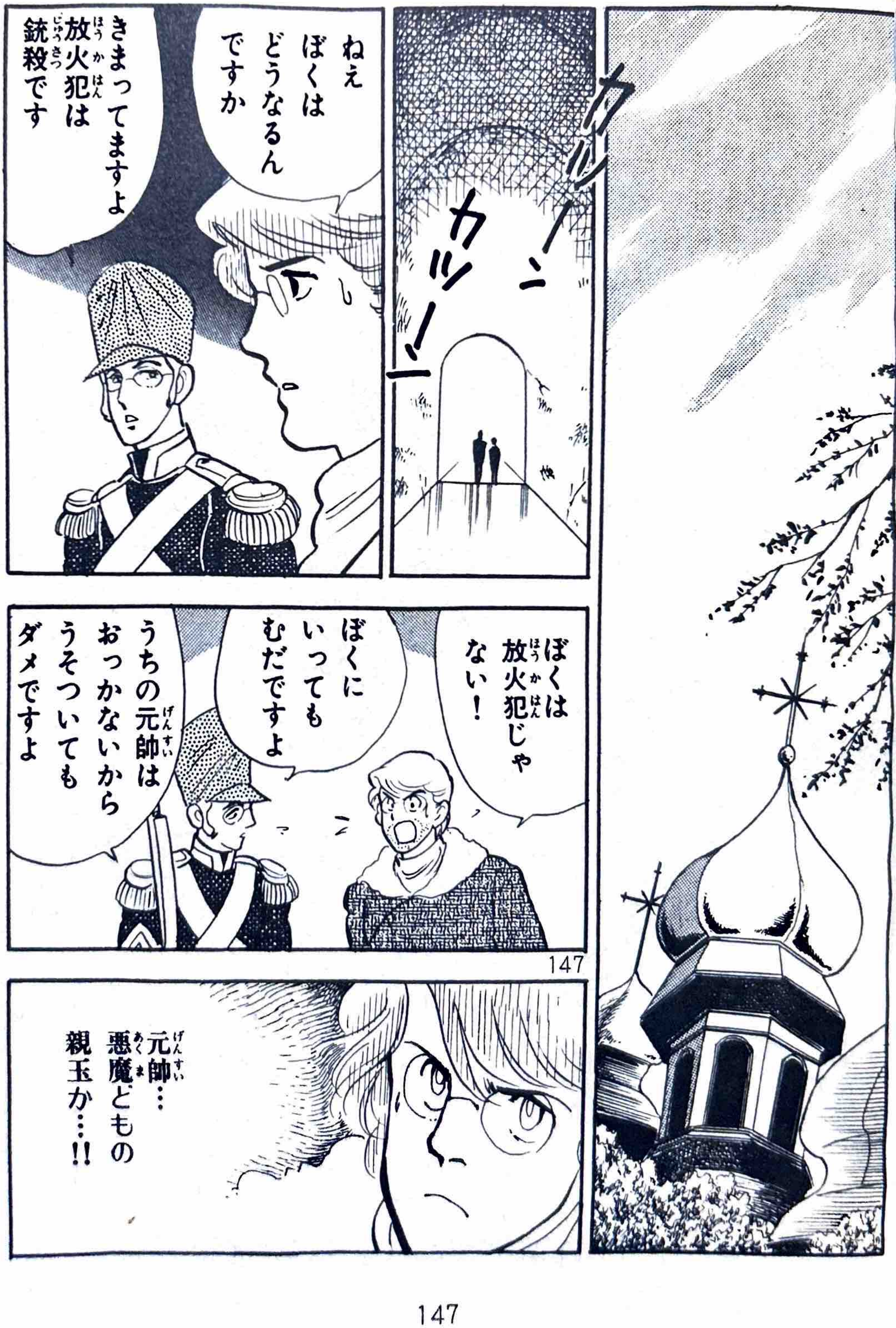
お逃げください
いやだ
陛下!!
こんなばかな戦いかたがあるか!!
こいつらには常識もなにもないのか! 勝つためにはなにをしてもいいというのか!!
陛下
はなせ!!
だれか陛下を!!
元帥!! そっちは危険ですよ!!

しもたァ!!
ダッ
あちち
陛下(へいか)!!
ダブー
陛下(へいか)!!


ダブー…
よく…御無事で
陛下に……
陛下にもしものことがあったら
自分は……

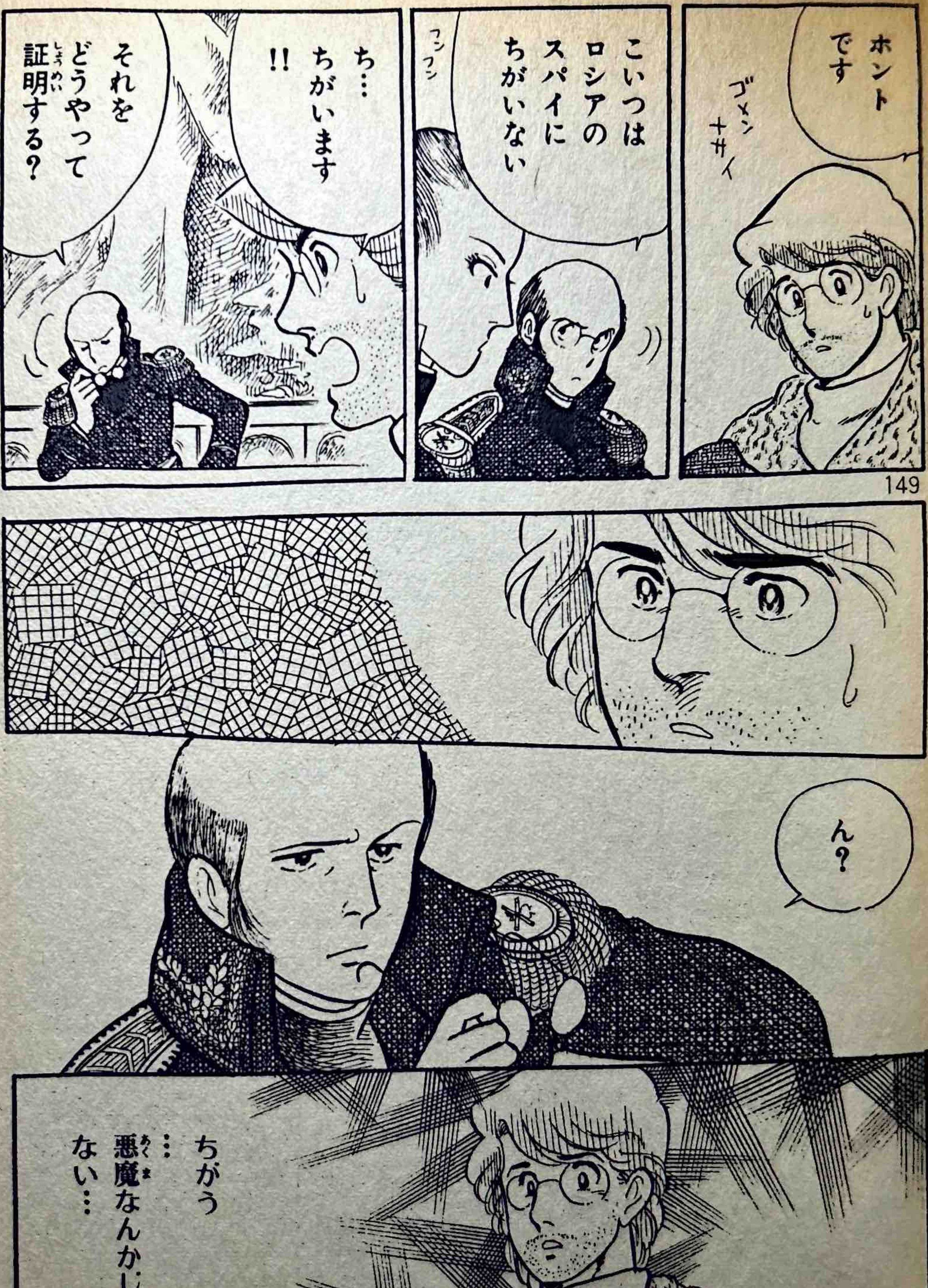

自分は生きてはおらぬつもりでした
ありがとうダブー
大丈夫だきみたちがいてくれるかぎり…
この軍隊があるかぎり
わたしは死なん

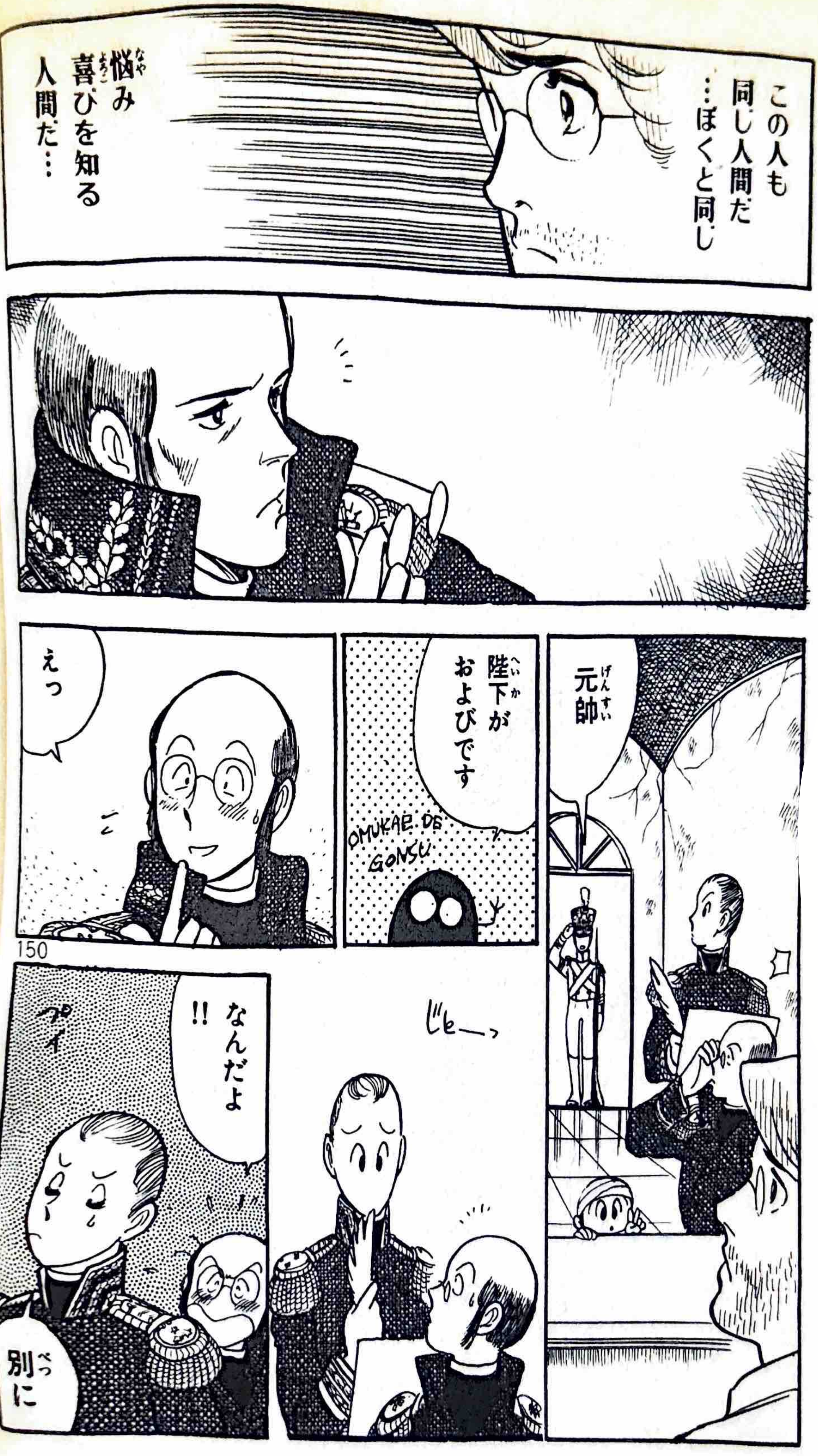
第7章　希望(きぼう)

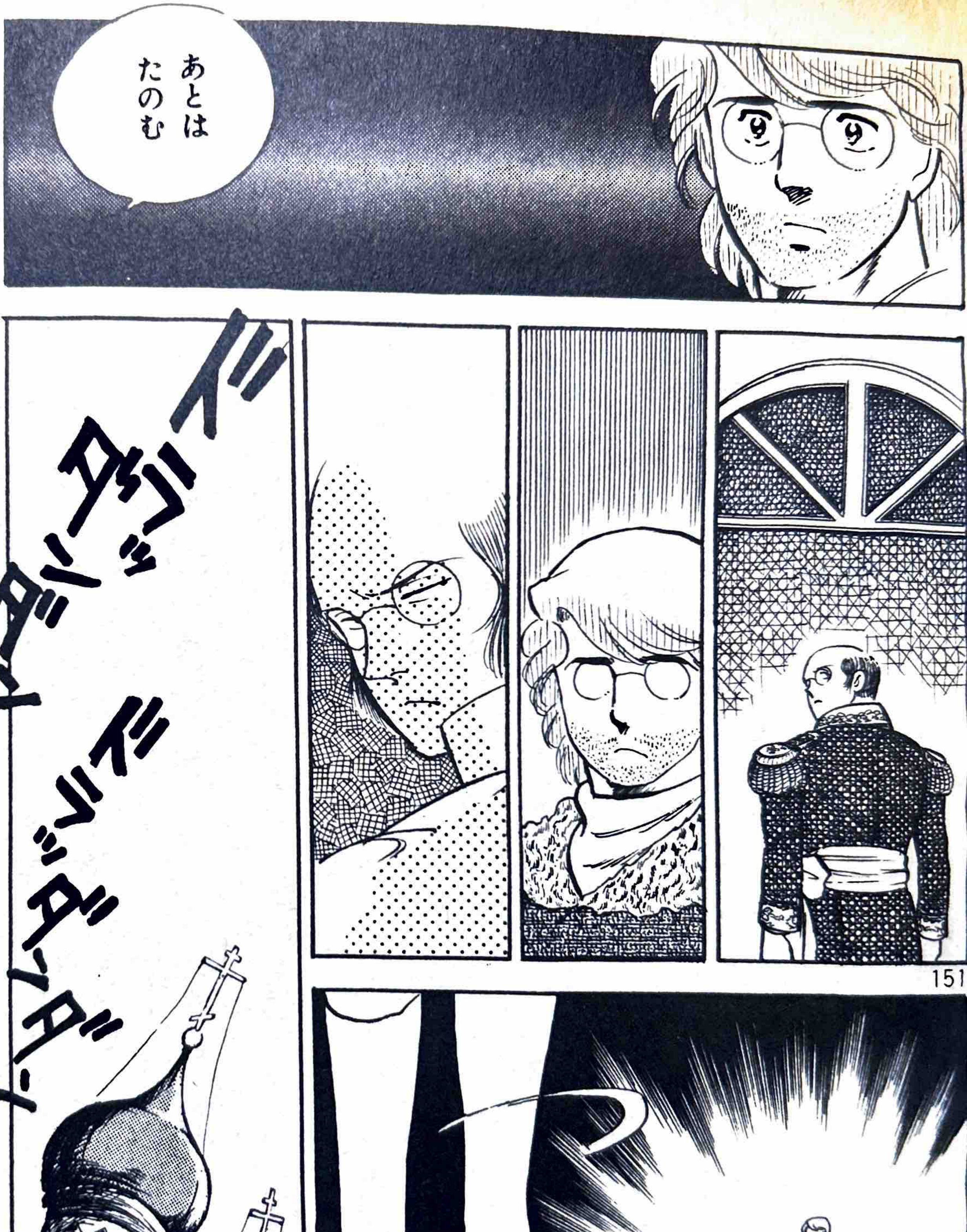


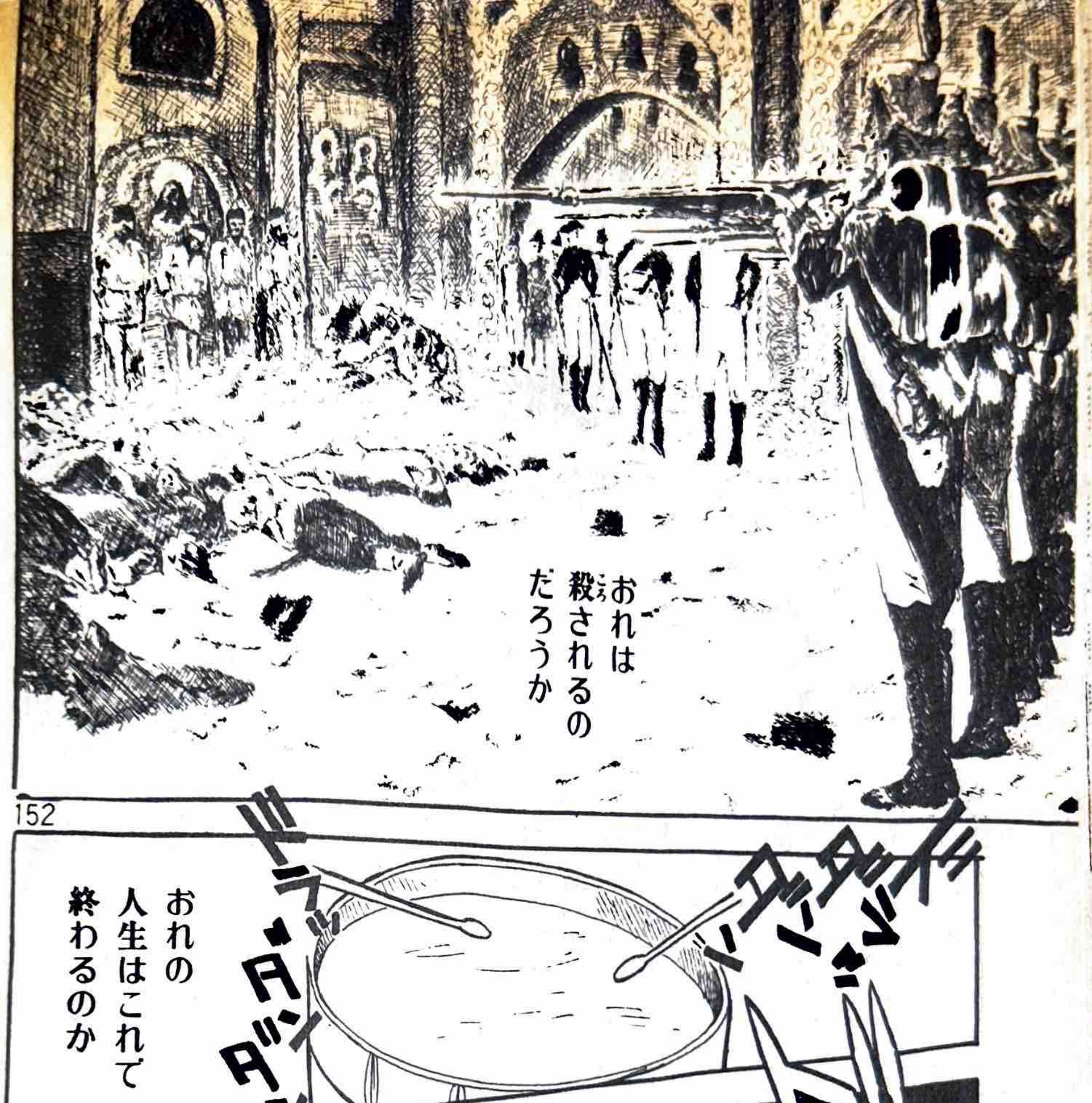
カルーン
カツーン!
ねえ ぼくは どうなるん ですか
きまってますよ 放火犯(ほうかはん)は 銃殺(じゅうさつ)です
ぼくは 放火犯(ほうかはん)じゃ ない!
ぼくに いっても むだですよ
うちの元帥(げんすい)は おっかないから うそついても ダメですよ
元帥(げんすい)… 悪魔(あくま)どもの 親玉か…!!

次！
カリ
カリ
この人がフランス軍でもっとも冷酷といわれてる元帥か…
軍人というより学校の先生みたいだな
148
きみの名は
あ つづり まちがえちゃった
マチコ
銃殺だ
うそです ベズウーホフ ですっ
わーん 冗談が つーじない よおっ
うそは いうな
おじさんは うそつきは きらいだ

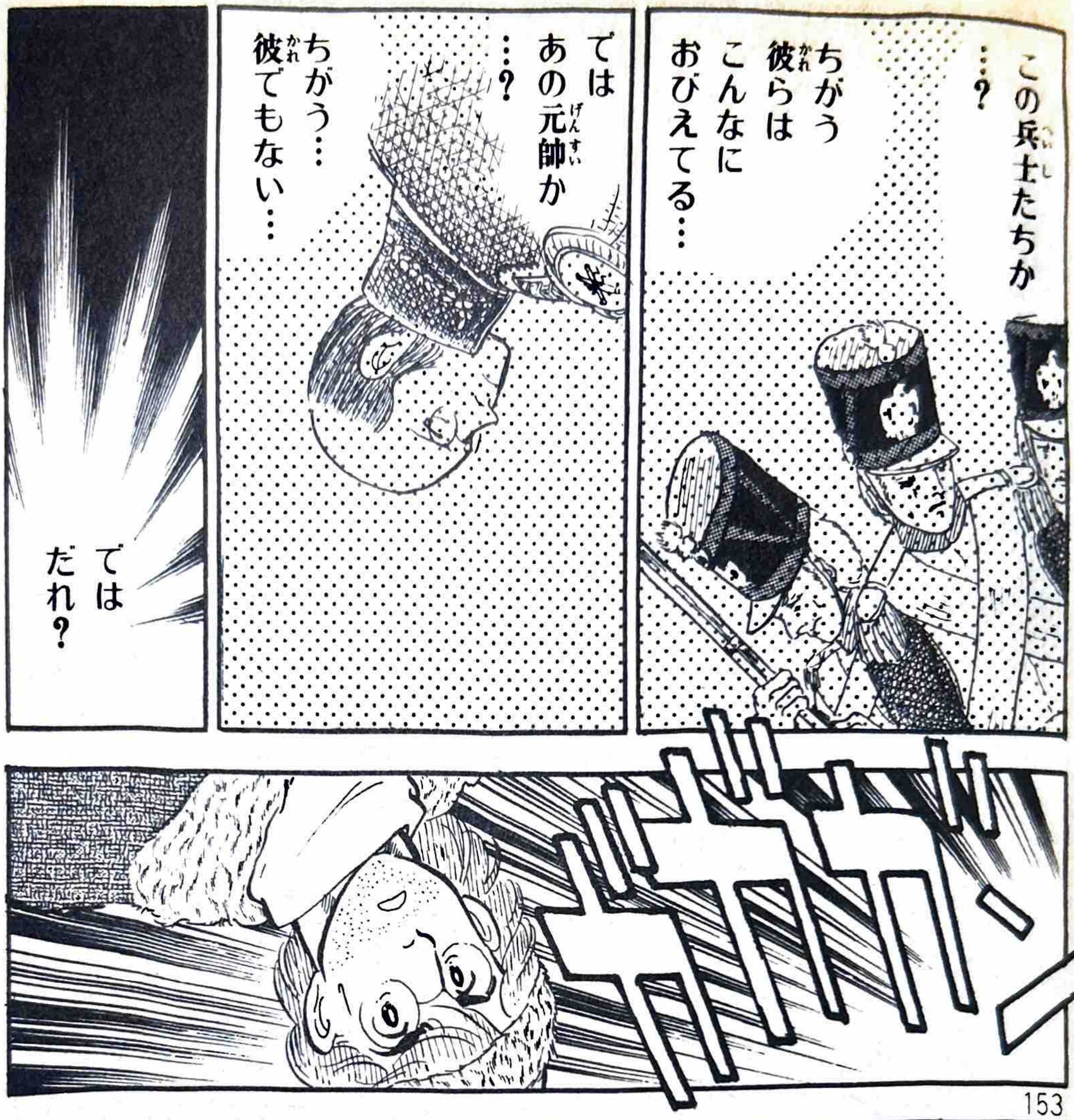

ホント
です
ゴメン
ナサイ
こいつは
ロシアの
スパイに
ちがいない
フンフン
ち…
ちがいます
!!
それを
どうやって
証明する？
ん？
ちがう
…
悪魔なんかじゃ
ない…


この人も同じ人間だ…ぼくと同じ
悩み喜びを知る人間だ…
元帥
陛下がおよびです
OMUKAE DE GONSU
えっ
ジヒーっ
なんだよ!!
プイ
別に

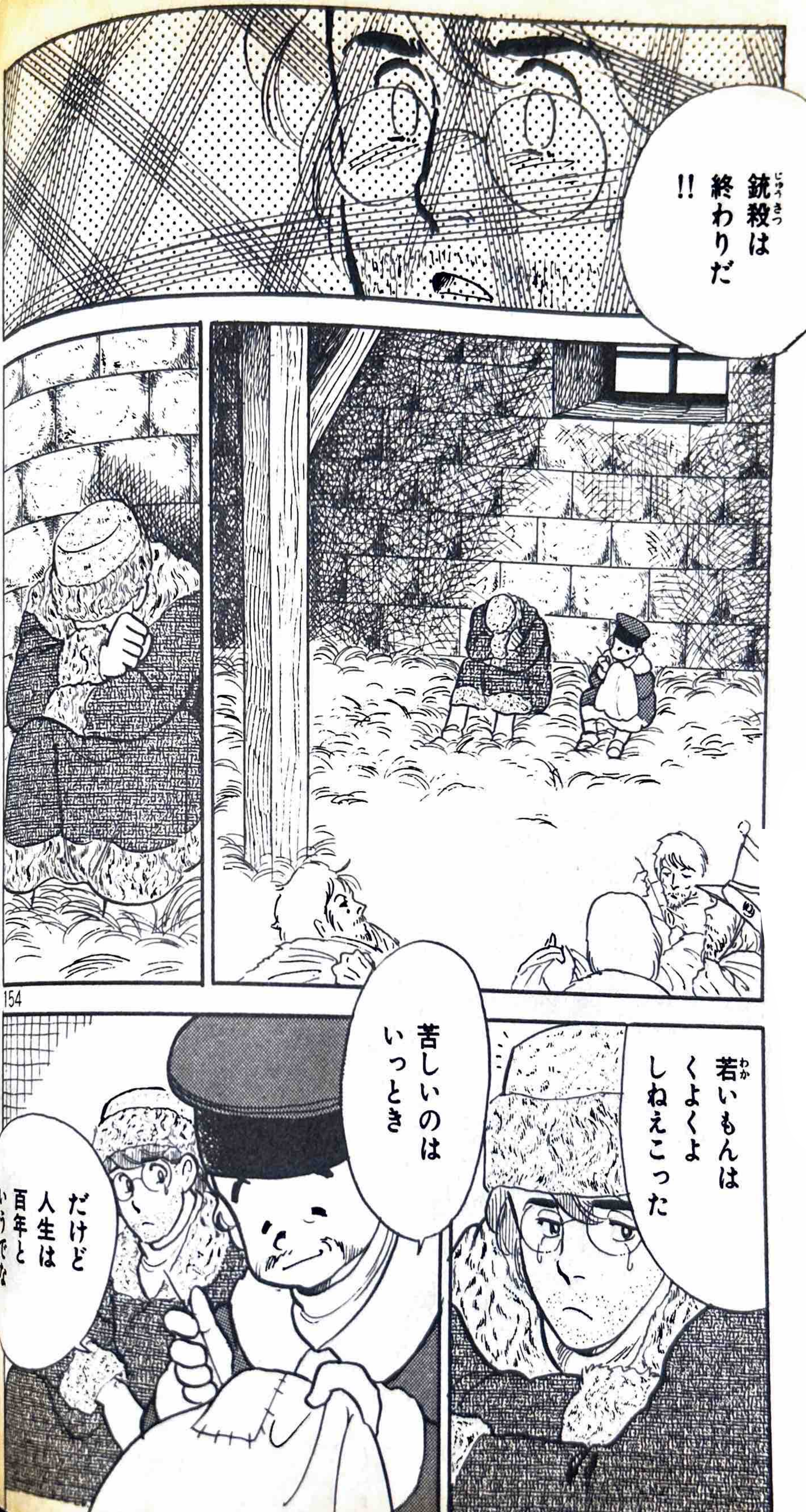

あとは
たのむ
ドダッンダーン
ドンッダンダーン



おれは殺されるのだろうか
おれの人生はこれで終わるのか
だがだれがおれを殺すのだ
だれが彼らを殺すのだ

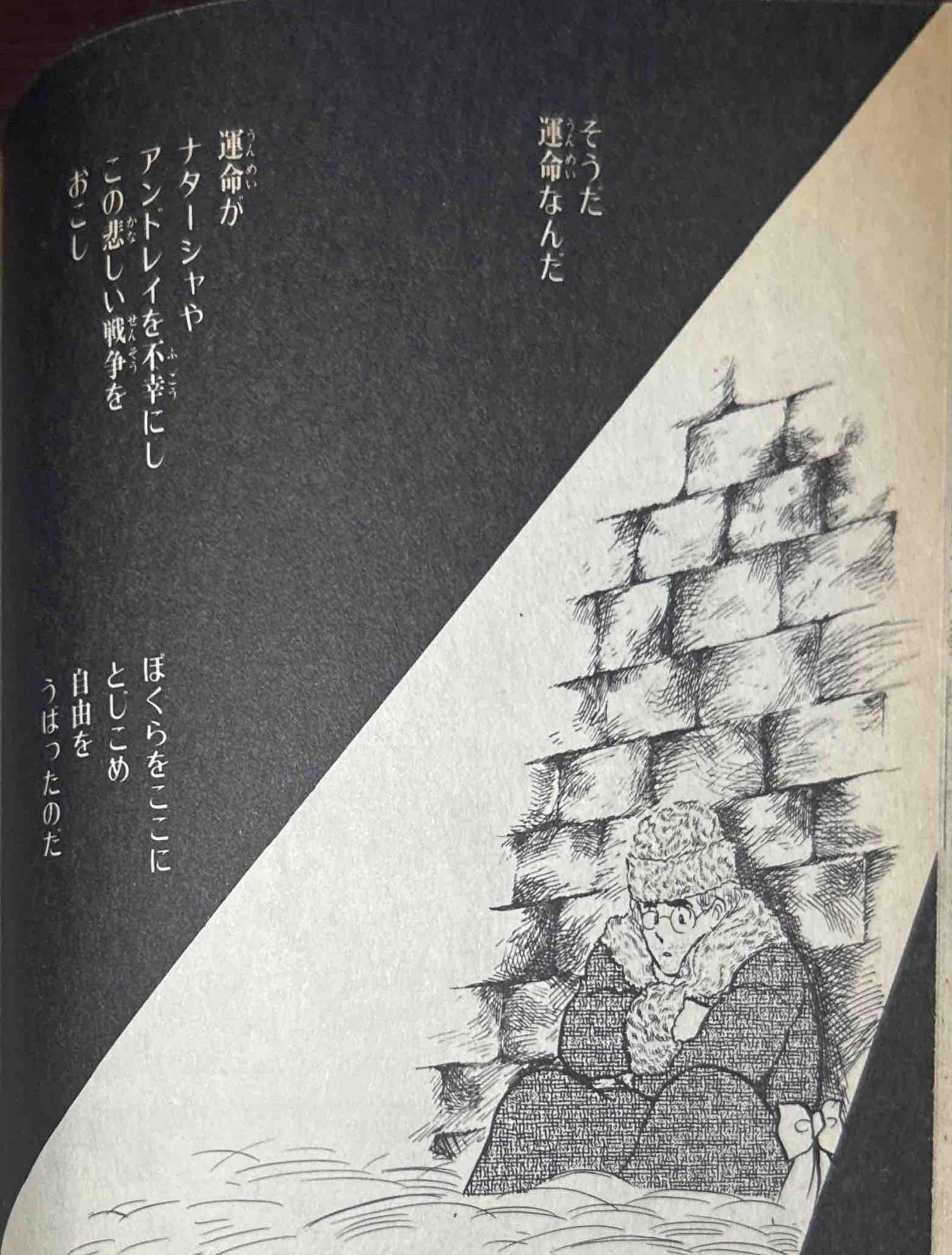

この兵士たちか…？
ちがう 彼らはこんなにおびえてる…
ではあの元帥か…？
ちがう… 彼でもない…
ではだれ？

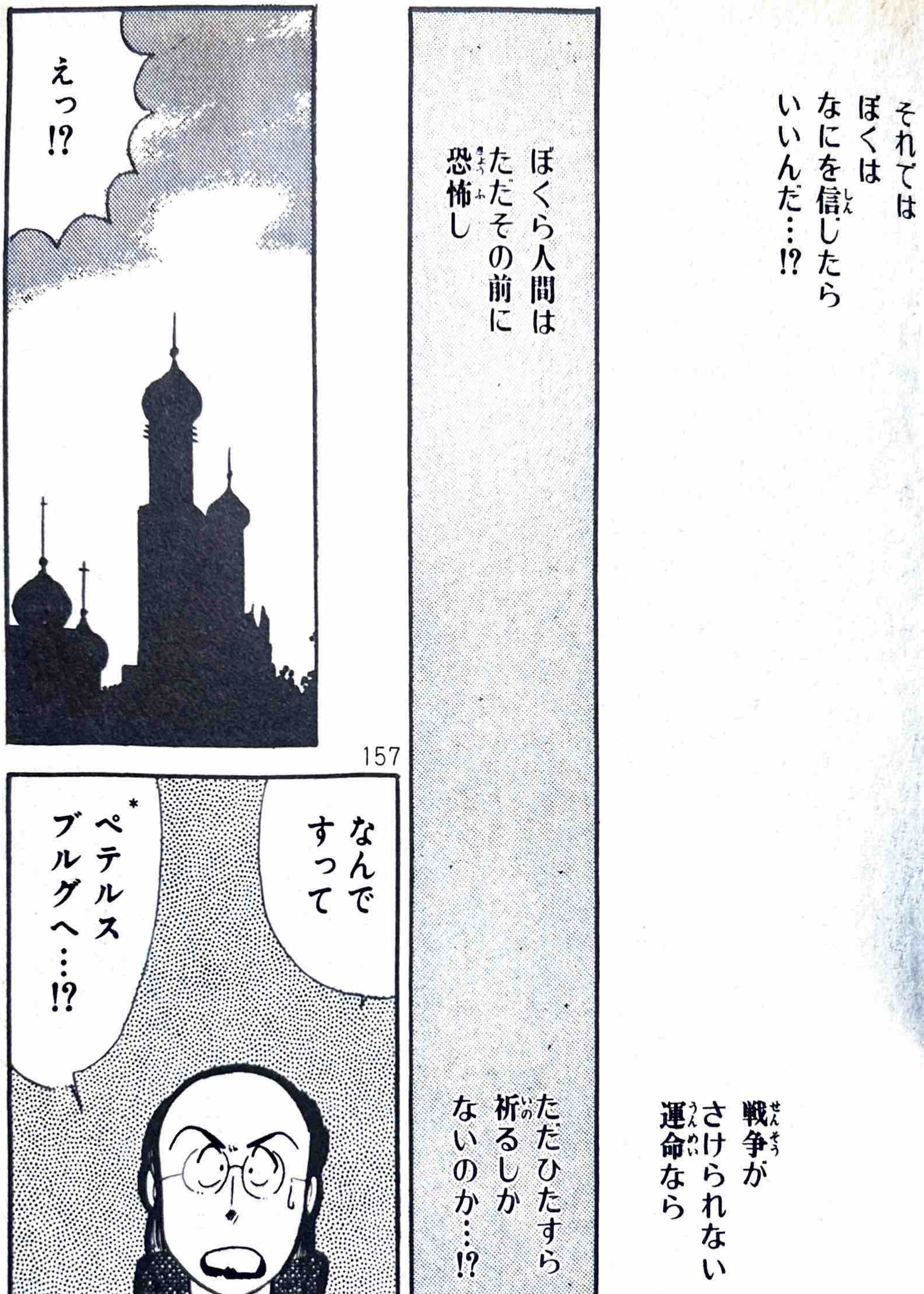
いよいよか…!!
そのメガネはいい


銃殺は終わりだ!!
若いもんはくよくよしねえこった
苦しいのはいっとき
だけど人生は百年というでな

きみは？
あっしは カラターエフ
アプシロン連隊の 者でさあ
今日の銃殺 見たろう？
最後に 殺されたのはまだ 少年だった
罪深いこった だが嘆いても どうなることでも ないやね
神さまは なんでも おみとおしだ ――だから
苦しんでる 者がいれば 苦しみを といて…
すべてを お許しくださり おそばに 召してくださる…
慈悲深い こった
人間だれでも いずれは 死ぬのが運命 だからね

155


そうだ
運命なんだ
運命が
ナターシャや
アンドレイを不幸にし
この悲しい戦争を
おこし
ぼくらをここに
とじこめ
自由を
うばったのだ
そうだ
ボロジノの
ロシア兵も
フランス兵も
あの元帥も
ナポレオンも
ぐすん
みんな運命に
もてあそばれて
いるんだ…


それでは
ぼくは
なにを信じたら
いいんだ…!?
ぼくら人間は
ただその前に
恐怖し
戦争が
さけられない
運命なら
ただひたすら
祈るしか
ないのか…!?
えっ!?
なんで
すって
*ペテルス
ブルグへ…!?

*いまのレニングラード

もうすぐ
冬がくる
モスクワの
糧食は
底をついてる
はずだ…
われわれも苦しいが
ナポレオンもきっと
苦しんでいる…
将軍…!!

なに!?
もう一度 いってくれ
ナポレオンが モスクワを 去ったというのか?
はい
フランス軍は 撤退を 開始しました
すでに 敵前衛は コミンコフスコエ 達しています …!!
お… おお !!
神よ!! よくぞ われわれの ねがいを…
ききとげて くださいました

ロシアは救われました
神よ感謝します…!!

第8章　終わりのはじまり

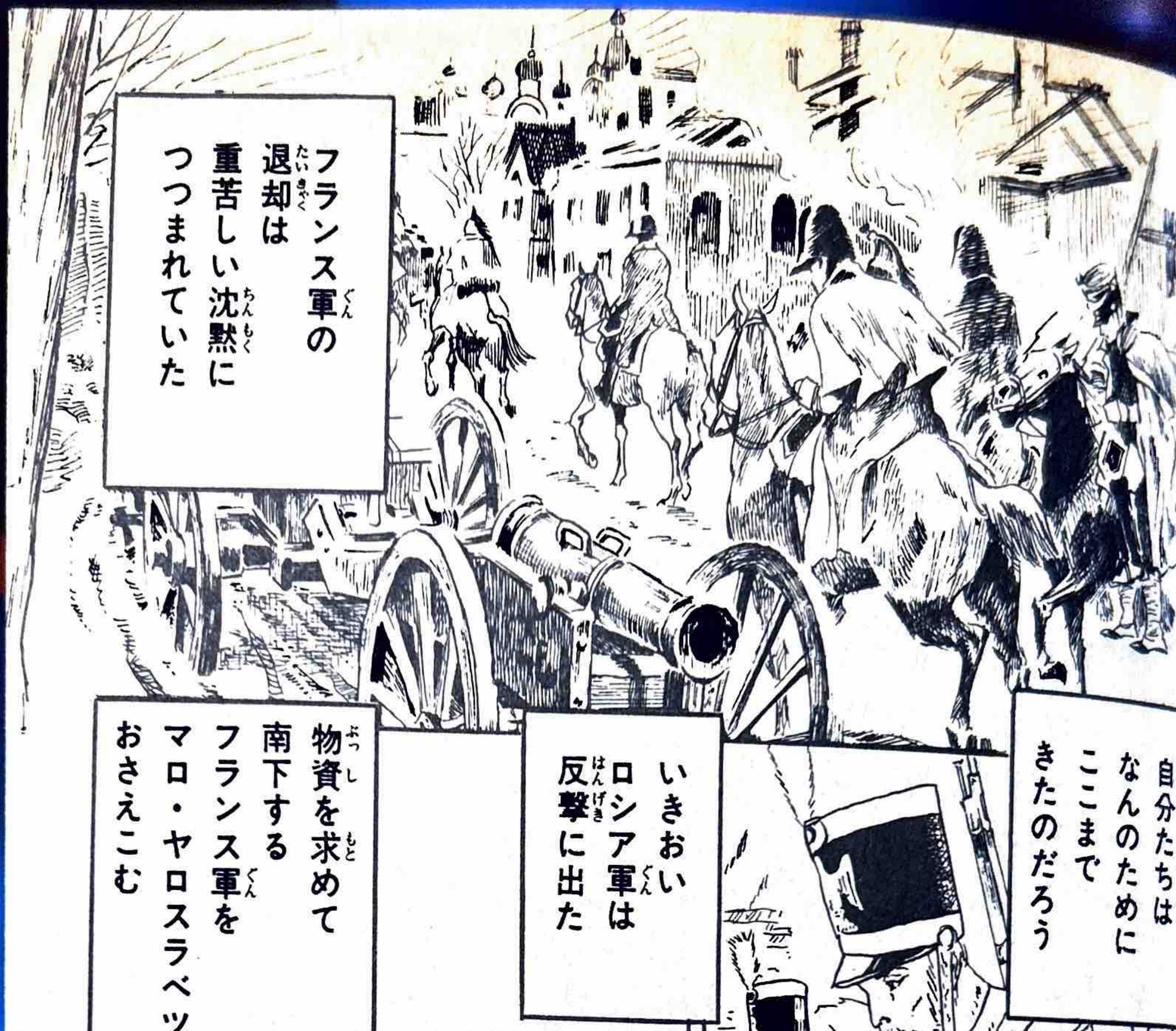
ナターシャ…？
ナターシャ なぜきみが ここに？
アンドレイ
そうか これこそ 神の おみちびきだ
アンドレイ わたしを許して

164

許す…?
…なにを許すんだ
ナターシャ
ぼくの傷は
致命傷だ
でも
なぜ
死んでないと
思う?
それはぼくが
この国や
家族や
そして
きみを
愛してる
からだ
ナターシャ
愛がぼくを
この世に
ひきとめて
いるのだ
愛こそが
生きる力
だったんだよ
じゃあ
じゃあ
大丈夫ね!!
助かるわね
傷なんか

165

きみにあえて
このことを
伝えることが
できただけで
ぼくはもう
満足だ…
数日後
アンドレイは
ナターシャに
みとられて
この世を去った



フランス軍の退却は重苦しい沈黙につつまれていた
自分たちはなんのためにここまできたのだろう
いきおいロシア軍は反撃に出た
物資を求めて南下するフランス軍をマロ・ヤロスラベツでおさえこむ
モスクワ
フランス軍
ボロジノ村
マロ・ヤロスラベツ
ロシア軍
カルーガ
自分たちにとってこの遠征はなんだったんだろう

このため
フランス軍は
進路を転じ
進入路と
同じルートを
たどらなければ
ならなくなった
ウィルナ
ウィテブスク
スモレンスク
ボロジノ
モスクワ
モロデジノ
クラスノエ
この路は
進入時に
彼らを苦しめた
不毛の大地である
十一月三日
はじめて
雪がふる
ちっくしょう!!
こんなもの
もってても
邪魔になる
だけだ!!
兵士たちの
多くは
掠奪品を
すてる
ゴツ

うっわー
さすが〜い 近衛兵は ひろってくるもんが ちがうなあ…
ルノール!!
ソラーノさん
これ ひろったんだ もってけよ
こんなのまで すてていって すてたやつ 先行って 苦労するぞ
どうかしたん ですか?
いや
帰れるかな ……と 思って…

やだなあ こんなとこで 死んだら
なんだか わかんないじゃ ないですか
そうだね
でも いいんだ
死んだら 身軽になって ――みんなより早く 国へ帰れるかも しれない
やがて
猛烈な 寒さが おそってきた

兵士たちの多くは凍傷で指を失っていた
また食物がないので
死んだ馬の血を煮て飢えをしのいだ
多くの兵が落伍した
あるものは凍死し
そしてあるものは
コサックだ!!

助けてくれ
戦友
おいて
いかないでくれ!!
フランス軍が
傷ついた
野獣なら
ぎゃあ
あ!!
コサックは
飢えた
ハイエナだった
彼らは
遠征軍の側面に
ぴったり食いついて
えものが
弱っていくのを
待ち続け
脱落した
兵士がいると
ようしゃなく
おそいかかり
惨殺し
身ぐるみを
はいだ

クツーゾフの本隊もぴたり側面についてきて
フランス軍をせめたてていたのだが
われわれは腕をくんでながめてるだけでいい
彼らは容易には攻撃をしかけなかった
あとは雪とコサックが
仕末をつけてくれる
実際そのとおりだった
フランス軍は側面攻撃に追いたてられ行軍を休むこともできず
すさまじいいきおいで解体していった

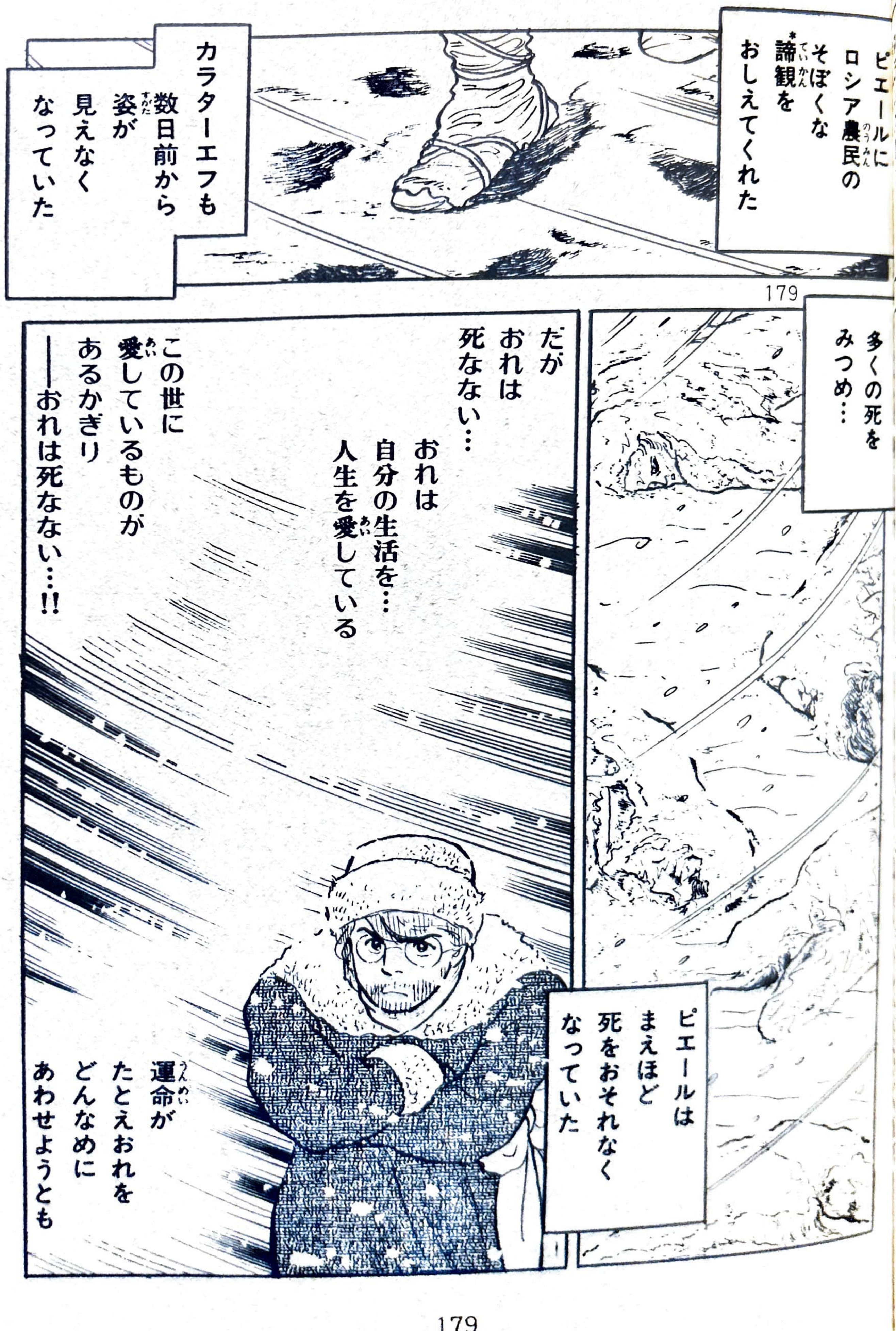
ゲホッ
ゲホ
ゲホッ
元帥…!!
なんでもない…!!
ただの風邪だ
ゲッ
ゲッ
元帥 数日前からほとんどなにもたべてないんじゃ…
わたしの馬を殺させましょうか
ばか!! 馬は大事だ ちゃんと食べてるよ 見てないところで
おれの心配なんかしてるひまあるなら後ろへ行って落伍兵をせきたててこい
でも…
早く行け!!

ちくしょう!!
あの人食い鬼の野郎め おれたちをこんなとこへつれてきやがって…
おい やめろよ 失礼だろ
あのときクレムリンで
陛下と一緒に死んでしまっていたら
元帥!!
これ食べてください

な…？
…な…
さがしちゃいました
馬車にのってると思ってたからおれ…
恩がえししたくって…
おまえ…
おまえはいいのか？食ってるのか
はい大丈夫です
おれ陛下のために戦いにきたんです
こんなとこで凍え死ぬのはいやです
そうか
そのメガネは？
そうだな
友だちのです
けさ死にました

死んで
国に帰ったんです
——おれも絶対帰ります
おれの
足で
じゃー
失礼します
ひよこ
ひよこ

97
98
ピエールはロシア軍の捕虜とともにフランス軍の行軍に従っていた…
死んでしまえば——だれでも一緒だ…
そうさ
人間だれでも
いつかは死んじまうんだからな


ピエールにロシア農民のそぼくな*諦観をおしえてくれた
カラターエフも数日前から姿が見えなくなっていた
多くの死をみつめ…
ピエールはまえほど死をおそれなくなっていた
だがおれは死なない…
おれは自分の生活を…人生を愛している
この世に愛しているものがあるかぎり
――おれは死なない…!!
運命がたとえおれをどんなめにあわせようとも

179

たとえ体がくさりにしばられていようとも
おれの心は自由だ…!!
ザッ
どでっ
そうだ運命などに支配されない…!!
おれは…おれの意志で生きる…!!
コサックだ
ああ

181

ピエールじゃねえかおめえ!!
なんだってこんなとこに…
ばかやろうおれだ!!
このカオを見わすれたか!!
じゃじゃじゃじゃーん!!
流れ流れてコサックの隊長やってんだよーい
だ…
だれ?
ド…ドロホフ!!
ははは!!なんだばか泣くこたねえだろが!!
ポコ

助かった…!!
十二月二十三日
クツーソフに
ベレジナ河畔においつめられた
ナポレオンと大軍団は
決死の
強行渡河の
準備とともに
いざというときのため
軍旗を焼いた

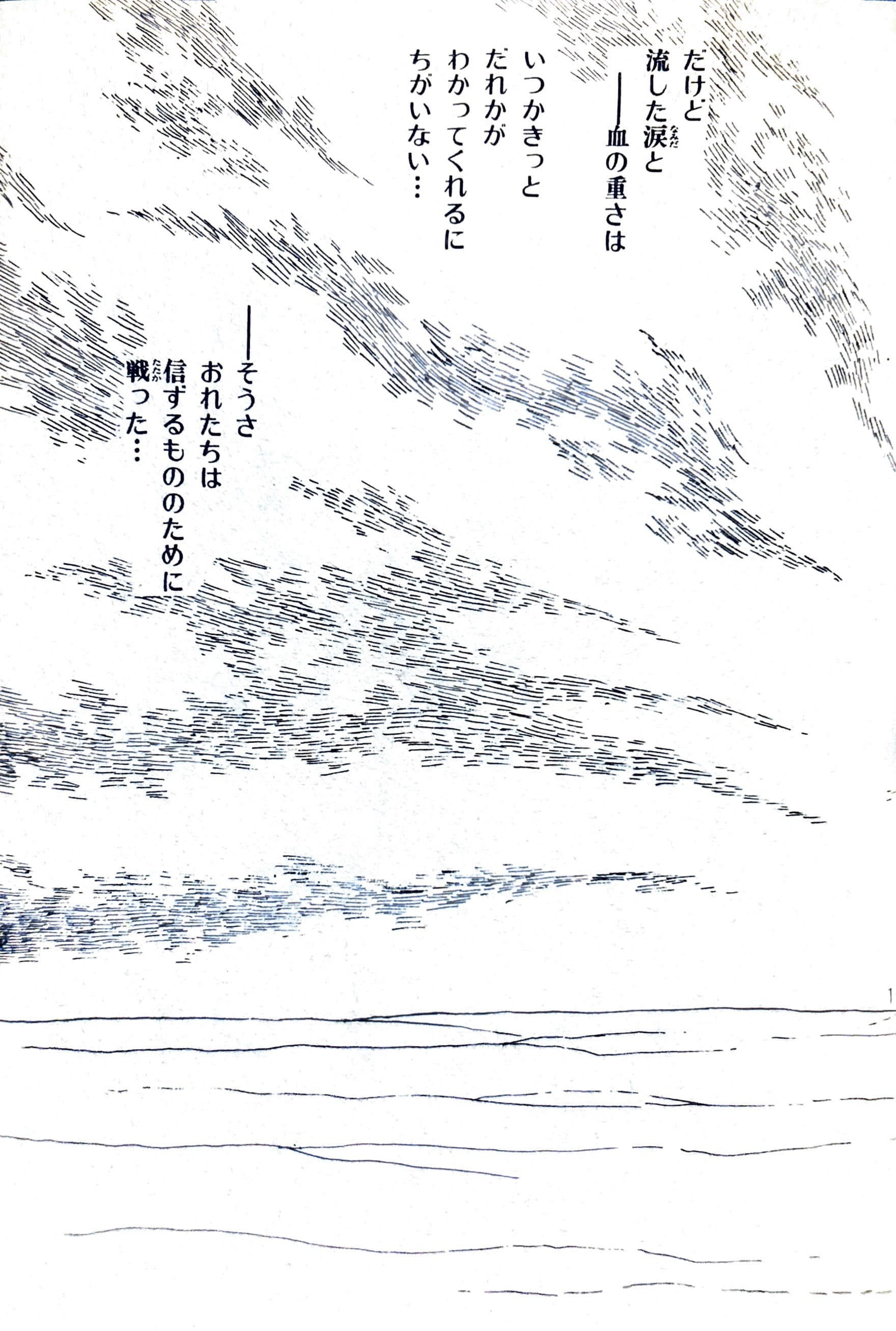
アウステルリッツ
イエナ　アイラウ
フリードランド
ワグラム……
男たちが
自らの血を流し
この旗にきざみつけた
栄光の地名が
JENA

ひとつ……
またひとつと
炎のなかに消え
灰と化し…
ロシアの大地の
雪にうもれていった
ヒック
ヒック

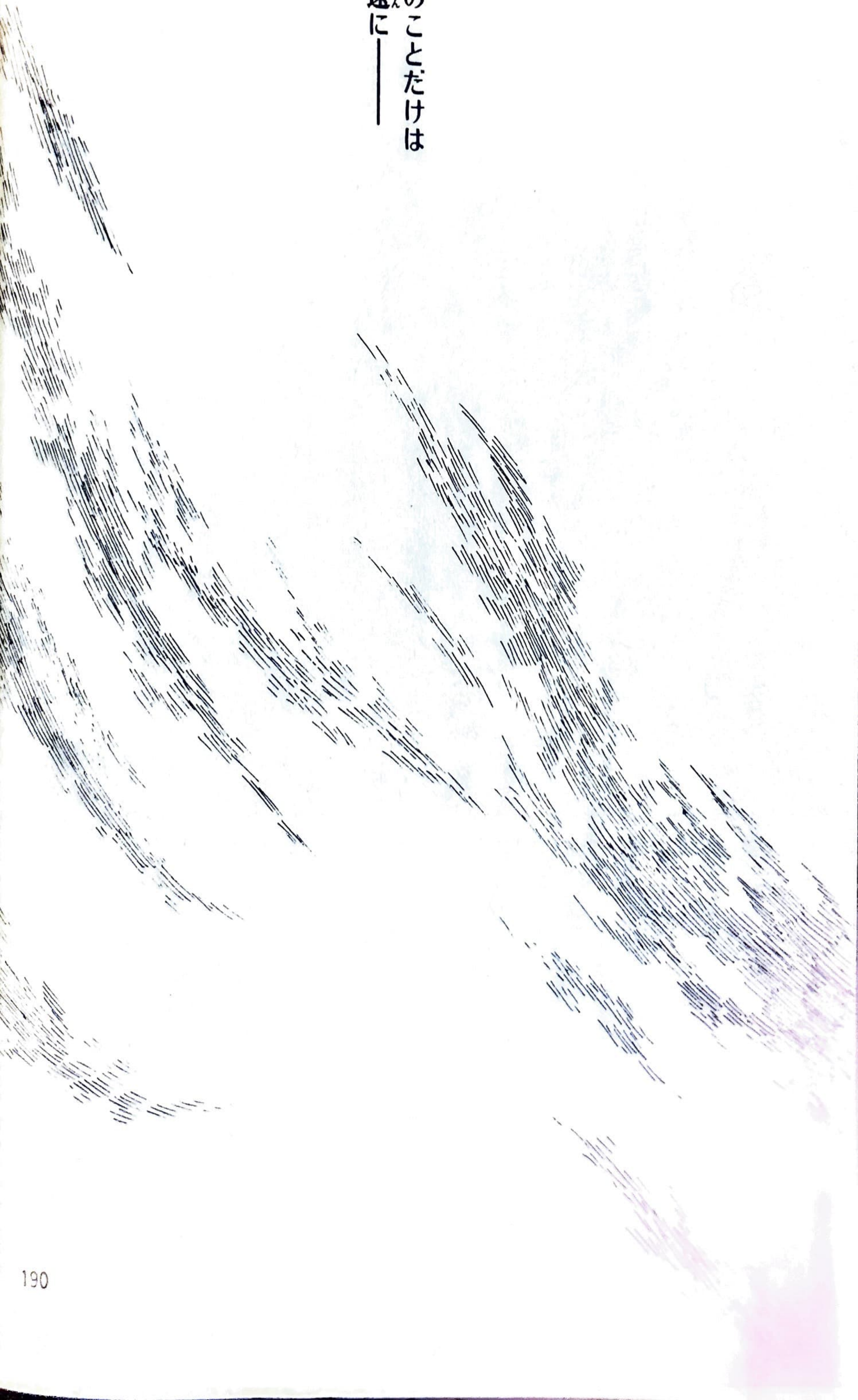
十一月二十六日から
二十九日にかけて
強行渡河作戦は
*敢行された
*思いきっておこなうこと。
死者二万四千人
対岸にのこされた
八千人の捕虜は
ロシア兵に
惨殺された
十二月五日
ナポレオンは
全権をミュラにたくして
一足先にパリへ帰った
ひどいな—— こんな軍隊があるかいな
カ〜っ
わいかて一国の国王やで
ミュラは1808年にナポリの国王になったのです
こんな軍隊と運命をともにはでけへんで
今回は出番がすくなかったなら きげんが悪いんや
ナポリ王は軍を見すてるつもりでしょうか
アホのする事はわからん
さあな

あいつだけじゃない
こんなありさまを
見ちゃ…な
ゴホゴホ
元帥は？
自分は
いつでも
陛下と
フランスのために
戦ってきた
だから
陛下と祖国が
あるかぎり
ハックション
自分は
戦いつづけるさ
——自分には…
それしか
できんのが
…やっと
わかったよ…
わたしも
そうです

これからも一緒ですね
遠征は終わった——
おれたちのやったことは
ばかなことだったかも
——無駄なことだったのかもしれない
188


だけど
流した涙と
——血の重さは
いつかきっと
だれかが
わかってくれるに
ちがいない…
——そうさ
おれたちは
信ずるもののために
戦った…

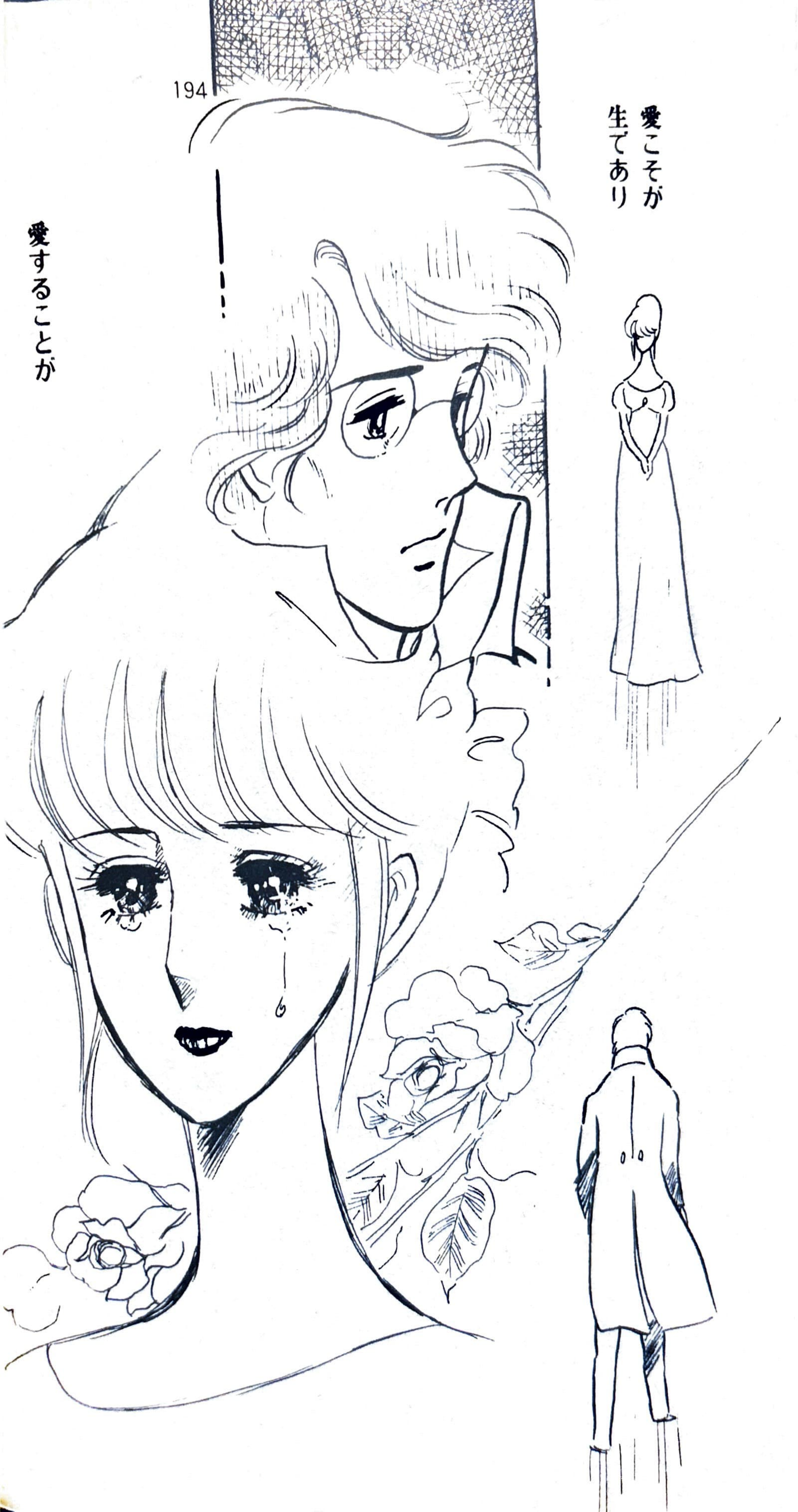
このことだけは
永遠に——



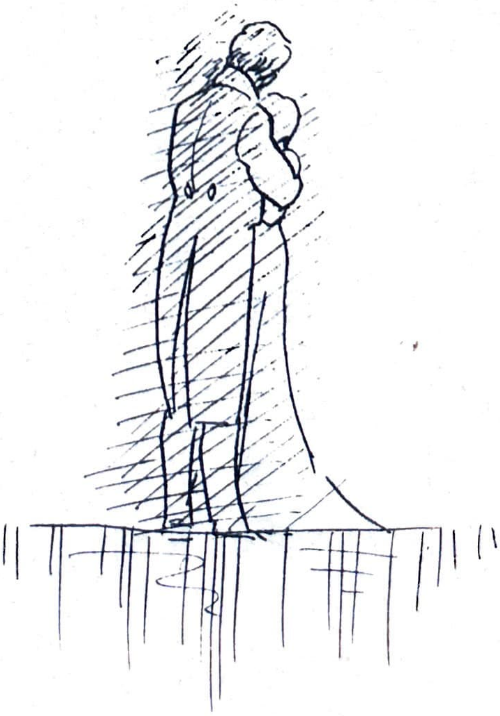
エピローグ
救出されたピエールは安堵感からか病気になり三カ月ほどねこんでしまった
彼がモスクワにもどったのは一八一三年の春だった

これがあの荒(あ)れはてたモスクワか…
そうだ嵐(あらし)にあって枝(えだ)をおられた木でも
春になればまた芽(め)ぶくことができる
人間も都市も
よみがえることができるんだ…

ペテルスブルグで妻の
エレンが死んだことと
ボロジノで重傷をおった
アンドレイがナターシャにみとられて
死んだことを知った
アンドレイが
死の直前に
言い残した言葉が
自分が
苦難の末に
たどりついた
結論と
同じだった
ことに
おどろいた


愛こそが
生であり
愛することが

生きることなのである



おわり

恋に恋したナターシャに自分を重ねた十九歳の頃

F・モレシャン

■フランス生まれ。ソルボンヌ大学卒業後、シャネル美容部長として来日。現在ライフ・コーディネーターとして幅広く活躍中。ベストセラー「失敗しないおしゃれ」など著書多数。

『戦争と平和』を読んだとき、わたしは十九歳。ちょうどナターシャと同じように、自分の魅力に気づき始めた年頃です。

その頃、わたしにも真面目なボーイフレンドと落ちついた素敵な男友だちがいて、不良っぽい男の人にちょっと恋をしていました。

ですから、ナターシャの気持ちはよくわかります。不良っぽい男性にはまた、運悪く魅力があるんですね。そういう男性にちょっと魅かれてしまうのは、浮気ではなくてとても純粋で人間らしいことだと思います。

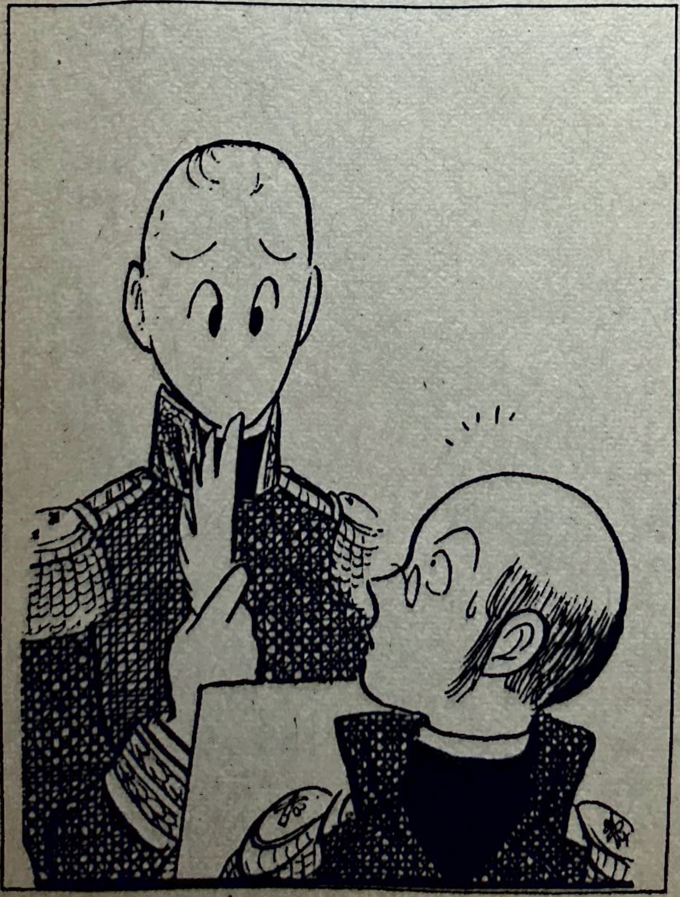
プリンス・アンドレイはとてもエレガントで素敵な人ですが、すぐに戦争に行ってしまったので、読んでいるわたしもナターシャのように彼のことは忘れて、アナトーリとの恋に夢中になっていました。わたしの祖父母はロシア人と同じスラブ系なので、ナターシャとわたしはどこか似た感覚を持っていたのかもしれません。

ナターシャは恋に恋してしまっただけで、決して悪い女の子ではありませんから、最終的には誠実なピエールと結婚しました。

わたしはそのとき好きだったどの人とも結婚しませんでしたが、わたしと同じように何人かの男性に恋をしていたナターシャにとても興味があって、彼女のドレスやしぐさや心の動きのひとつひとつを自分と比べながら読めたことはとても心に残っています。

大変だったのは長い戦争の場面とわかりにくい名前。みんな同じ名前に思えて、前のページを読み返さないとだれがだれだかわから

なくなってしまうのです。
　それからもうひとつ、文学作品の場合は特に、その国の民族性や文化を知っていないと理解するのがむずかしいということです。ですから日本人が外国文学を理解するのは大変だろうと思うことがあります。
　わたしも『戦争と平和』を読んだ頃はロシアに行ったことがありませんでしたし、主にラブストーリーや華やかな舞踊会のほうに興味があったので、作品をどの程度理解していたのか自信はありません。
　けれどあとになって、貴族社会を支えていたのは農民の血と汗と涙なのだということや、作品に描かれなかった貴族たちの生活を考え、知るようになり、同じ作品に対しても以前とは違う見方をするようになりました。
　たとえば女の子たちは、お金持ちの家にお嫁に行くこととか、今日着て行くドレスのことしか頭になかったのですから、女性としてすばらしいとは思えませんし、ごく一部の人間がぜいたくの仕放題をしていたあの時代がよかったとも思いません。しかし、そういう貴族たちが、現在残っている数多くの芸術や生活様式を生み出したことも事実なのです。
　この『ハイコミック名作シリーズ』では、衣装から風景まで忠実に再現されているので驚きましたが、これをきっかけに、読者のみなさんが本物の文学にふれることができれば作品をより深く、より正しく理解できると思います。



作画●岸田恋（きしだれん）&スタジオゼータマルタ

岸田恋です。私たちのやった事は馬鹿な事で無駄な事だったのかもしれません。でも私たちは途方もない事に挑戦しました。これからも挑戦し続けるでしょう――

協力
金田太郎
森田利雄
大木　毅
木村玉絵

スタジオゼータマルタ
ＪＵＮ　幸地比佐子　日向秀
スオミフム　野口博史　吉村
剛　椰都於瑠　白吹潤　神紅
竜　立野ゆきえ　星隆　りん
すーるん　池田俊一　羽ヶ谷
狼　正岡武士　渋谷ぱーこ
国分マン研ＯＢ会　その他、
いろいろはげまして下さった
みなさま、ありがとうございました。

構成●恋塚　稔（こいづか　みのる）

昭和12年東京に生まれる。東京教育大学附属駒場高校（現・筑波大学附属駒場高校）を経て、昭和35年早稲田大学文学部仏文科を卒業。出版社勤務・経営ののちに文筆業に専念。

作品は『ミスターは死なず（正・続）』『テレビに映らない後楽園球場』『長嶋茂雄大研究』『狐ものがたり』『虚構の館』『春の海殺人事件』『みかんの花咲く丘』などがある。

♥このハイコミック名作の企画は、古くから読まれつづけている世界の名作をコミックで親しみやすく読んでいただくために始めたものです。この物語を読んでみなさんのお父さんやお母さんと一緒(いっしょ)にいろいろなお話ができれば幸いと思います。また、将来あなたに子供ができたときにはお話ししてあげてください。

♥この本を読んだご意見やご感想、その他お気づきになったことなどおたよりお寄せください。

＝あて先＝

〒145 東京都大田区上池台4—40—5

学研 ハイコミック名作編集部「戦争と平和」係

ハイコミック⑫ **戦争と平和(下)**

NDC726 200P 182mm

作画 ©岸田 恋／構成 ©恋塚 稔

装丁 アートジャパン 村松幹三

編集長 福代 徹／編集制作 (株)エディック

編集人 佐藤 昭

発行人 鈴木泰二

発行所 株式会社学習研究社

〒145 東京都大田区上池台4—40—5

電話 03(720)1111

振替 東京8—142930

印刷所 株式会社廣済堂

この本に関するお問合せ、製本上のミスなどがありましたら、下記あて文書または電話でお知らせください。

〒145 東京都大田区上池台4—40—5 電話 03(720)1111

学研 お客さま相談センター「ハイコミック名作」係

148 412

ISBN4—05—101527—0

Printed in Japan